

令和3年度 本部事業報告書

社会福祉法人 ささゆり会

令和3年度の運営スローガンは、『コロナ感染防止で経営力強化を！』になっております。

令和3年度は、4月に介護報酬改定がありました。介護報酬改定が0.7%引き上げられました。新型コロナウイルス感染症に対応するための特例的な評価として令和3年9月末までの間で0.05%含まれました。そして、ICTを活用したLIFEが重要になっています。

3月に姫路市辻井7丁目に新しく社員寮（18人住居）が完成しました。令和3年8月31日に社会福祉法人ささゆり会の社員寮の入札がありました。入札には6社の入札があり、入札価格は、126,500千円で落札されました。看取り部屋の整備事業で看取り部屋を2,250千円で看取り部屋を整備しました。

地域貢献事業として、子ども食堂ですが、コロナ禍の為に中止しておりました。ただ、緊急事態宣言等がない場合はできる限り感染対策を行なった状態で子ども食堂は行いました。本年度は3回の開催になりました。

令和3年8月に受け入れ予定のベトナム人EPA候補生がコロナの影響で入国が遅れております。受け入れ予定日は、令和3年11月15日になります。受け入れ予定施設は特別養護老人ホームサンライフ魚崎1名、介護型ケアハウスサンライフ魚崎1名の合計2名が配属予定になっております。介護福祉士の合格者が、21名合格しています。その内、外国人の合格者は14名合格しています。

感染対策を行ない、面会を行う際は、人数制限と時間を設けており、ワクチン接種証明の提示が確認された家族だけ面会を可能としています。緊急事態宣言が解除になった時には、面会の人数を制限がありますが積極的に面会をしてもらいます。家族様との面会もオンラインでできるようにzoomのソフトウェアを利用してオンラインで映像と音声で会話ができるように行いました。2月にはサンライフ御立とサンライフ土山でコロナウィルスのクラスターが発生しました。収束に1ヶ月程かかりました。サンライフ御立では、利用者43名、職員13名の陽性者が発生する状況となり、永眠者（罹患、廃用によるレベル低下、入院者含む）5名が出る結果となりました。サンライフ土山では、利用者34名、職員12名の陽性者が発生する状況となりました。机等にはアクリル板でパーテーションをし、飛沫感染のリスク回避を行っています。また、アルコール、手袋、マスクなど余分に備蓄し対応しました。

コロナ禍で、魚崎特養、ケアハウス魚崎、御立特養、御立ショート、土山ショート、岡田小規模、岡田デイが売上増です

令和3年度ささゆり会重点課題は、事業計画に挙げた下記3つの重点項目である。

1. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・新型コロナ感染対策
 - ・外国人技能実習生受け入れ
2. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・ICT導入による業務改善
3. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
 - ・EPA(経済連携協定)、技能実習生、特定技能生の採用と育成

以下、令和3年度の事業推進結果を主要運営の経緯・施設経営と介護サービス・会議と大別して、その概要を報告する。

1. 主要運営の経緯

I. 定款の変更と諸規程の改正

- R3. 6. 10 社会福祉法人ささゆり会諸規定の制定及び改定について
- R3. 6. 25 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
- R3. 8. 31 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
- R3. 12. 9 社会福祉法人ささゆり会諸規定の改定について
- R4. 3. 15 社会福祉法人ささゆり会諸規定について

II. その他行事等の主要運営

- R3. 4. 1 サンライフ御立入社式、サンライフ魚崎入社式
- R3. 6. 2 第1回監事会
- R3. 6. 10 第1回理事会
- R3. 6. 25 定時評議員会
- R3. 6. 25 第2回理事会
- R3. 6. 30 献血(サンライフ御立)
- R3. 7. 22 第3回理事会
- R3. 7. 27 第4回理事会
- R3. 8. 31 第5回理事会
- R3. 9. 7 第6回理事会
- R3. 11. 4 第2回監事会
- R3. 12. 9 第7回理事会
- R3. 12. 20 第1回臨時評議員会
- R4. 3. 15 第8回理事会
- R4. 3. 24 第9回理事会
- R4. 3. 25 第2回臨時評議員会

2. 施設経営と介護サービス

I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実

姫路市辻井7丁目に新しく社員寮の建設を行い、外国人職員の受け入れ準備

II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築

サンライフ御立の特養3階と4階に見取り部屋の工事を行いました

III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保

EPA 候補生は、魚崎2名の入社となりました。本年度のEPA 候補生はコロナ禍の影響もあり入国が遅れました。

IV. 地域貢献事業等の推進（介護実習等）

姫路事業所

受入先	人数
関西福祉大学	6
姫路福祉専門学校	5
神戸福祉医療大学	3
兵庫県立龍野北高等学校	3
神戸総合医療専門学校	2
四天王寺大学	1
姫路市医師会看護専門学校	20

合計 40

魚崎事業所

受入先	人数
兵庫県立総合衛生学院	6

合計 6

ふれあい子供食堂（レストランテ・ヴォーノ西庄）

	12/23	1/13	合計
子ども人数	26	11	37
大人参加人数	1	0	1
ボランティア	3	4	7

※12月はお弁当・プレゼントの配布のみ

ふれあい子供食堂（レストランテ・ヴォーノ田寺）

	4/21	11/17	12/16	合計
子ども人数	14	15	18	47
ボランティア	5	6	9	20

V. 職員の資格取得への取組について

・介護福祉士

サンライフ御立	黒田 珠羅
サンライフ御立	レー ティ クイン チャン
サンライフ御立	グエン ティ トウイー
サンライフ御立	グエン ティ フオン
サンライフ御立	チャン ティ トウエン
サンライフ御立	グエン ティ トウ ハー
サンライフ御立	グエン ティ トム
サンライフ安室	三木 悦子
サンライフ土山	東郷 弘子
サンライフ土山	グエン バン トウアン
サンライフ土山	ブー ディン トン
サンライフ土山	ブー ティ フエン チャン
サンライフ土山	チェン ボオユー
サンライフ魚崎	赤澤 凜
サンライフ魚崎	江口 光
サンライフ魚崎	ホアン ティ フオン
サンライフ魚崎	グエン ティ ウエン
サンライフ魚崎	ファム ティ ビック グエット
サンライフ魚崎	グエンティリー
サンライフ魚崎	福中 京子
サンライフ魚崎	柳川 紗智子
合計	21名 (内外国人 14名)

・介護支援専門員

サンライフ御立	清原 みちる
サンライフ魚崎	迫 かおり
サンライフ魚崎	今井 澄枝
合計	3名

3. 会議

定款の変更、規定の改正、事業計画及び事業報告、会計予算及び決算、介護に関する業務の執行状況や財産状況の整理のため、以下の会議を行った。

I. 監事会・理事会・評議員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第1回監事会	1. 令和2年度事業報告・決算などの監査	R3.6.2	御立 2F

			会議室
第1回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度監事監査報告 2. 令和2年度事業報告承認について 3. 令和2年度会計決算承認について 4. 新理事・監事の推薦について 5. 福祉充実残額、充実計画の上程議案について 6. 管理者の変更について 7. 定時評議委員会の議案承認について 8. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改定について 9. 辻井7丁目、職員寮建設について 	R3.6.10	御立 2F 会議室
定時評議員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度監事監査報告 2. 令和2年度事業報告承認について 3. 令和2年度会計決算承認について 4. 福祉充実計画の承認について 5. 新役員の選任について 	R3.6.25	御立 2F 会議室
第2回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理事長、業務執行理事の選定について 2. 評議員選任・解任委員の選任について 3. 次期評議員候補者の評議員選任・解任委員会への推薦について 4. 評議員選任・解任委員会の開催日時、議案等について 5. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 	R3.6.25	御立 2F 会議室
第3回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員寮（姫路市辻井7丁目419番）新築工事入札条件（資料8月2日公告分）について 2. くすのき介護福祉事業協同組合への追加出資について 3. 管理者の変更について 	R3.7.22	御立 2F 会議室
第4回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. サンライフ御立外壁調査及び外壁改修工事の契約について 	R3.7.27	書面決議
第5回理事会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員寮（姫路市辻井7丁目419番）新築工事入札について 2. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 	R3.8.31	御立 2F 会議室

第6回理事会	1. 社員寮建設の工事請負契約書の締結について	R3.9.7	御立 2F 会議室
第2回監事会	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題	R3.11.4	御立 2F 会議室
第7回理事会	1. 令和3年度上半期事業報告について 2. 令和3年度上半期会計決算報告について 3. 令和3年度上半期監事監査報告について 4. 令和3年度第1次補正予算(案)承認について 5. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 6. 管理者の変更について 7. 第1回臨時評議委員会の招集の件 日時、場所、議題等の決定について 8. サンライフ魚崎 介護入浴装置と温冷配膳者の入札について	R3.12.9	御立 2F 会議室
第1回臨時評議員会	1. 令和3年度上半期事業報告について 2. 令和3年度上半期会計決算報告について 3. 令和3年度上半期監事監査報告について 4. 令和3年度第一次補正予算(案)承認について	R3.12.20	御立 2F 会議室
第8回理事会	1. 令和4年度本部・施設事業計画案承認について 2. 令和3年度法人・拠点区分会計第2次補正予算案承認について 3. 令和4年度法人・拠点区分会計予算について 4. 令和3年度第2回臨時評議員会の招集の件 日時、議案承認について 5. 社会福祉法人ささゆり会諸規定について 6. 地域包括支援センターの現地指導等の	R4.3.15	御立 2F 会議室

	結果について 7. 管理者の変更について 8. 新型オミクロン株の感染状況報告について 9. サンライフ御立見取り部屋整備事業について		
第9回理事会	1. 遺族育英支援金規定の変更について 2. 役員並びに評議員等報酬規程の変更について	R4. 3. 24	書面決議
第2回臨時評議員会	1. 令和4年年度本部・施設事業計画案承認について 2. 令和3年度法人・拠点区分会計補正予算(案)について 3. 令和4年度法人・拠点区分会計予算案承認について 4. 役員並びに評議員等報酬規程の変更について	R4. 3. 25	御立 2F 会議室

II. 介護保険推進委員会

会議名	内 容	期 日	場 所
第1回介護保険推進委員会	令和3年度上半期事業推進状況報告と課題検討	コロナにより中止	
第2回介護保険推進委員会	令和4年度事業計画の策定案について	コロナにより中止	

特別養護老人ホームサンライフ御立

令和3年度 事業報告書

令和3年度のささゆり会経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」を基に、医務と連携し感染症防止に尽力し、コロナ感染発生時の対応策の作成を行うと共に新規加算算定に取り組んだ。

しかしながら、2月には新型コロナによるクラスターが発生し、利用者43名、職員13名の陽性者、38名の濃厚接触者が発生する状況となり、24日間で終息したものの、永眠者（罹患、廃用によるレベル低下、入院者含む）5名が出る結果となった。再発防止に向け、感染症対策の内容を改め、ガウンテクニックの研修を再度実施したり、ご利用者、職員共に体調管理、報連相の徹底を行い取り組んだ。ほとんどのご家族からは、クラスター発生時、及びその後の対応もご理解いただけ、労いの言葉を頂けた。今後も感染症対策を徹底し、少しでも多くのご家族に安心し、信頼のもとで過ごして頂けるよう努めたい。

また、面会も感染状況をみながら再開したり、Zoomでの面会を行い、毎月の写真付きのお手紙で、少しでもご利用者の状態を知って頂けるように努めた。

職員の介護技術及び、資質向上への取り組みとして、感染対策の中オンライン研修にも積極的に参加するよう努めたが、十分な人数を参加させることができず、また、伝達講習に繋げることも出来なかった。各班でその都度、介護職同氏は勿論であるが、歯科衛生士や作業療法士、看護師などから、研修で得た知識を介護職へ指導、助言するなどには役立てることは出来た。今後も、感染症対策が講じられた研修に積極的に参加できる体制を整え、実施していきたい。

EPA介護職員の退職に歯止めがきかず、昨年度の合格者4名は既に退職し、今年度の合格者6名中5名、また、技能実習生の退職も予定している。今後は特に特定技能生や技能実習生といった外国人職員の育成時には、介護福祉士取得を目指しながら、よりコミュニケーションを図り、介護福祉士取得後も継続的に働きたいと思える環境整備に努めたい。日本人職員においても、産休・育休取得予定者もあり、復帰者も時間制限が出てくる予定であるため、日本人、外国人職員の育成は急務である。

ICT活用事業として導入していた眠りスキャン、眠りスキャンEYE(カメラ)、インカムなどは、クラスター発生時も大いに活用できたため、今後も継続して使用し、様々な活用法を検討し業務効率を上げていきたい。

補助金事業として、各階の看取り部屋(洗面設備、ICT導入)の整備が整ったため、コロナ対策下での看取り対象者のご家族の面会が、より安心の下で実施できるようになった。

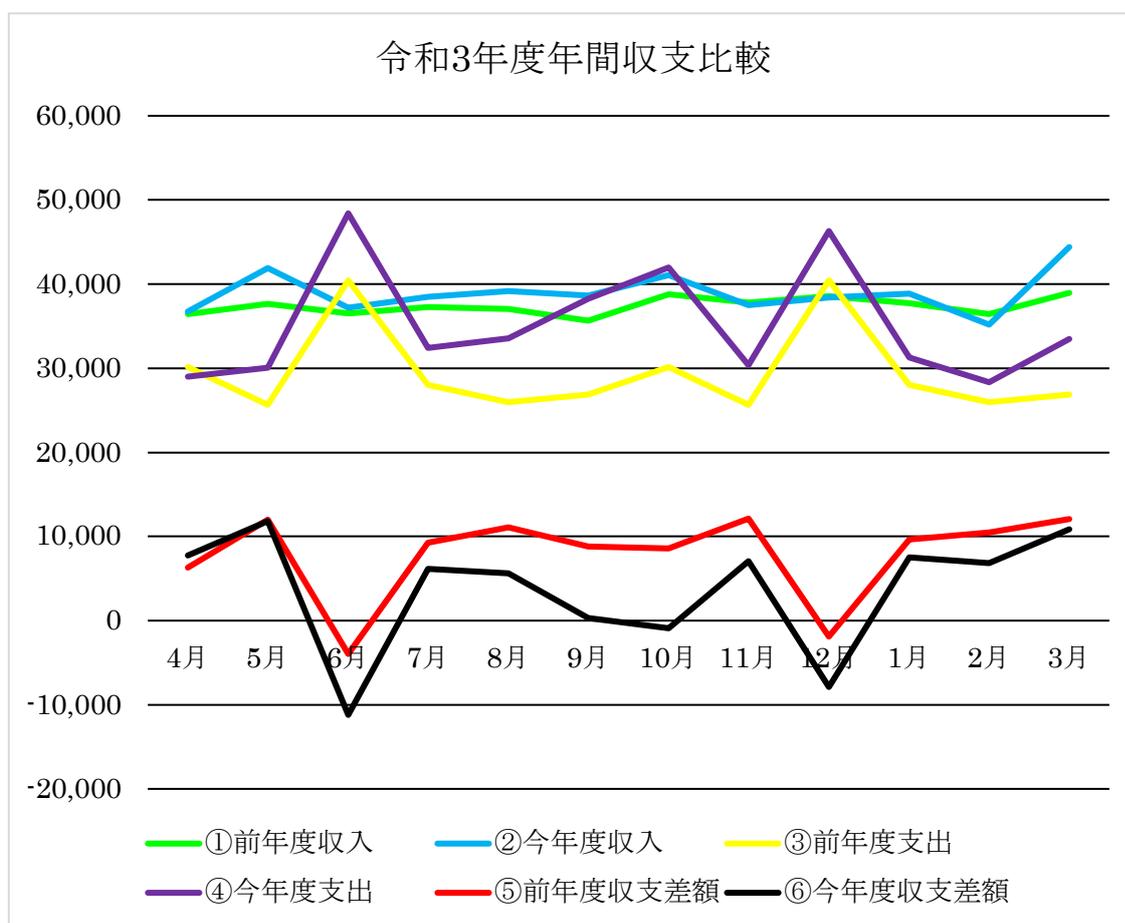
収入としては、クラスター発生による減収が大きく、また新たな加算として、栄養ケア強化換算の算定が1月からとなったこともあり、前年比100%にとどまった。

1. 年間収支比較

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	比率
①前年度収入	36,723	41,886	37,209	38,503	39,166	38,613	232,100	—
②今年度収入	37,776	41,022	37,558	38,250	42,154	38,054	234,814	101.17%
③前年度支出	29,009	30,054	48,412	32,386	33,540	38,286	211,687	—
④今年度支出	30,624	27,410	45,187	28,044	32,629	29,085	192,979	91.16%
⑤前年度収支差額	7,714	11,832	-11,203	6,117	5,626	327	20,413	—
⑥今年度収支差額	7,152	13,612	-7,629	10,206	9,525	8,969	41,835	204.94%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	41,081	37,464	38,390	38,852	35,504	38,040	461,431	—
②今年度収入	38,810	37,607	41,012	38,581	36,509	37,012	464,345	100.63%
③前年度支出	41,989	30,373	46,272	31,295	28,336	33,511	423,463	—
④今年度支出	28,769	39,762	41,786	26,840	30,407	31,669	392,212	92.62%
⑤前年度収支差額	-908	7,091	-7,882	7,557	7,168	4,529	37,968	—
⑥今年度収支差額	10,041	-2,155	-774	11,741	6,102	5,343	72,133	189.98%



2. 利用者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R2年度	2,897	3,041	2,944	3,101	3,082	2,954	17,754
R3年度	2,946	3,039	2,945	3,029	3,061	2,958	17,978
前年度差	49	-2	1	-72	-21	4	224
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	3,072	2,957	3,004	2,997	2,709	3,036	35,739
R3年度	3,012	2,957	2,997	2,991	2,691	2,855	35,481
前年度差	-60	0	-7	-6	-18	-181	-258

3. 稼働率

(単位:%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R2年度	96.6	98.1	98.1	98.1	99.4	98.5	98.1
R3年度	98.2	98	98.16	97.7	98.7	98.6	98.2
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	99.1	98.6	96.9	96.7	96.8	97.9	97.9
R3年度	97.6	98.6	96.7	96.7	96.1	92.1	97.3

4. 入院日数

(単位:日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R2年度	66	37	48	51	18	52	272
R3年度	53	65	47	74	47	44	330
前年度差	-13	28	-1	23	29	-8	58
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	58	56	96	99	78	51	710
R3年度	88	38	105	141	86	60	848
前年度差	30	-18	9	42	8	9	138

5. 特養空床数

(単位:床)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R2年度	103	59	56	51	18	46	333
R3年度	46	60	54	68	44	41	313
前年度差	-57	1	-2	17	26	-5	-20
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	28	43	96	103	91	64	758
R3年度	84	36	104	134	83	59	813
前年度差	56	-7	8	31	-8	-5	55

6. 事故分類別発生数 (単位:件)

	A	B	C	合計
合計	3	3	206	212

A:入院加療を要する事故 B:受診・通院を要する事故 C:受診・通院を要さない事故

Aランク内容:大腿骨転子部骨折・・・2件、腰椎圧迫骨折1件

7. 退所者数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	1	1	1	1	0	0	4
病院	1	0	0	0	0	2	3
急死	0	0	0	0	1	0	1
その他	0	1	0	0	1	0	2
合計	2	2	1	1	2	2	10
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	2	2	1	1	5	3	18
病院	1	0	0	0	0	3	7
急死	0	0	0	0	2	0	3
その他	1	0	0	2	0	1	6
合計	4	2	1	3	7	7	34

サンライフ御立ショートステイ

令和3年度 事業報告書

「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」というささゆり会経営スローガンに基づき、継続して感染防止に力を入れながら、ショートステイを初めてご利用された方にも「楽しかった」と思っていたいただけるようなショートステイを作りに取り組んだ。しかし2月に施設内でコロナ感染が拡大し、約1か月の受け入れ停止によって収益減少など大きな痛手を負った。

1. 感染症対策強化

昨年度から引き続き、換気、手洗い消毒など基本の徹底、送迎時の検温と体調確認を行なった。しかし、令和3年2月特養入居者がコロナウイルス陽性となったことを発端に施設内で感染が拡大、ロングショート利用中の方も1名感染し、そこから約1か月間短期利用の受け入れを停止し、施設内での隔離対応、感染対応をおこなった。感染者が多かった3階にスタッフ2名を応援要員として送り、在宅に戻れないロング利用の方々約18名は、特養入所の方の隔離対応に準じた対応をおこなった。居宅支援事業所各ケアマネージャーにはこまめに情報発信し、ご予約を頂いていた方のサービス調整をしていただいた。コロナ発生を恐れて、それまで定期利用だった方が受入れ再開後も利用中止されることもあった。

2. 利用者の満足度の向上

新規の受け入れは月に数名あるが、新規利用が続くと情報を把握し、積極的にかわることが困難となり、その場その場の対応になってしまっていることが多くあった。季節イベントや、おやつレクは職員も力を入れ、利用者様、家族様に好評を得た。荷物チェックなどの業務に追われ、日常の小さなレクリエーションの実施が難しいことが多かったが、大画面のテレビが来てからは、YouTubeの体操や、昔の歌手のコンサート動画などを流すことで、何もない時間帯を減らすことができた。ただ、レクリエーションの実施に積極的な職員と、優先度合いの低い職員といった差があり、利用中に楽しいと思える時間を作ることの大切さを繰り返し伝えていく必要がある。毎月のフロア会議で、リーダーから発信をおこなっているがなかなか継続しない。軟こう塗布や入浴後の保湿ケアなど、依頼を受けたケアの抜けも目立った。セッティングが出来ていれば、実施を忘れないということで、準備段階での抜けを防止するよう対策を取るが、なかなか改善していない。

3. 介護技術の指導強化

人員に余裕がなく、介護技術の研修などをおこなうことはできなかった。新年度は外国人職員の入職も控えているため特養職員と同様に取り組んでいきたい。

4. 事故防止の取り組みを継続していく

ヒヤリハットを1日5件提出し、事故の発生を防ぐようにすることと、注意喚起のポスターの掲示を継続しておこなっている。フロアを無人にしないために、離れる際の声掛けを意識しておこなった。昨年度の事故件数86件から今年度54件と32件減少することができた。一方で、全介助寝たきりの方の骨折事故があり、介助方法の振り返りをおこなったが、原因はわからなかった。最も安全な方法を全員が統一しておこなうことで、今後同様の事故の発生を防いでいく。

有給取得強化について

1年以上勤務する職員について、年次有給休暇の5日以上の取得、生活支援休暇の取得をすることができた。

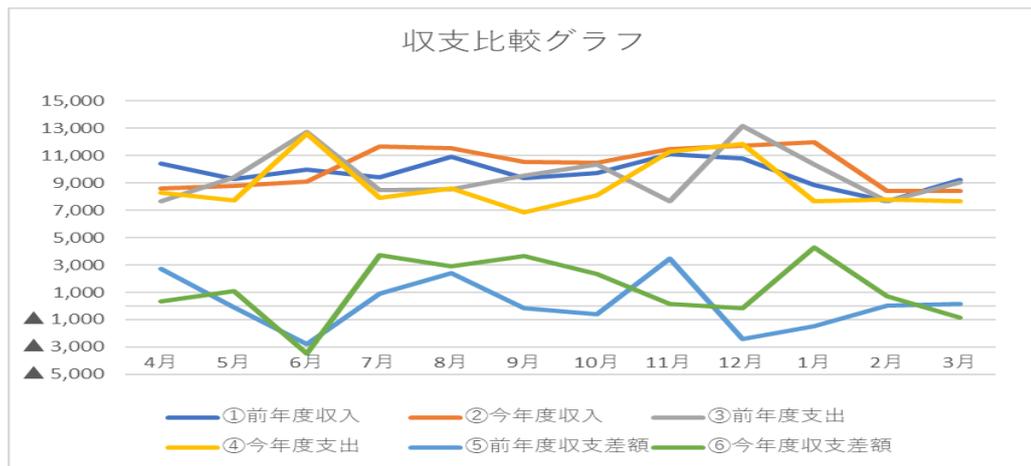
5. 収入の確保について

4～6月は収入が振るわなかったが、それ以降は昨年度の収入を上回ることができていた。しかしコロナ感染拡大での入所制限によって大きく収入減となってしまった。全体としては昨年を上回り、御立全体の修繕費や大型テレビの購入等大きな支出もあったが、前年度差約1400万円のプラスという結果となった。

介護報酬改定にあたり、基本単位数のアップわずかにあったが、新しく算定できる加算がなく、看護体制Ⅱの取得もできなかった。来年度職員数を安定させ、可能な加算の取得を目指したい。特養入所者が相次ぐと、ロングショート利用の方が次々と入居し、次にロングショートの方が入所されるまで間があいてしまう。都度空床情報を居宅支援事業所や病院、老健に発信をおこなっているが、常に待機者を確保しておくことは困難な状況である。普段より緊急の受け入れにも可能な限り柔軟に対応し、声をかけてもらいやすい事業所であることを心掛けている。来年度、定期利用につながるリピーター獲得のため、初回利用に良い印象を持ってもらうよう全員で取り組んでいく。

(単位:千円)

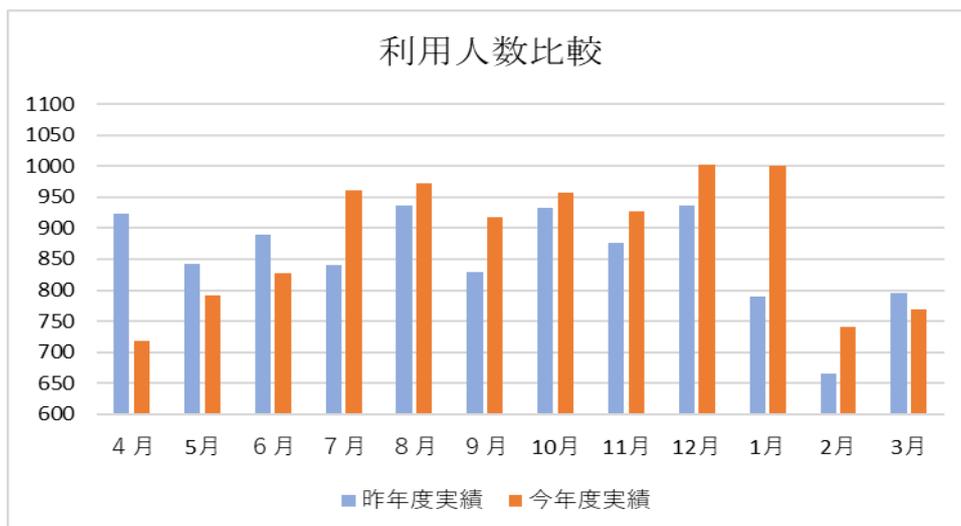
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	10,386	9,302	9,978	9,395	10,897	9,380	59,338	
②今年度収入	8,616	8,809	9,105	11,642	11,559	10,512	60,243	102%
③前年度支出	7,655	9,409	12,741	8,461	8,513	9,544	56,323	
④今年度支出	8,279	7,700	12,580	7,888	8,625	6,877	51,949	92%
⑤前年度収支差額	2,731	▲ 107	▲ 2,763	934	2,384	▲ 164	3,015	
⑥今年度収支差額	337	1,109	▲ 3,475	3,754	2,934	3,635	8,294	275%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
①前年度収入	9,759	11,110	10,763	8,859	7,679	9,235	116,743	
②今年度収入	10,458	11,485	11,728	11,957	8,389	8,410	122,670	105%
③前年度支出	10,326	7,664	13,164	10,326	7,655	9,049	114,507	
④今年度支出	8,125	11,300	11,865	7,665	7,817	7,640	106,361	93%
⑤前年度収支差額	▲ 567	3,446	▲ 2,401	▲ 1,467	24	186	2,236	
⑥今年度収支差額	2,333	185	▲ 137	4,292	710	▲ 825	16,309	729%



年度別利用人数

単位：人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
昨年度実績	924	842	890	841	937	829	5,263
今年度実績	719	791	828	960	972	917	5,187
人数比較	▲ 205	▲ 51	▲ 62	119	35	88	▲ 76
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
昨年度実績	933	876	936	789	665	796	10,258
今年度実績	957	927	1,002	1,000	741	769	10,583
人数比較	24	51	66	211	76	▲ 27	325



年度別事故件数比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
前年度事故件数	7	6	13	11	3	4	44
今年度事故件数	5	2	3	1	5	5	21
	▲ 2	▲ 4	▲ 10	▲ 10	2	1	▲ 23
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
前年度事故件数	8	15	6	7	3	3	86
今年度事故件数	9	8	3	3	3	7	54
	1	▲ 7	▲ 3	▲ 4	0	4	▲ 32

	A	B	C	合計
4月	1		4	5
5月			2	2
6月			3	3
7月			1	1
8月			5	5
9月			5	5
10月			9	9
11月			8	8
12月			3	3
1月			3	3
2月			3	3
3月			7	7
計			53	54

A：入院加療を要する事故
 要介護5寝たきりの方 入所
 3日目特浴時に下肢の腫れがあり受診すると大腿骨遠位端骨折の診断。オムツ介助、移動介助の際に普段と違うことはなく原因がわからない

特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

令和3年度事業報告書

今年度は2月中旬から新型コロナウイルス感染症の施設内クラスターが発生した。結果的に利用者43名、職員12名の感染が確認された。約1ヵ月間に渡る感染対応で物品が不足する場面もあった。これらの経験から、やはり平時からの感染対策の徹底と必要物品の備蓄を充実させておく必要性を感じた。次々にウイルスが変異し感染力を増している新型コロナウイルスに対して、来年度以降も細心の注意を払い対応して行きたい。

1. 新型コロナウイルス等の感染対策

R4年2月12日～3月9日の新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）のクラスターで特養利用者の4割以上が感染した。感染経路は、職員の持ち込みに始まり、職員を媒介して感染規模が拡大していった可能性がある。嘱託医や保健所、介護保険課と適宜連携しながら3回目の予防接種を繰り上げて実施。また、在宅酸素や治療薬を導入するなど医務室ができる範囲では最善を尽くしたと考えているが、結果的にコロナで3名、罹患後の体調変化で2名永眠する事態となった。その他利用者もフロアを全面的に隔離対応としたことでADLが低下、廃用の亢進に繋がったケースが散見された。コロナに限らず、施設内クラスターは今後も起こりうる事象である。感染症対策では、居室隔離が第一選択となってしまふ。隔離と並行しながらADLや嚥下機能などを維持できるかを今後の課題とし、OTや介護職と連携しながら改善案を模索していきたい。

物品については平時より備蓄を進めていたが、さくら野里や土山へ貸し出していた時期とも重なり、今回のクラスター中では不足することが多かった。想定していたコロナ用のPPEは、介護保険課の介入によってマニュアル以上に強固となったため使用数が増加した経緯もあった。今回の経験と反省を活かし、使用期限の長いものは2ヵ月分のストックを常時確保していくように変更した。

コロナ以外の感染症（ノロウイルスやインフルエンザ）については、個々人の感染対策意識が向上し出勤時の体調確認も徹底していたこともあり、施設内への持ち込みはなかった。

2. ベッド稼働率の維持（経営力強化）に向けて

ベッド稼働率は年間平均97.26%で、年間計画に挙げていた98%には至らなかった。稼働率低下の1番の原因はクラスターであり、クラスター以降の約一月半の間で11名が死亡退所もしくは入院となった。コロナ感染による直接的な影響に限らず、隔離対応

による ADL の低下や廃用の進行が大きく影響したと考えられる。

今年度の年間受診総数は 281 件、内訳としては皮膚科受診が 80 件（表 1 参照）で最多であった。以前疥癬の流行を受けてからは、皮膚疾患については特に注意を払っている。結果的に今年度疥癬感染者はなかった。疥癬に限らず、早期発見・早期対応にて入院数を減らし、ベッド稼働率維持に向けて取り組んでいる。しかし、コロナの流行によって、熱発があれば病院側から拒否されることが多く、また受診可能であっても、抗原検査や PCR 検査の待ち時間の為に送迎、付き添いに多くの時間を割くことになった。他部署での看護師不足を補うため、今年度も協力的に他部署への人事異動を行った。しかし、受診や業務に掛かる負担も増加してきているため、来年度以降では看護師の補充を検討していきたい。

今年度の年間入院件数は 30 名であり、約半数の 14 名が肺炎関係だった。例年肺炎関係で入院される方が多いが、そのほとんどがパーキンソン病などの進行形の疾患、あるいは麻痺や拘縮を有している。このことから、来年度以降では、該当する利用者様に対して食事介助方法はもちろん、食事形態や口腔ケアの見直しを随時行い、予防改善に励んでいきたい。

利用者様の定期健康診断を 8 月 19 日、26 日に行い、医師や薬剤師からの所見を踏まえて内服薬の調整を行った。

褥瘡：今年度より褥瘡マネジメント加算を採用されたことを受け、より一層褥瘡ケアに注力した。OT の助言を受けながら体交表やポジショニングを個別化し、居室担当や委員会に協力を仰いで毎月 ADL 評価、褥瘡発生リスク評価を行い、予防や治癒に努めた。今までは表皮剥離やオムツかぶれとして処置してきた小さな創も大西 Dr に診断を仰ぎ、見かけの発生件数（55 件）は増加した。しかし、上記活動が早期発見・早期対応に繋がったことで、重度化し受診や入院に至るケースはなく、施設内対応の範疇で経過することができた。

看取り：今年度は 16 名の利用者が看取り対応にて亡くなった。クラスター以降の 2 月 3 月で 7 名を看取るなど、やはりコロナの影響も大きかった。当時は市内や全国的にコロナが流行しており、容態急変時に救急要請しても搬送先がないため、家族様の意向に添わない形で施設内療養、看取りを強いられるケースが 2 件あった。そんな中でも、可能な範囲で家族様の希望を汲み取り、面会時間を随時設けるよう努めた。直接会うことにより様々な部分で家族様より理解や同意を得られることができ、苦情の予防にもなったと実感している。

コロナが流行して以降、家族との面会時間が著しく減少している。市内の状況を踏まえ適宜 Zoom や 1 F ホールでの面会を行っているが、利用する家族数は少ない。来年度も with コロナの環境は続いていくと予想されるため、より一層細かな情報伝達を心掛け、状態理解を得られるよう努めていきたい。

3. 職員の健康増進

職員の健康診断を姫路医師会協力の下で11月16日に実施した。コロナ罹患時に重症化リスクを伴う糖尿病の早期発見に向けて、今年度からはHbA1cの項目を追加した。今回もコロナ対策として各時間帯で人数制限を設けながら実施した。ストレスチェックも同時期に実施。深夜業に従事する職員については、令和4年度5～6月頃に2回目の健康診断を実施予定としている。また、腰痛検査も介護職員に対して年2回実施した。

今年度も健康診断や腰痛検査で異常所見のある職員に対しては、個々に通達を行い生活習慣病や腰痛など職業病への認識を深め、安全な就労へ繋がるよう啓発を行った。

人間ドック助成に該当する職員に対しては継続的に健診を勧めており、今年度は13名の職員が人間ドック健診を実施した。

表. 1 受診人数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	6	8	4	3	8	3	5	7	9	5	4	10	72
外科	5	0	2	1	0	2	1	0	2	2	2	0	17
整形外科	2	2	4	6	3	3	2	4	3	3	1	3	36
精神科	2	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	8
眼科	1	1	1	1	1	1	2	1	1	2	2	0	14
泌尿器科	6	3	5	3	7	2	2	3	4	2	1	1	39
皮膚科	3	6	8	8	7	11	4	9	9	4	4	7	80
その他	1	0	0	1	1	0	0	2	5	5	0	0	15
小計	26	21	25	23	28	23	17	27	33	23	14	21	281

表. 2 入院、骨折件数 (件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	4	4	2	3	2	3	2	2	1	4	3	0	30
骨折					1			1			1	1	4

表. 3 看取り対応者 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り	1			1			3	2	1		5	3	16

特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

令和3年度事業報告書

今年度は厨房内業務のマニュアル化・タイムスケジュールの作成を進めていく。さらに、感染症発生時の対応マニュアルも作成し、いつ同じようなことが起こっても迅速な対応ができるようにする。

1. 人材の定着・育成

新型コロナウイルスの流行により、欠員がでることもあったため、職員一人ひとりの出来る仕事を増やし、特定の人しかできない仕事がなくなるように努めた。そのために、厨房内業務のマニュアル作成に力を入れて取り組んだ。これにより、職員一人ひとりの仕事の幅も広がった。引き続き、厨房内業務に加え、調理や栄養士業務のマニュアル化も進めていきたい。

また、連絡事項の伝達漏れがないようにするために、細かい変更・連絡事項でも、連絡ノートに記入し、職員全員への周知を徹底した。

2. 献立の充実

昨年度は、厨房内職員だけでなく、介護職員とも相談をし、行事食に取り組んだ。(正月・節分・バレンタイン・ひな祭り・子供の日・七夕・敬老の日・ハロウィン・クリスマス・大晦日・鍋の日) また、特養の入居者に聞き取りをしてもらい、リクエスト献立を取り入れ、食事がより楽しみに感じてもらえるように工夫した。

食材費に関して、昨年度は、野菜・冷凍食品・おやつ・調味料等の値上げが多くあった。安くて良いものを仕入れるため、業者等の見直しにも力を入れることで、食材料費を抑えるができた。

3. 衛生管理

昨年度は特養にてコロナの感染が拡大したため、使い捨て容器の使用法、トレーや配膳車の消毒方法を厨房の職員に徹底してもらった。また、ノートに書き、どの職員が出勤の時でも同じ対応ができるようにした。

異物混入に関して、昨年度は報告がなかった。しかし、修理後の配膳車からゴミがトレーに落ちているとの報告があった。そのため、配膳車の修理後は一番上のトレーは使用しないなどの工夫をするなどの対応をした。

4. 栄養ケアマネジメントの充実

昨年度より、新たに栄養マネジメント強化加算が算定された。そのため、ミールラウンドの充実をはかり、入居者それぞれに合わせた食形態での提供に努めた。

デイサービスセンター サンライフ御立

令和3年度 事業報告書

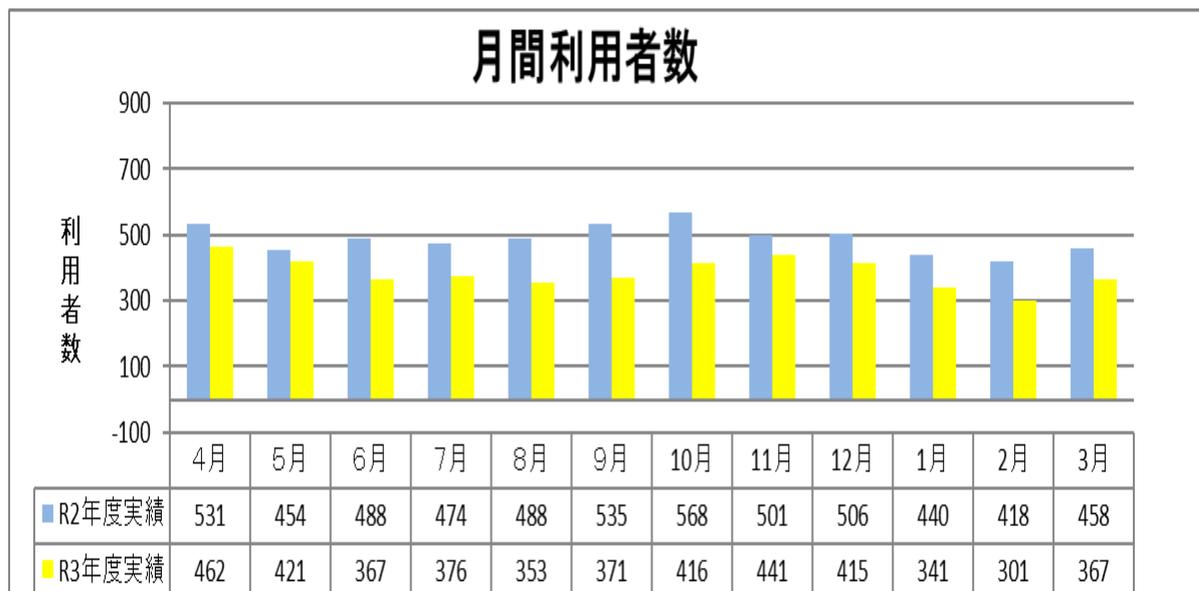
令和3年度は、コロナ禍でのサービス付き高齢者向け住宅の感染対策による利用自粛、また複数回利用している利用者の施設入所などによる利用中止が重なり、それを補う新規利用者の確保ができなかったことが相まって実績を上げられない状況が続く結果となった。

年間の延べ利用者数も令和2年度は5861人、令和3年度は4631人と大きく減少しており一層厳しい事業運営となっている。

令和3年度の介護報酬改定により新たな加算として加わった科学的介護推進加算の算定は行うことができたが、それ以外の加算算定には至らずこちらも減収の一因となった。

今後もコロナ禍でのリスクを抱えながらの事業運営ではあるが、感染対策を実施した中で利用者のニーズに対応し、感染症が発生した場合でも保健所等の指示に従って可能な限りサービスの提供に努め、利用者の利益及び利便性を損なうことがないよう取り組んでいきたい。

1. 利用者数



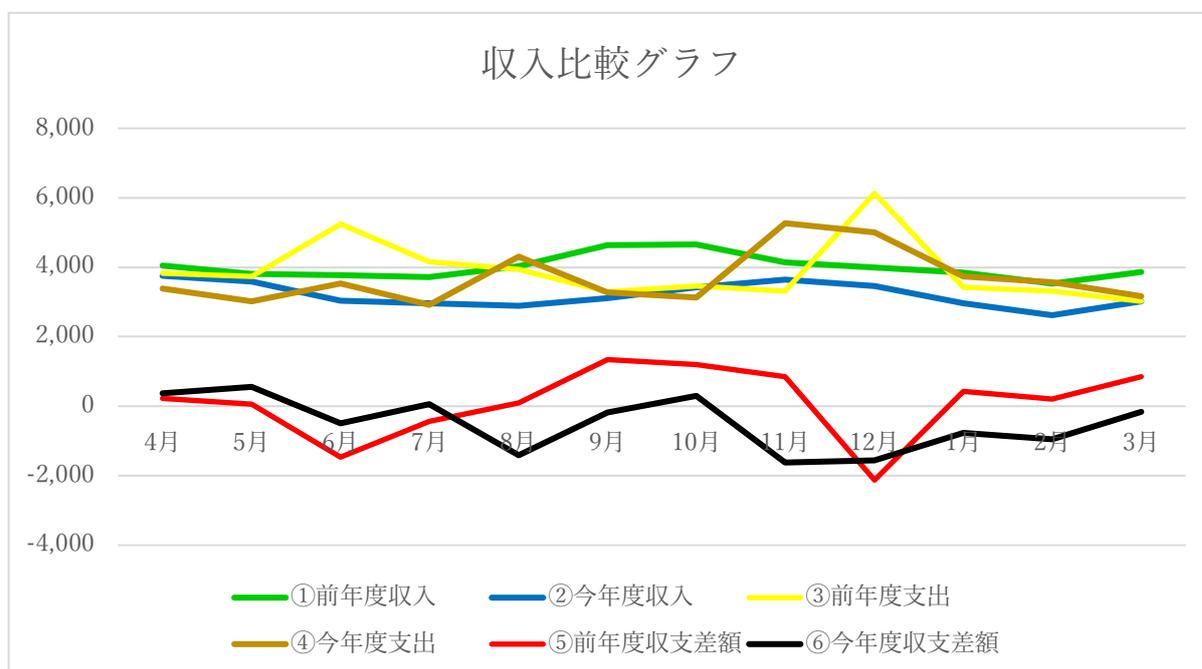
2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	4,045	3,806	3,780	3,713	4,038	4,640	24,022	-
②今年度収入	3,755	3,585	3,037	3,969	2,884	3,105	20,335	84.6
③前年度支出	3,822	3,741	5,248	4,154	3,939	3,298	24,202	-
④今年度支出	3,378	3,028	3,533	2,919	4,302	3,282	20,442	84.4
⑤前年度収支差額	223	65	-1,468	-441	99	1,342	-180	-
⑥今年度収支差額	377	557	-496	1,050	-1,418	-177	-107	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	比率
①前年度収入	4,657	4,149	4,002	3,839	3,530	3,870	48,069	-
②今年度収入	3,427	3,648	3,452	2,966	2,620	3,015	39,463	82.1
③前年度支出	3,460	3,305	6,128	3,415	3,320	3,022	46,852	-
④今年度支出	3,134	5,269	5,009	3,733	3,563	3,175	44,325	94.6
⑤前年度収支差額	1,197	844	-2,126	424	210	848	1,217	-
⑥今年度収支差額	293	-1,621	-1,557	-767	-943	-160	-4,862	

収入比較グラフ



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
事業 対象者	92.17 (1)	92.25 (1)	92.33 (1)	92.42 (1)	92.50 (1)	92.58 (1)	92.67 (1)	92.75 (1)	92.83 (1)	92.92 (1)	93.00 (1)	93.08 (1)	92.63 (12)
要支援 1	85.96 (2)	86.04 (2)	89.92 (2)	89.08 (1)	89.17 (1)	89.25 (1)	89.33 (1)	89.42 (1)	89.50 (1)	89.58 (1)	89.67 (1)	89.75 (1)	88.57 (15)
要支援 2	88.19 (7)	87.77 (8)	85.32 (7)	86.09 (8)	86.18 (8)	85.36 (9)	84.73 (8)	84.81 (8)	83.98 (7)	84.06 (7)	84.14 (7)	84.23 (7)	85.43 (91)
要介護 1	87.20 (16)	87.22 (15)	86.55 (13)	86.63 (13)	87.65 (13)	87.73 (13)	87.80 (13)	87.88 (13)	88.05 (14)	85.07 (9)	86.35 (11)	86.43 (11)	87.13 (154)
要介護 2	88.44 (9)	88.40 (10)	88.77 (10)	87.13 (8)	90.68 (8)	90.65 (6)	88.27 (8)	88.35 (8)	88.44 (8)	86.77 (7)	87.24 (7)	86.97 (8)	88.33 (97)
要介護 3	86.05 (8)	88.10 (6)	86.71 (4)	79.14 (3)	86.90 (4)	86.98 (4)	85.20 (5)	87.86 (6)	87.96 (7)	89.47 (9)	88.81 (4)	86.69 (4)	87.50 (64)
要介護 4	82.00 (5)	79.48 (4)	79.56 (4)	79.65 (4)	75.17 (3)	78.06 (4)	78.57 (5)	78.65 (5)	78.31 (4)	78.40 (4)	78.48 (4)	78.75 (3)	78.89 (49)
要介護 5						66.92 (1)	67.00 (1)	67.08 (1)	73.79 (2)	73.88 (2)	67.33 (1)	67.42 (1)	70.12 (9)
合計	86.90 (48)	87.07 (46)	86.52 (41)	86.22 (38)	87.08 (38)	86.19 (39)	85.55 (42)	85.99 (43)	86.07 (44)	85.26 (40)	85.24 (36)	85.26 (36)	86.14 (491)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度(令和4年3月現在)

職員13名(正職員2名 非常勤看護師2名 非常勤介護職員9名)

個別機能指導員を
含まない

	営業 日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員 /日	職員 一人対	職員/日	職員一人対
4月	26	462	1352	17.8	7.8	2.3	7.6	2.3
5月	26	424	1377	16.3	7.8	2.1	8.4	1.9
6月	26	367	1479	14.1	8.6	1.6	8.0	1.8
7月	27	377	1514	13.9	8.5	1.6	7.8	1.8
8月	26	355	1451	13.7	8.2	1.7	7.6	1.8
9月	26	373	1399	14.4	8.2	1.8	7.8	1.9
10月	26	416	1377	16.0	7.8	2.1	7.4	2.2
11月	26	441	1263	16.9	7.4	2.3	7.0	2.4
12月	27	415	1322	15.4	7.5	2.1	8.1	1.9
1月	25	341	1172	13.6	6.3	2.2	6.2	2.2
2月	24	312	1121	13.0	6.9	1.8	5.7	2.2
3月	27	367	1295	13.6	7.2	1.9	6.2	2.2

ケアハウスサンライフ御立

令和3年度 事業報告書

今年度のスローガンとして「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」「元気に老いるために何をすべきか」を掲げスタートした。しかし、昨年に引き続き常に新型コロナウイルス感染予防対策で推移した。

1. コロナ禍における一年間の推移

3月下旬より感染が急拡大し「第4波」の渦中、新しい年度がスタートした。

感染者数が減少しない中、4/5～県下に初めて「まん延防止等重点措置」が適用された。それでも感染拡大に歯止めがかからず、4/25～5/31 3度目の緊急事態宣言発出。7月に入ると全国各地でデルタ株の感染が急拡大。月末には更に加速し「第5波」の流行となり、県下に8/20～9/30 4度目の緊急事態宣言発出。

9月以降急速に減少に転じた新規感染者は、2022年1月新たな感染拡大が始まる。オミクロン株のまん延は止まらず「第6波」の様相を呈した。県下に1/27～3/21「まん延防止等重点措置」を適応された。

又、2/13～3/5 当施設内で複数のコロナ陽性者が出た為、入居者毎に毎食居室配膳、デイ(御立デイ除く)・ヘルパーの利用中止、外出及び面会の禁止となった。

入居者のコロナワクチン接種(各々のかかりつけ医で実施)状況は、2回目は8月中旬ほぼ完了した。3回目については3月末時点で接種率87.5%だった。

2. 各種行事・クラブ活動

実施項目一覧

健康チェック	11/5～再開(但し、2月は中止)
バスハイク、外食の日	11/17 紅葉狩り
誕生会(年4回)	4, 7, 10, 1月に実施 3密回避の為、居室毎に茶と菓子を提供
ふれあい喫茶	誕生会以外の月に実施 3密回避の為、居室毎に茶と菓子を提供
いきいき百歳体操	月1回で実施していたが、3月～中止
ラジオ体操	週4回実施 (但し、2/13～3/5は中止)
新規 カラオケ教室	未実施
新規 体操教室	未実施 居室で実践できる体操を紙面にて紹介
フラワーアレンジメント	中止
学習療法	持ち帰りの形で継続(週1回)
手作り教室	居室でできるアイデアを紙面にて提供

入居者1人ひとりが、今現在の身体状況を把握してもらう為「骨密度測定」「フレイルチェック」「口腔内チェック」の定期実施を計画していたが未実施

3. 入居者状況

入居者の年齢は、90才以上が12名、全体の35.3%を占める。只、介護保険非認定

者が全体の 32.4%で、介護が必要・不必要の格差が大きくなった。生活する上で家族様等、訪問介護のサポートが必要となりコロナ禍においても許可を得て継続実施となった。

介護認定状況 (R4. 3. 31 現在)

単位：人

	非認定	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2 以上	合計
5 階	5	0	5	5	1	16
6 階	6	1	4	5	2	18
合計	11	1	9	10	3	34

サービス利用状況 (R4. 3. 31 現在)

単位：人

	ヘルパー	訪問看護	ディサービス	訪問リハビリ	福祉用具貸与
5 階	8	2	9	1	8
6 階	8	1	6	0	8
合計	16	3	15	1	16

入居者年齢・性別状況 (R4. 3. 31 現在)

単位：人

	～69 才	～74 才	～79 才	～89 才	～99 才	合計	平均年齢
男性	2	0	2	4	1	9	79.0 才
女性	1	4	0	9	11	25	85.8 才
合計	3	4	2	13	12	34	84.0 才

最高年齢：97 才(女性)

最低年齢：64 才(男性)

4. 空室ゼロの対策

新規入居者確保の為、以下の取り組みを試みた。

6 月 地域包括、居宅介護支援事業所、病院の地域連携室等に施設の案内を送付

7 月 市の広報誌、情報誌「リビング姫路」に掲載

8 月 情報誌「リビング姫路(介護マップ)」、神戸新聞に掲載

市内 2ヶ所で施設案内のポスティングを実施

11・12・3 月 情報誌「リビング姫路」掲載

この一年間で新規入居者は 7 名、退去者は 6 名だった。3 月のひと月だけ満室となった。入居者累計実績数は、前年度 12,413 名、今年度 11,664 名で 749 名の減少。

コロナ禍において見学者の対応は 1 階ホールのみの実施となった。入居に関しての問合せ及び見学は順調だったが、入居に至らないケースもあった。

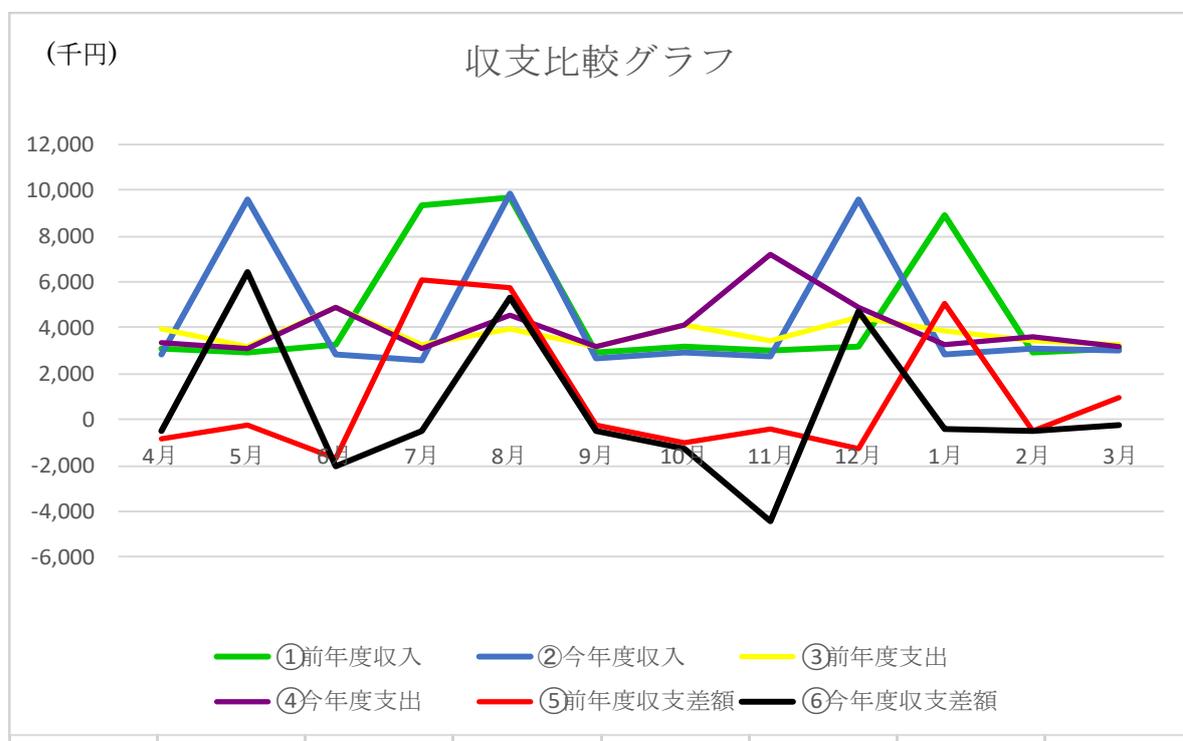
如何に退去からその後の入居を短期間でやり遂げるかがポイントだったが、やはり退去者の荷物の搬出、リフォームに時間を要した。

年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	3,139	2,915	3,256	9,361	9,735	2,934	31,340	—
② 今年度収入	2,847	9,588	2,860	2,577	9,853	2,707	30,432	97.1
③ 前年度支出	3,972	3,168	4,917	3,299	3,942	3,164	22,462	—
④ 今年度支出	3,354	3,114	4,878	3,089	4,561	3,185	22,181	98.7
⑤前年度収支差額	-833	-253	-1,661	6,062	5,793	-230	8,878	—
⑥今年度収支差額	-507	6,474	-2,018	-512	5,292	-478	8,251	92.9

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	3,149	2,977	3,220	8,923	2,910	4,177	56,696	—
② 今年度収入	2,887	2,776	9,614	2,863	3,077	2,987	54,642	96.4
③ 前年度支出	4,164	3,421	4,448	3,877	3,413	3,242	45,027	—
④ 今年度支出	4,151	7,185	4,887	3,273	3,572	3,195	48,879	108.6
⑤前年度収支差額	-1,015	-444	-1,228	5,046	-503	-935	11,669	—
⑥今年度収支差額	-1,264	-4,409	4,727	-410	-495	-208	6,192	53.1



ユニット型老人ホームサンライフひろみね

令和3年度事業報告書

令和3年度経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう!!」をもとに、コロナ感染症対策に取り組み入居者に感染者を出す事なく支援することができた。また、外出等の行事は出来なかったが、施設内で様々な催しを実施し入居者には楽しんで頂けたと思う。

1. 事業運営について

99%以上の稼働率を目標としていたが今年度は14名の退去者（看取り介護実施者13名）がいた為、稼働率は98.5%となっている。看取り介護加算の算定もあり介護報酬は目標にはほぼ到達しているが、支出が増加している為、収支差額は前年度と比較し500万円下がっている。主な要因は法人本部経費の按分が今年度から始まり約200万円増えていることと、人件費が250万円増えている。新型コロナウイルス対策に伴い衛生用品や抗原検査キットの購入費である。昨年度は姫路市より衛生用品等の補助金が約100万円あったが、今年度は無かった。

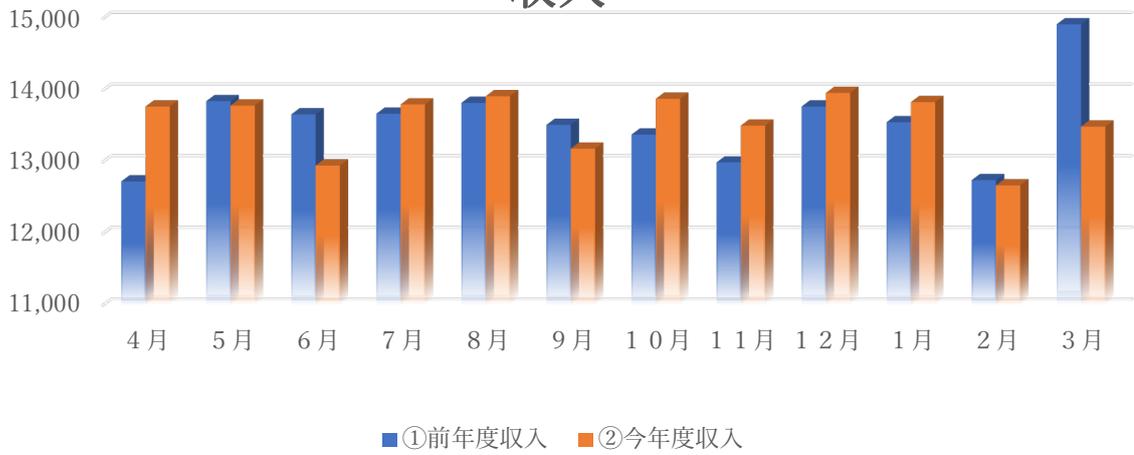
年間収入目標

●令和3年度収支計画

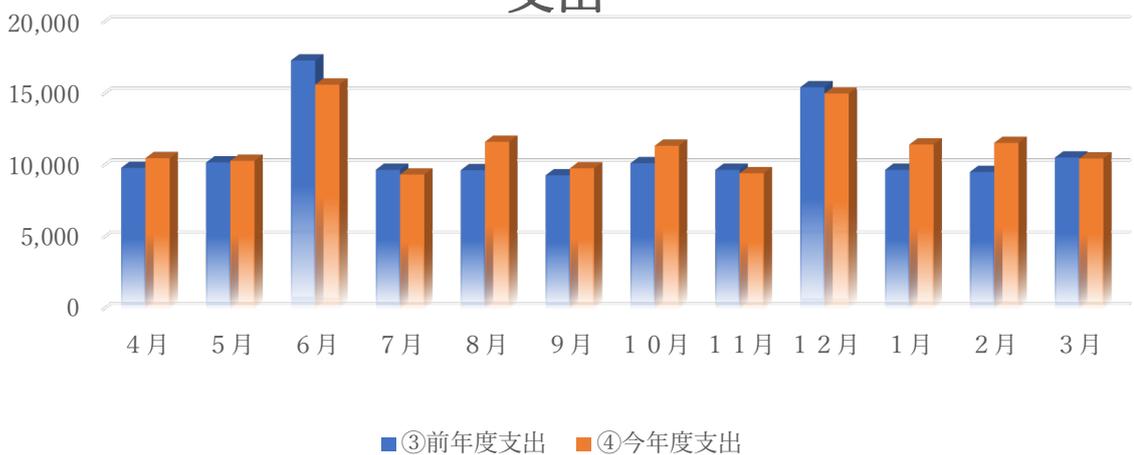
(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率(%)
①前年度収入	12,726	13,847	13,663	13,671	13,823	13,516	81,246	—
②今年度収入	13,772	13,786	12,949	13,801	13,916	13,184	81,408	100.2
③前年度支出	9,889	10,265	17,379	9,755	9,725	9,368	66,381	—
④今年度支出	10,564	10,382	15,696	9,422	11,706	9,851	67,621	101.9
⑤前年度収支差額	2,837	3,581	▲3,715	3,915	4,097	4,148	14,863	—
⑥今年度収支差額	3,028	3,404	▲2,747	4,379	2,210	3,333	13,607	91.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率(%)
①前年度収入	13,380	12,993	13,772	13,553	12,744	14,920	162,608	—
②今年度収入	13,880	13,506	13,962	13,834	12,671	13,492	162,753	100.1
③前年度支出	10,210	9,751	15,508	9,750	9,603	10,608	131,811	—
④今年度支出	11,425	9,509	15,075	11,514	11,629	10,535	137,308	104.2
⑤前年度収支差額	3,170	3,241	▲1,736	3,802	3,140	4,312	30,792	—
⑥今年度収支差額	2,454	3,997	▲1,113	2,319	1,041	2,957	25,262	82.0

収入



支出



収支差額



2. 科学的介護の実践について

- (1)厚生労働省への情報提供 LIFE ヘデータを提出している。
- (2) 日中おむつ外しを継続して行い。日中おむつ率 0%とは行かないが可能な範囲で取り組めた。
- (3)管理栄養士を配置しミールラウンドや担当者会議、フロア会議等、入居者・職員からの意見を基に嗜好調査、ゼリー食の導入、栄養補助食品の選定、メニューの更新で給食の質向上に努めた。

3. 看取り介護について

今年度は13名の看取り介護を行った。コロナ渦で面会等の制限を設けたが、身元引受人をはじめご親族も理解頂き施設と協力し入居者を看取れた。看取り介護毎にデスクカンファレンスを開催し看取り介護の資質向上に努めた。

4. 職員の労働環境の整備

今年度、労働災害は0件にすることができた。引き続き労働環境の整備に努めたい。リフレッシュ休暇が確実に取得できるように職員の希望聞き計画的に進め、有給休暇も適正に消化できるように配慮できた。

5. 職員教育・組織体制作りにについて

介護福祉士の取得において取得対象者が3名で全員合格することができた。

新入職員へのマンツーマン指導を行うことで、基本的な介護技術や理念の習得を図ると共に、不安や疑問をすぐに相談できるよう配慮し、安心して意欲的に働ける職場環境の整備に努めた。しかし早期退職も多くあった為、教育体制は今後の課題である。

職員個人の特性や意欲的な思いが活かせるように定期的なユニット会議を開催している。また、他ユニットとの情報の共有や協力体制を継続するため、月1回リーダー会議を開催した。

6. 地域貢献について

昨年に続き書面を送付することで推進会議の代替を行った。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い地域のとの関わりを持つための行事や防災訓練への参加はできていない状況。

姫路市医師会看護専門学校の実習を受け入れ地域医療の発展に貢献できた。

7. 介護統計について

令和3年度介護状況

項目		令和3年3月末	令和4年3月末状況
日中オムツ使用率		2名(8%)	2名(8%)
入浴統計	特浴	3名(11%)	3名(10%)
	リフト付個浴	25名(89%)	16名(55%)
	個浴	0名(0%)	10名(34%)
食事形態	普通食	22名(79%)	25名(86%)
	刻み食	0名	0名(0%)
	極刻み食	4名(14%)	0名(0%)
	ゼリー食	2名(7%)	4名(14%)
	経管栄養	0名	0名
褥瘡者		1名(3%)	0名
身体拘束		0名	0名
看取り介護実施 ※		6名(100%)	13名(100%)

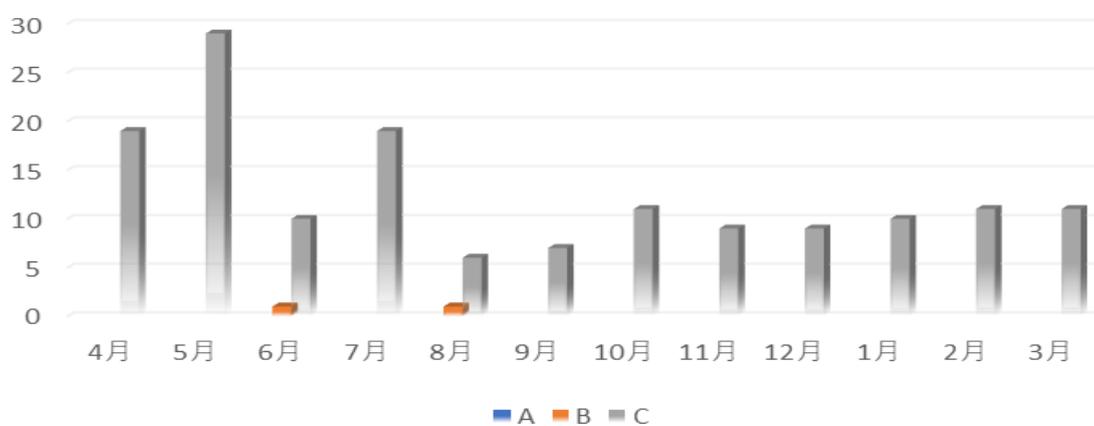
※看取り介護実施率=看取り介護実施者／全退所者（急死を除く）

事故件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計(件)
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	1	0	1	0	2
C	19	29	10	19	6	7	90
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	0	2
C	11	9	9	10	11	11	153

月別事故件数グラフ (件)

令和3年度事故発生件数



A : 入院・加療を要する事故
B : 受診・通院を要する事故
C : 受診・通院を要しない事故

令和3年度 デイサービスサンライフ田寺

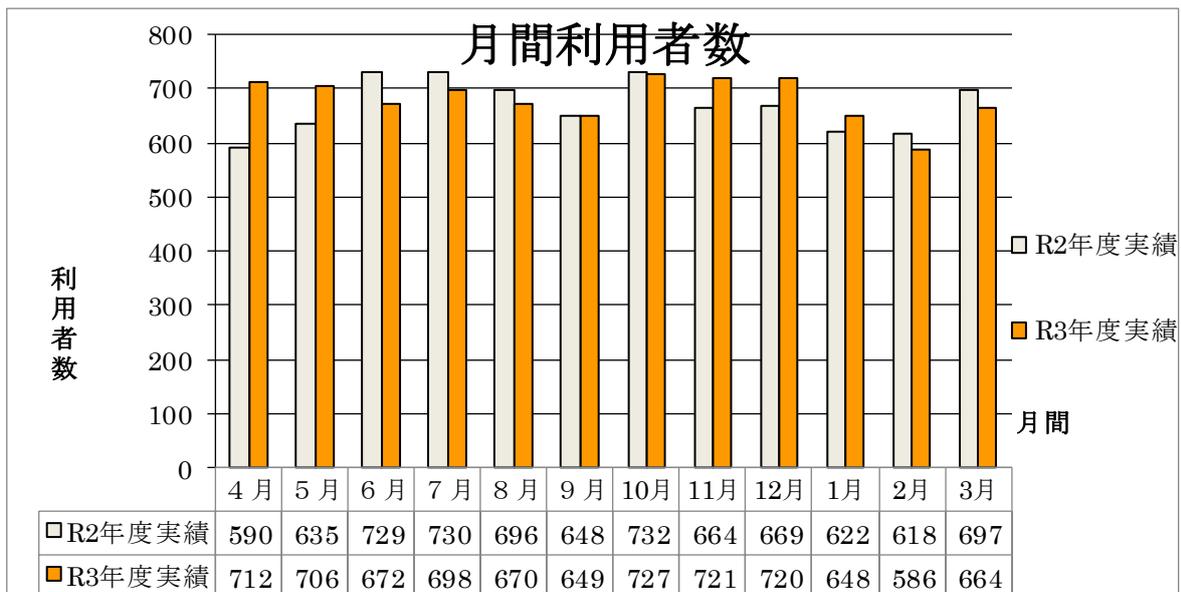
事業報告書

令和3年度は、ポスティングによるチラシの作成を行ったり、居宅介護支援事業所への訪問を定期的に行っていたが、サービス付き高齢者住宅の利用者様はじめ、新型コロナウイルス感染予防による利用の控えや予定していた加算の算定が取得できず前年度に比べて収入の減少となった。支出としては給湯器などの修理やLIFE対応の為に介護ソフトを追加したりなど行ったが、前年度に比べると金額を抑える事が出来た。

職員の休暇については、新型コロナウイルス感染による体調不良などあったが、一人一人がしっかりと感染対策を行う事ができており、バランスよく休暇を取ることができた。有給の取得も該当職員すべてが5日以上の取得を行う事が出来た。

子ども食堂「レストランヴェオーノ田寺」については、蔓延防止対策などの影響により定期的な開催ができなかった。

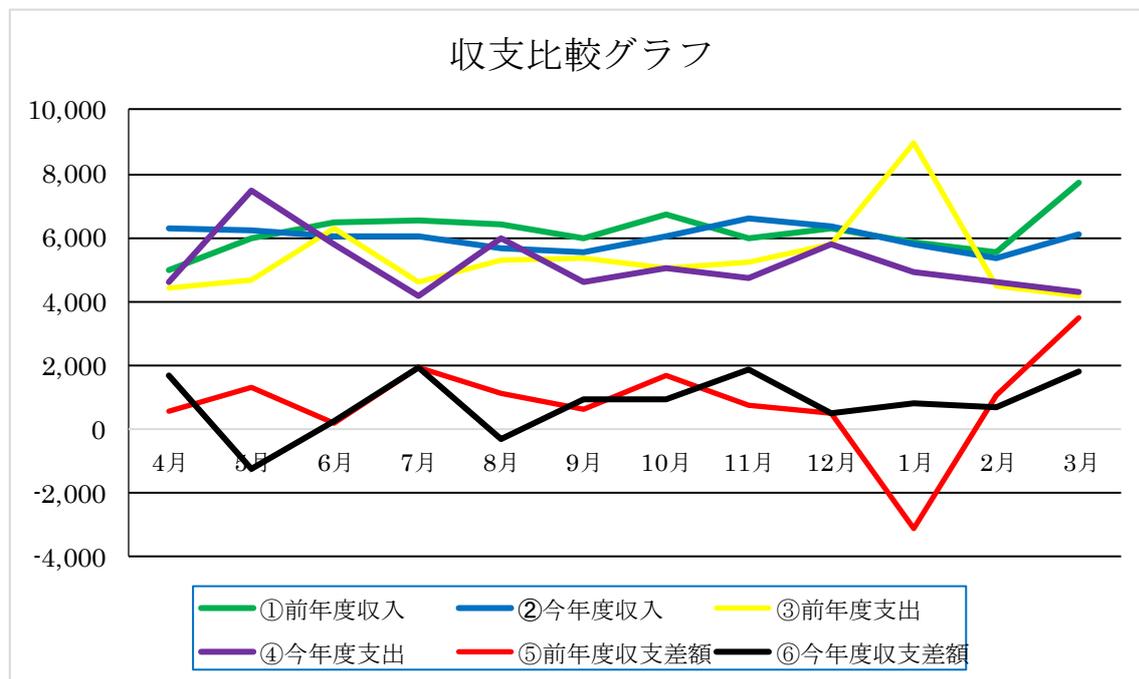
1. 月間利用者数



2. 前年度収支比較

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	5,007	5,955	6,454	6,555	6,391	5,974	36,336	—
② 今年度収入	6,291	6,258	6,043	6,069	5,689	5,539	35,889	99%
③ 前年度支出	4,441	4,656	6,278	4,634	5,279	5,349	30,637	—
④ 今年度支出	4,580	7,497	5,804	4,161	5,977	4,614	32,633	107%
⑤ 前年度収支額	566	1,299	176	1,921	1,112	625	5,699	—
⑥ 今年度収支額	1,711	-1,239	239	1,908	-288	925	3,256	57%

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	6,746	5,989	6,290	5,872	5,533	7,704	74,470	—
② 今年度収入	6,030	6,596	6,326	5,785	5,333	6,089	72,048	97%
③ 前年度支出	5,036	5,261	5,789	8,989	4,473	4,185	64,370	—
④ 今年度支出	5,076	4,739	5,813	4,944	4,641	4,270	62,116	96%
⑤ 前年度収支額	1,710	728	501	-3,117	1,060	3,519	10,100	—
⑥ 今年度収支額	954	1,857	513	841	692	1,819	9,932	98%



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	86.58 (4)	86.67 (4)	86.75 (4)	86.83 (4)	86.92 (4)	85.73 (5)	85.82 (5)	84.54 (4)	84.63 (4)	84.71 (4)	82.28 (3)	82.36 (3)	85.46 (48)
要支援 2	85.33 (11)	85.16 (10)	85.33 (10)	84.58 (10)	84.66 (10)	85.83 (11)	85.47 (11)	86.49 (13)	85.71 (11)	85.00 (9)	85.81 (10)	84.58 (7)	85.39 (123)
要介護 1	84.17 (30)	84.07 (33)	84.96 (33)	84.90 (31)	84.66 (31)	84.91 (30)	84.43 (31)	84.41 (31)	84.51 (30)	84.51 (29)	85.30 (28)	85.08 (29)	84.65 (366)
要介護 2	86.89 (24)	86.69 (22)	86.78 (23)	86.83 (24)	87.01 (25)	87.52 (23)	87.58 (22)	87.30 (23)	87.64 (20)	87.76 (20)	89.36 (18)	88.76 (19)	87.45 (263)
要介護 3	84.57 (9)	84.96 (8)	85.04 (8)	85.35 (8)	84.65 (6)	82.52 (7)	84.27 (8)	85.10 (11)	86.63 (11)	86.71 (11)	86.08 (11)	88.19 (12)	85.56 (110)
要介護 4	89.60 (5)	88.12 (5)	89.85 (5)	94.19 (4)	91.39 (3)	95.42 (2)	88.97 (3)	89.06 (3)	88.94 (4)	89.22 (3)	89.31 (3)	89.39 (3)	90.07 (43)
要介護 5	80.25 (2)	80.33 (2)	80.42 (2)	64.5 (1)	88.00 (1)	76.38 (2)	76.46 (2)	76.54 (2)	76.63 (2)	76.71 (2)	76.79 (2)	78.86 (3)	77.83 (23)
平均 (合計)	85.47 (85)	85.25 (84)	85.77 (85)	85.77 (82)	85.80 (80)	85.68 (80)	85.46 (82)	85.56 (87)	85.75 (82)	85.70 (78)	86.27 (75)	86.26 (76)	85.72 (976)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度 (R3年3月現在)

職員 19 名 (正職員 3 名 非常勤看護師 3 名 非常勤歯科衛生士 1 名
非常勤介護職員 16 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員実質時間数 /月	利用者/ 日	職員 /日	職員 一人 対	職員/日	職員一人対
4月	26	712	2,069	27.38	12.0	2.2	11.7	2.3
5月	27	706	2,092	26.15	11.8	2.2	11.5	2.2
6月	25	672	1,785	26.88	10.4	2.5	10.1	2.6
7月	27	698	2,121	25.85	11.9	2.1	11.6	2.2
8月	27	670	2,093	24.81	11.8	2.0	11.5	2.1
9月	25	649	1,948	25.96	11.3	2.2	11.0	2.3
10月	27	727	2,079	26.93	11.7	2.2	11.4	2.3
11月	26	721	1,877	27.73	10.9	2.5	10.6	2.6
12月	26	720	2,085	27.69	11.7	2.3	11.4	2.4
1月	25	648	1,859	25.92	10.4	2.4	10.2	2.5

2月	23	586	1,714	25.48	10.7	2.3	10.4	2.4
3月	24	665	1,930	25.42	10.8	2.3	10.6	2.4

5. リストランテヴェオーノ田寺

開催日	4/21	11/17	12/16
参加者（名）	14	15	18
ボランティア（名）	5	6	9

※新型コロナウイルスの影響により毎月の開催はできていない。

令和3年度 ヘルパーステーションサンライフ御立

事業報告書

今年度目標に掲げた「コロナ感染防止で、経営力強化を目指そう」を念頭に、事業所全体の介護力向上及び、強固な感染予防を行ない日々の訪問に努めた。

コロナ禍、職業柄、勤務中だけにかかわらず、プライベートな時間にまで、感染しない様しっかり対策を取りながらの生活は、どれほどのストレス・プレッシャーを受けていたかは計り知れないが、幸いヘルパーの罹患はなく、スムーズに訪問することが出来た。徹底した感染予防が出来たと感じる一方、気を緩める事は出来ない現状は、継続中である。

人材育成・介護力向上に向けての取り組みでは、引き続き研修の充実化の継続。中でも、個人の到達度レベルをしっかりと把握することに力を入れ、更に利用者様の変化にいち早く気付く事が出来る様、「観察力」「聴く力」を習得し、「コミュニケーション能力」の向上に努めた。重ね重ね伝えてきている報・連・相の徹底。出来ていないと感じた昨年度の反省を踏まえ、しっかり行う努力を全員で行ってきたが、正直、不足な部分も多い。訪問介護は1対1でのサービスではあるが、「チームワーク」が何より大事。ヘルパー間での介護力の統一。足りない部分を補える関係性の構築等、一人ひとりの意識改革を進めてきた。その結果、全員が同じ方向を向いているとの手ごたえは、感じる事が出来た。来年度も継続するように努める。その結果、事業所全体の強化に繋げ、利用者様へ最大限のサービス提供に繋げて行けたらと思う。

休暇への取り組みでは、最低ラインの5日間の習得は出来た。「ヘルパーは忙しくて休めない」という概念の中、積極的な習得計画は今後も継続するよう努めていきたい。

令和3年度 内部研修内容

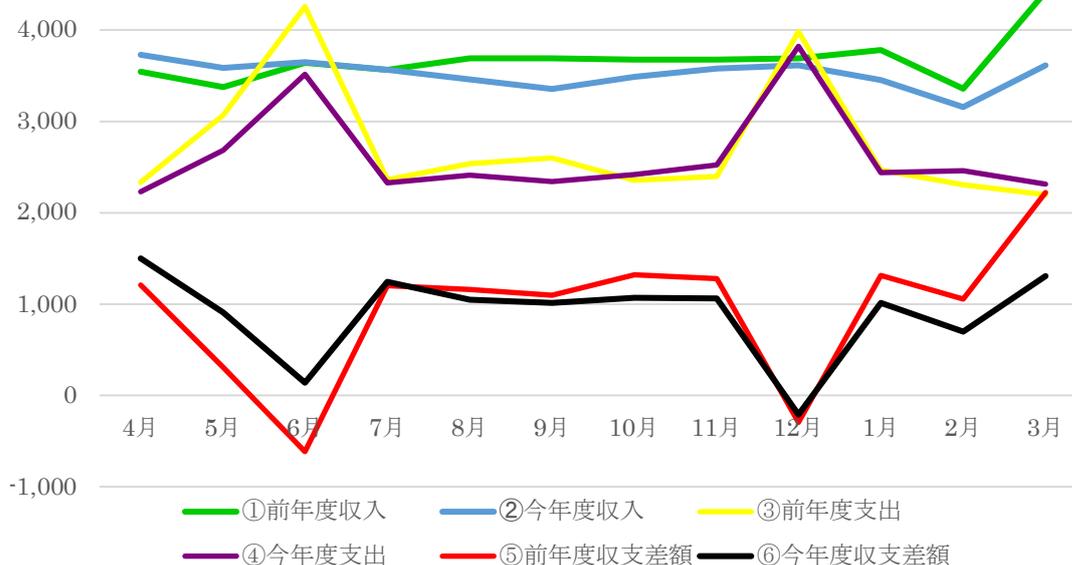
4月	生活援助としての調理援助・配下膳 / 抗菌薬について
5月	虐待防止の為に何が出来るか? / 高齢者の薬&生活への影響
6月	個人面談・人事考課表作成(前年度を振り返って)
7月	熱中症予防と緊急時対応 / 高齢者の薬(睡眠薬)
8月	認知症ケアで知っておきたい事
9月	クレーム・苦情対応(介護記録=公的文書)
10月	要点を押さえた書類作成(5W1H実例を元に)
11月	緊急時に備える「必要になる気付く力・伝える力」
12月	高齢者の身体を守る / 今年の振り返り
3年1月	移動・移乗の際の基本的な考え方と介助のコツ
2月	コロナ蔓延防止の為中止
3月	コロナ蔓延防止の為中止

年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,543	3,372	3,640	3,563	3,691	3,692	21,501	—
②今年度収入	3,728	3,587	3,650	3,566	3,462	3,354	21,347	99
③前年度支出	2,335	3,066	4,256	2,359	2,535	2,597	17,148	—
④今年度支出	2,229	2,682	3,514	2,323	2,412	2,339	15,499	91
⑤前年度収支差額	1,208	306	-616	1,204	1,156	1,095	4,353	—
⑥今年度収支差額	1,499	905	136	1,243	1,050	1,015	5,843	134
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	3,675	3,674	3,687	3,779	3,357	4,416	44,089	
②今年度収入	3,485	3,580	3,610	3,452	3,156	3,614	42,244	96
③前年度支出	2,356	2,399	3,981	2,468	2,303	2,196	32,851	—
④今年度支出	2,414	2,521	3,821	2,437	2,460	2,309	31,461	96
⑤前年度収支差額	1,319	1,275	-294	1,311	1,054	2,220	11,238	—
⑥今年度収支差額	1,071	1,059	-211	1,015	696	1,305	10,783	96

収支比較グラフ



収入面では、コロナ禍での影響を下半期大きく受けた。訪問中止・利用者減もあり、昨年度に比べ収入減であった。収支差額では、455,000円の減となる。現在、利用者様受入人数(120名)上限に達している為、特例以外はなかなか新規受け入れも難しい現状がある。サービス提供責任者の増員は目指しているものの、実現するよう速やかに進め、利用者様増・収入増に繋げて行きたい。

令和3年度 サンライフ御立居宅介護支援事業所

事業報告書

令和4年1月からは管理者変更があり利用者人数が減少したため新規利用者の獲得に力を入れている。2月に市内で新型コロナウイルスが蔓延し、介護施設内でクラスターが発生し、ショートやデイ、ヘルパー等のサービス調整を行い利用者や家族の負担軽減に努めた。地域包括ケアシステムの構築を目指し医療との連携を促進し在宅で利用者様に満足して頂けるサービス利用の提供を行った。

1. 担当利用者・収入の確保

新規獲得件数は93件。特養や老健入所、長期入院、永眠などの終了ケースも多くある。総数は令和3年4月が要介護130件、要支援46件の176件、令和3年9月が要介護111件、要支援44件の155件となった。営業活動も毎月行っている。担当の利用者様からの紹介等も積極的に受け入れるようにし特に地域の方のご相談等も迅速に対応できるよう努めている。

収入減少の要因は、管理者変更による担当利用者の減少に対して新規利用者の獲得が追い付いていないことが主としてある。

2. サービスの質の向上

令和3年4月から、新たに管理者となる要件が主任ケアマネジャーであることとなり、1名が取得した。管理者交代や事業所を新たに増やす際に必要な資格であり、要件を満たした職員から順次主任ケアマネジャー取得する。

また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で一緒に考え、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努めている。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行う。感染対策に勤め自らが感染しないことはもちろんのこと、クラスターが発生しても支援が止まらないようにサービス調整を行えるように選択肢を多く準備しておく必要がある。

3. 有給休暇、連続リフレッシュ休暇の確実な取得状況

年次有給休暇の10日以上取得者の5日以上の取得ができていない。連続リフレッシュ休暇は、昨年に続き現状で取得している職員はいない。連続リフレッシュ休暇の支障として考えられることは、長期休暇を取得することで利用者様や家族様からの相談対応に支障が出てしまわないかとの不安がある。今後検討が必要。

4. 特定事業所集中減算の回避

引き続き減算にならないよう注意し各事業所からの情報等を収集しておき、紹介できるようにしておく。

5. 介護予防支援

令和3年度上半期も、要支援者の地域包括支援センターからの依頼や、更新時に要支援になった方が多く、要支援者の利用者数は増加傾向となった。引き続き、多くの地域包括支援センターとの連携を行い新規獲得に努める。

6. 利用者人数の推移

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1.2	R2	40	44	41	44	43	44	42	44	44	43	41	43	513
	R3	45	49	45	46	48	51	53	52	50	44	45	44	572
	差	+5	+5	+4	+2	+5	+7	+9	+8	+6	+1	+4	+1	+59

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護 1~5	R2	121	124	130	130	137	135	134	138	140	131	127	132	1,579
	R3	129	124	122	118	123	122	123	123	134	110	107	111	1,446
	差	+8	-	-8	-12	-14	-13	-11	-15	-6	-21	-20	-21	-133

7. 収入の確保

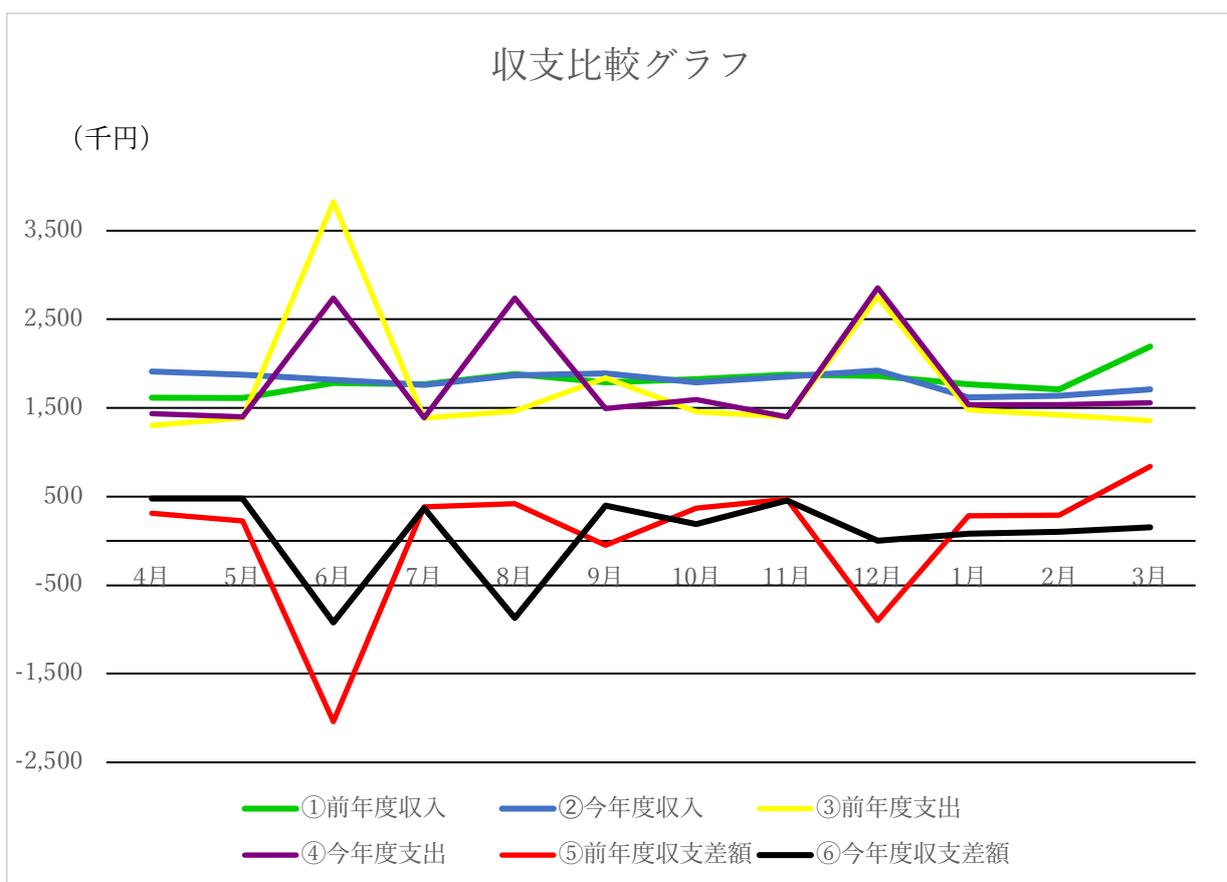
担当人数は3月末で14名程度の空きがある。定員に到達できるように営業活動を行う必要がある。

8. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	1,618	1,612	1,785	1,766	1,882	1,790	10,453	—
②今年度収入	1,913	1,875	1,818	1,761	1,870	1,889	11,126	106.4
③前年度支出	1,303	1,384	3,825	1,386	1,466	1,837	11,202	—
④今年度支出	1,436	1,400	2,739	1,389	2,739	1,493	11,196	100.0
⑤前年度収支差額	315	228	-2,040	380	416	-47	-748	—
⑥今年度収支差額	477	475	-921	372	-869	396	-70	9.4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,822	1,876	1,858	1,764	1,709	2,193	21,677	—
②今年度収入	1,787	1,855	1,922	1,619	1,640	1,713	21,586	99.5
③前年度支出	1,455	1,403	2,756	1,480	1,419	1,353	21,069	—
④今年度支出	1,595	1,400	2,856	1,535	1,535	1,560	21,833	103.6
⑤前年度収支差額	367	473	-898	284	290	840	608	—
⑥今年度収支差額	192	455	-934	84	105	153	-247	-40.6



令和3年度 デイサービスサンライフ安室

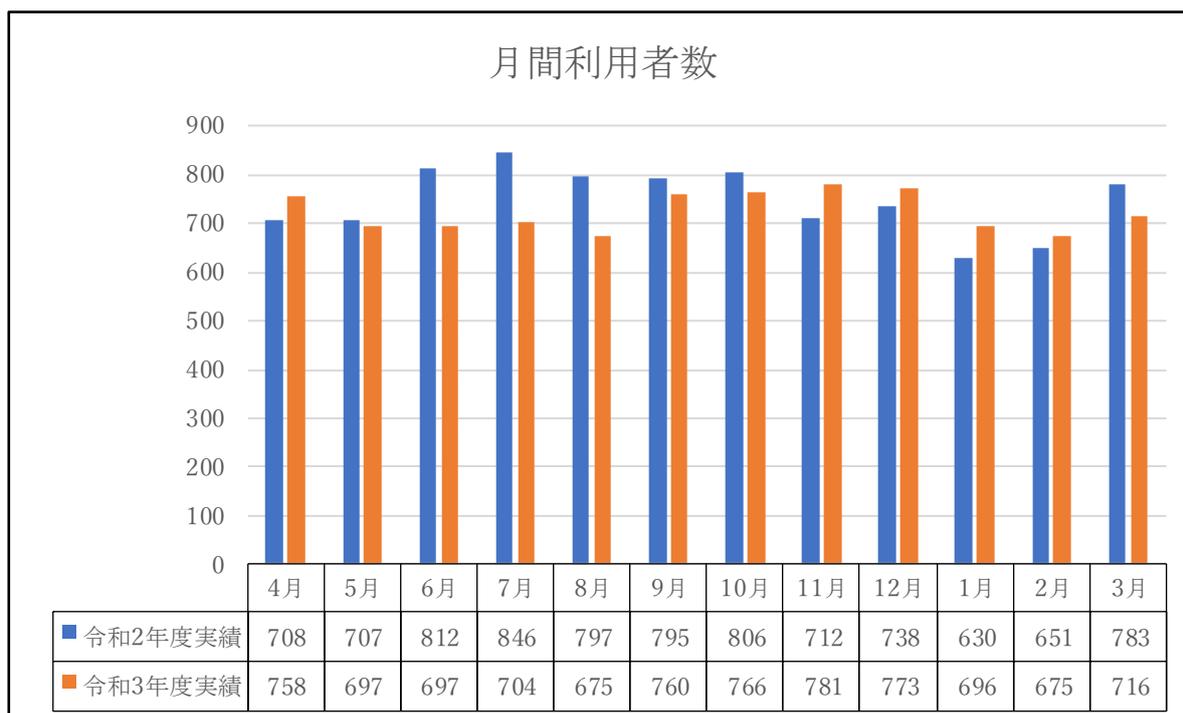
事業報告書

令和3年度は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間が長く、営業活動やレクリエーションなどに制限を受けることが多かった。外出の機会は減少したが、可能な範囲での外出の継続や少人数で実施するグループレクリエーションの機会を増やし、また新たに YouTube などデジタル機器をレクリエーションに取り入れることで、利用者様に少しでも楽しんでいただけるよう工夫を行った。

下半期から理学療法士が不在となるなかで前年度比 96.8%と利用者数の大幅な減少はみられなかったが、同居家族が濃厚接触者・接触者疑いになる事例が多く、自主的に利用を自粛される利用者様や個別機能訓練加算の中止などにより、収入減となった。支出については、業務の効率化を目的に、ほのぼのの追加導入やソフト更新を行ったため、まとまった金額の支出があった。また理学療法士採用に向けての求人広告や感染症対策（主に検査キットの購入）などの支出もあり、収支差額は前年度に比べマイナスとなった。

有給取得については、全職員が5日以上を取得することができており、また入院治療を要する事故・車両事故は0件であった。次年度も継続して業務の見直しを行い、事故が起きないように安全に考慮しながら、更なるサービスの質の向上・利用者数の増加を図っていきたい。

1. 利用者数



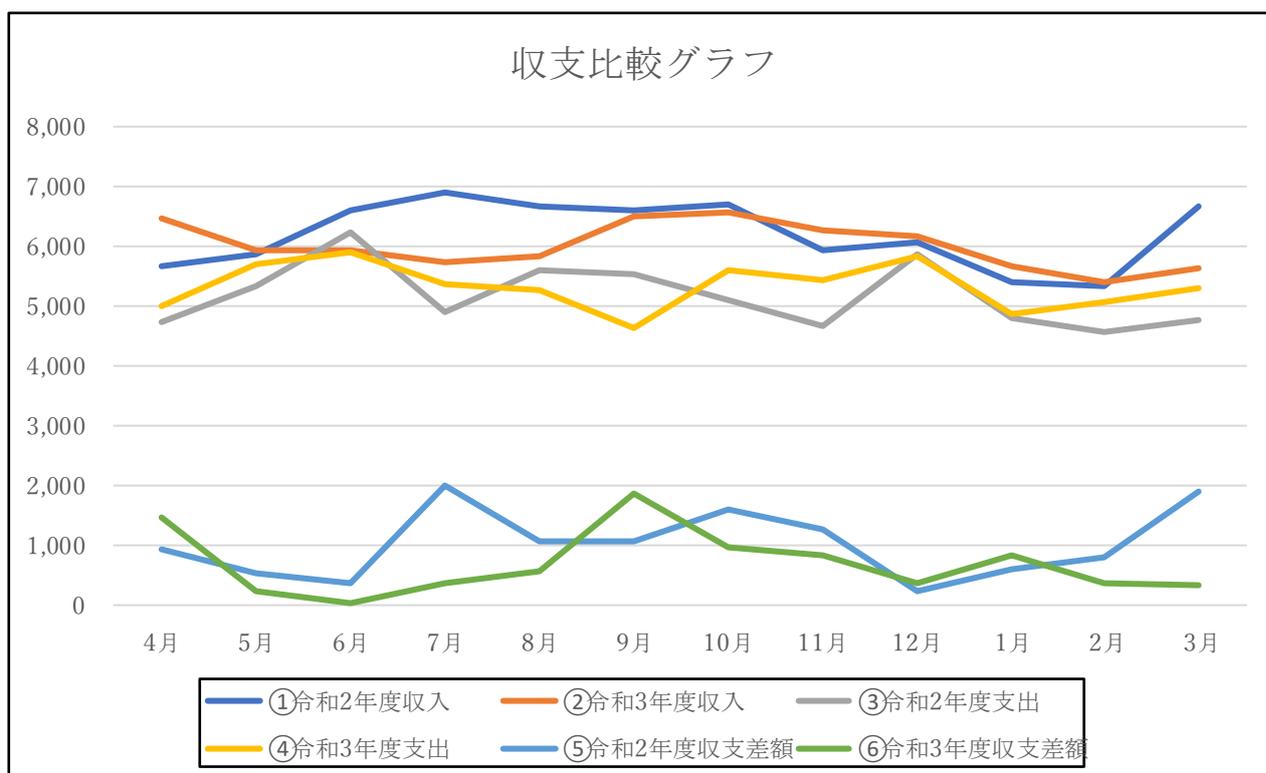
令和2年度実績 8,985人 令和3年度実績 8,698人 前年度比 96.8%

2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①令和2年度収入	5,681	5,888	6,618	6,896	6,688	6,603	38,374	—
②令和3年度収入	6,474	5,944	5,926	5,732	5,826	6,511	36,413	94.9
③令和2年度支出	4,743	5,352	6,255	4,902	5,607	5,529	32,388	—
④令和3年度支出	5,007	5,701	5,906	5,374	5,266	4,648	31,902	98.5
⑤令和2年度収支差額	938	536	363	1,994	1,081	1,074	5,986	—
⑥令和3年度収支差額	1,467	243	20	358	560	1,863	4,511	75.4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①令和2年度収入	6,719	5,938	6,077	5,409	5,357	6,687	74,561	—
②令和3年度収入	6,569	6,275	6,183	5,687	5,417	5,632	72,176	96.8
③令和2年度支出	5,117	4,676	5,859	4,810	4,575	4,780	62,205	—
④令和3年度支出	5,595	5,452	5,833	4,865	5,068	5,296	64,011	102.9
⑤令和2年度収支差額	1,602	1,262	218	599	782	1,907	12,356	—
⑥令和3年度収支差額	974	823	350	822	349	336	8,165	66.1



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	84.90 (12)	84.57 (12)	84.65 (12)	85.55 (13)	84.67 (13)	83.80 (10)	84.92 (10)	83.29 (12)	83.02 (10)	83.11 (10)	82.28 (9)	83.94 (9)	84.06 (132)
要支援 2	85.92 (12)	85.92 (13)	86.39 (14)	86.84 (15)	87.76 (15)	87.20 (17)	87.62 (18)	87.22 (19)	87.31 (26)	87.29 (18)	87.24 (17)	87.07 (15)	86.98 (199)
要介護 1	83.71 (28)	83.63 (28)	83.46 (27)	83.68 (25)	82.89 (23)	83.27 (24)	83.12 (22)	83.80 (21)	83.96 (24)	83.90 (27)	83.98 (27)	84.71 (25)	83.68 (301)
要介護 2	86.80 (16)	87.76 (14)	87.64 (15)	88.54 (14)	88.40 (17)	88.91 (16)	88.33 (17)	88.18 (15)	88.13 (17)	88.47 (16)	88.97 (14)	89.42 (15)	88.30 (186)
要介護 3	83.58 (7)	83.85 (7)	84.46 (6)	84.55 (6)	84.78 (7)	84.50 (8)	83.96 (9)	85.47 (11)	85.83 (10)	86.70 (9)	86.78 (9)	86.08 (10)	85.05 (99)
要介護 4	90.86 (3)	90.75 (3)	91.68 (5)	92.15 (6)	92.17 (5)	92.25 (6)	92.33 (6)	92.42 (6)	92.20 (7)	92.50 (5)	92.43 (5)	92.67 (6)	92.03 (63)
要介護 5	73.17 (1)	73.97 (1)	73.33 (1)	73.42 (1)	73.50 (1)	73.58 (1)	73.67 (1)	73.75 (1)	73.83 (1)				73.58 (9)
平均 (合計)	84.13 (79)	84.35 (78)	84.52 (80)	84.96 (80)	84.88 (81)	84.79 (82)	84.85 (83)	84.88 (85)	84.90 (95)	87.00 (85)	86.95 (81)	87.32 (80)	85.29 (989)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています。

4. 職員充足度（令和4年3月現在）

職員 17 名（正職員 2 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 12 名）

機能訓練指導員を
含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4月	26	758	2258.50	29.2	13.18	2.22	12.15	2.40
5月	26	697	2289.75	26.8	12.93	2.07	12.00	2.23
6月	26	697	2301.25	26.8	13.43	2.00	12.43	2.16
7月	27	704	2351.50	26.1	13.28	1.97	12.22	2.14
8月	26	675	2177.50	26.0	12.30	2.11	11.29	2.30
9月	26	760	2126.25	29.2	12.41	2.36	11.41	2.57
10月	26	766	2255.50	29.5	12.74	2.32	11.73	2.52
11月	26	781	2057.50	30.0	12.00	2.50	11.55	2.60
12月	27	773	2257.25	28.6	12.75	2.24	12.29	2.33
1月	25	696	2011.00	27.8	11.36	2.45	10.93	2.54
2月	24	675	1980.25	28.1	12.38	2.27	11.93	2.36
3月	27	716	2159.75	26.5	12.20	2.17	11.74	2.26

令和3年度 姫路市安室地域包括支援センター

事業報告書

令和3年4月に介護保険報酬の改定があり、予防支援については、変更となる部分は少なかったが、感染症や災害への対応力も強化できるよう検討していく必要があり、今後3年の間に取り組んでいきたい。

高齢者虐待疑いについて、今年度は7件において市との協議を行い、対応している。昨年に比べ件数は減ったものの、コロナ禍による外出自粛要請が長期化することで、高齢者本人や家族等の負担が増すことにより、高齢者虐待が発生し深刻化するリスクが高まることも考えられる。引き続き姫路市高齢者虐待等マニュアルに基づき、市や中央保健福祉センター等関係機関と連携をとり、対応していく。

姫路市各地区で行われている生活支援体制検討会議については、今年度も安室校区で第3回を開催することができた。自治会ごとに話し合いを行い、各地区の困りごと等を話し合い、共有することができた。安室東校区には安室校区での報告を行い、連合自治会長への働きかけを継続していく。

事業所内連携については、今年度も引き続き毎日朝礼でミーティングを実施し、伝達事項や研修報告、地域役員からの情報、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行うことができている。また、月1回の職員会議を継続して行い、毎月1人ずつ担当者を決め、主催してもらうことで、各職員のスキルアップと、事業所内での職員研修の機会を作ることができている。

外部研修については、案内を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるようにしており、コロナ禍の影響により、オンラインで受講できる研修が増えたことにより、研修を受ける機会が増えており、今後も事業所全体でのスキルアップにつなげていきたい。

認知症カフェについては、昨年度、姫路市への登録の基準が変更となり、基準が厳しくなり、書類等も煩雑となったが、2グループが継続して姫路市に登録できている。ただ、コロナの影響で1グループ1回の開催のみで継続開催には至っていない。開催時には、認知症に関する講座とDASCを行った。今後も開催再開に向け、支援を継続し、認知症予防、早期発見、啓発に取り組んでいく。

いきいき百歳体操については、今年度から始まった年1回のフレイルチェックをコロナ禍により全グループ実施することができなかったが、3グループ実施、2グループで運動指導士の指導を受ける事ができた。また、コロナの影響で閉鎖するグループも出てきている。

介護予防については、昨年度コロナの影響で中止となった安室東公民館での介護予防講座を、今年度は4月に開催することができた。コロナによるまん延防止等重点措置期間中だったため、参加者は少なかったが、他サービス事業所と連携し、楽しんでもらうことができた。安室公民館でも、毎月開催されている公民館講座「公民館の保健室」で3月に介護予防講座を開催することができた。

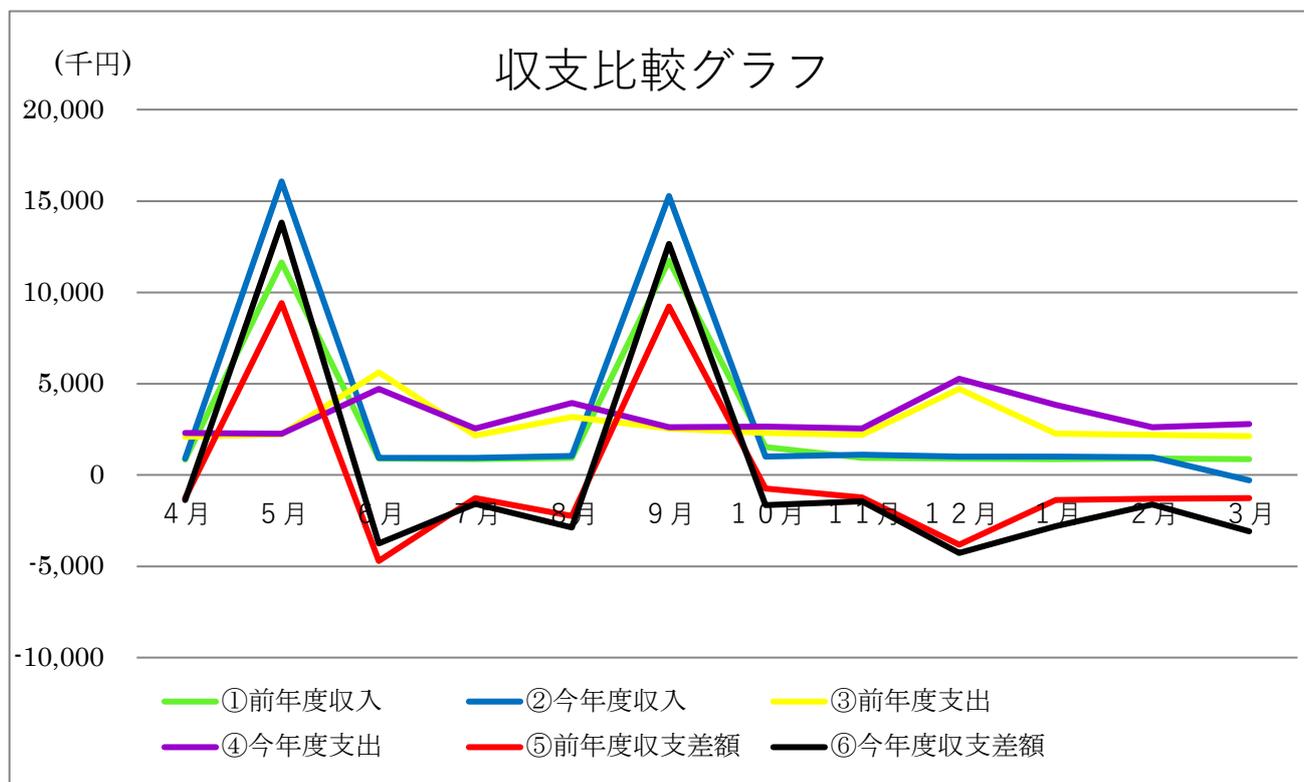
今年度も、センター便りを3ヶ月に1回、地域役員向け活動報告書を2ヶ月に1回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んでおり、引き続き地域回りを継続し、地域との連携強化に努めていく。

年間収支比

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	835	11,628	904	874	939	11,739	26,919	
②今年度収入	911	16,068	945	939	1,038	15,264	35,165	131
③前年度支出	2,090	2,222	5,615	2,144	3,185	2,531	17,787	
④今年度支出	2,280	2,254	4,702	2,531	3,930	2,624	18,321	103
⑤前年度収支差額	-1,255	9,406	-4,711	-1,270	-2,246	9,208	9,132	
⑥今年度収支差額	-1,369	13,814	-3,757	-1,592	-2,892	12,640	16,844	184
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	1,538	947	909	880	902	874	32,969	
②今年度収入	998	1,109	991	1,008	959	-296	39,934	121
③前年度支出	2,285	2,195	4,722	2,259	2,194	2,129	33,571	
④今年度支出	2,658	2,557	5,264	3,820	2,595	2,784	37,999	113
⑤前年度収支差額	-747	-1,248	-3,813	-1,379	-1,292	-1,255	-602	
⑥今年度収支差額	-1,660	-1,448	-4,273	-2,812	-1,636	-3,080	1,935	

※5月・9月 姫路市に委託料収入あり



総合相談支援事業の相談者(重複あり)

(件)

区分	家族・本人	行政 (市役所)	行政 (警察等)	地域包括 支援セン ター	ケアマネ ジャー	介護保険 サービス事業者	医療機関	民生委員	地域 団体等	その他
4月	156	2	1	0	9	0	4	7	1	0
5月	106	4	1	0	13	2	2	5	0	1
6月	114	2	1	0	13	3	9	8	4	5
7月	83	8	2	0	11	6	5	6	1	2
8月	178	6	0	1	12	2	10	0	1	2
9月	150	0	0	1	15	8	7	8	3	4
10月	135	6	2	0	28	2	13	6	3	12
11月	146	10	0	0	12	2	22	3	1	9
12月	133	4	0	0	10	10	8	7	2	20
1月	135	5	0	0	18	7	7	3	1	6
2月	107	0	0	0	9	2	6	3	2	4
3月	106	0	0	1	3	0	4	1	1	3
合計	1,549	47	7	3	153	44	97	57	20	68

令和3年度 特別養護老人ホームサンライフ土山

事業報告書

兵庫県内の新型コロナウイルス感染者数の増減や緊急事態宣言発令により、家族様の面会制限と緩和をおこなった。面会制限の緩和については、月1回の予約制で、ワクチン接種を2回終了した方2名まで玄関先で距離をあけるなど感染対策を行いながら面会を実施した。規制の緩和をおこなったが、平日に面会に来にくい家族様もおられたため、各ユニットで撮影した利用者様の写真を身元引受人様へ送付した。ZOOMでの面会も引き続き行なった。

感染症対策については、非接触型体温計を使用した利用者様と職員の検温と、エレベーターなどの設備で人が触れやすい箇所の消毒を継続している。

行事については、ユニットやフロア単位で小規模の夏祭りや敬老会の実施をおこなった。外国人職員も浴衣を着用し、利用者様も喜ばれている姿を見ることが出来た。

各ユニット間でEPA候補生の業務内容の差が出てきているということであったが、勤務年数に応じたユニット業務やおこなえる勤務の目安を作成し、業務や指導内容の統一化を図った。同様に、インドネシアの技能実習生においても指導内容の統一をおこない、数カ月単位でのステップアップがおこなえるように指導をおこなった。他にも、技能実習指導の初級試験に向けての実技練習をおこない、3名とも試験に合格となった。EPA候補生についても、3名が介護福祉士国家資格を取得した。

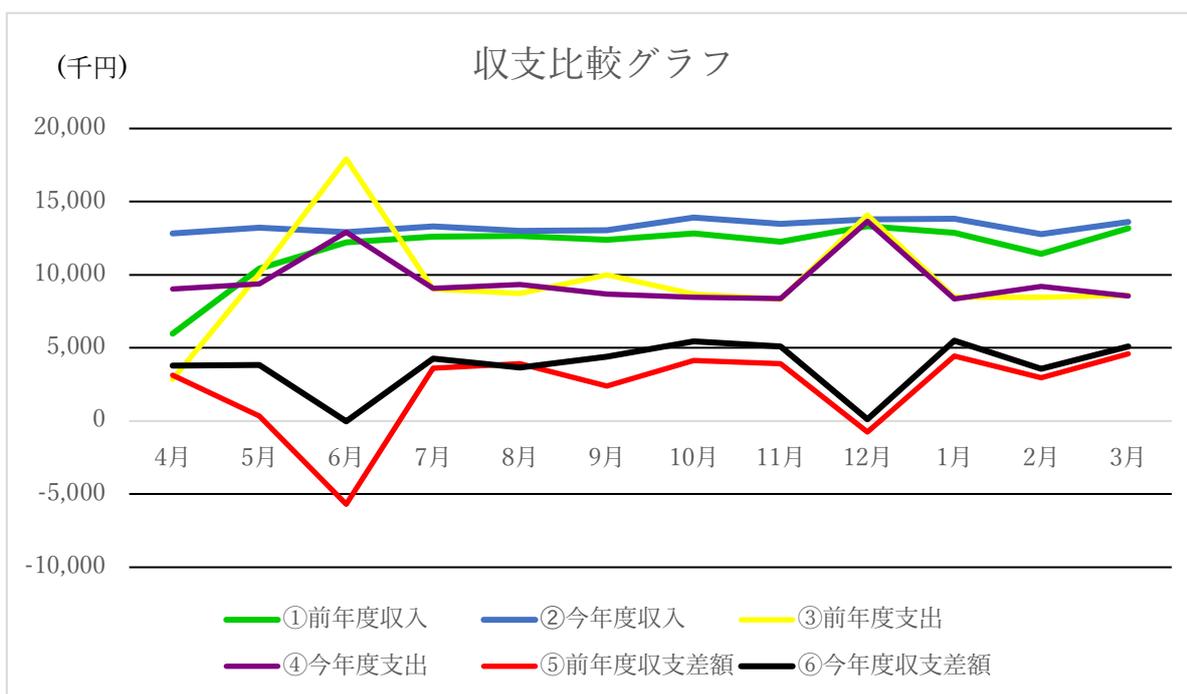
入所待機者について、特養申込者が少ない状況ではあるが、ショートとも連携をし、ロング候補者を増やし、ロングから特養への移行がスムーズに行えるように努めた。入院者を出さないように主治医と連携を図った。年度の後半においては、新型コロナウイルスが当施設で蔓延し、利用者様、職員共に感染者が複数名発生した。対応としての課題は残ったが、理事長や他施設からの応援もあり約1ヶ月で終息に至った。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	29,709	30,685	28,672	29,288	28,555	29,115	176,024	—
② 今年度収入	28,660	30,150	29,227	30,328	31,091	29,557	179,013	101.7
③ 前年度支出	22,797	21,412	36,068	20,683	21,164	20,831	142,955	—
④ 今年度支出	23,683	22,511	35,117	21,025	27,526	21,660	151,422	105.9
⑤前年度収支差額	6,912	9,273	-7,396	8,605	7,391	8,284	33,069	—
⑥今年度収支差額	4,977	7,639	-5,840	9,304	3,565	7,998	27,591	83.4

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	29,818	28,671	29,966	29,994	26,794	29,567	350,834	—
② 今年度収入	31,003	29,490	29,251	27,143	29,288	29,486	354,674	101.1
③ 前年度支出	21,867	20,304	32,933	23,833	22,409	20,953	285,255	—
④ 今年度支出	23,570	21,448	33,947	22,263	24,655	22,750	300,056	105.2
⑤前年度収支差額	7,951	8,367	-2,967	6,161	4,385	8,614	65,579	—
⑥今年度収支差額	7,643	8,215	-4,514	4,881	4,803	6,937	55,556	84.7



2. 利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R2 年度実績	2,041	2,106	1,958	1,997	1,990	1,962	12,054
R3 年度実績	1,942	2,033	1,993	2,087	2,119	2,023	12,197
前年度との差異	-99	-73	35	90	129	61	143
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2 年度実績	2,041	1,966	2,047	2,071	1,833	2,033	24,046
R3 年度実績	2,123	2,038	2,050	2,108	1,912	1,992	24,420
前年度との差異	82	72	3	37	79	41	374

3. 入院者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R2年度実績	44	47	93	135	144	77	540
R3年度実績	122	99	81	14	8	45	369
前年度との差異	78	52	-12	-121	-136	-32	-171
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度実績	95	64	94	44	86	59	982
R3年度実績	34	56	96	35	48	167	805
前年度との差異	-61	-8	-2	-9	-38	108	-177

4. 稼働率

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R2年度実績	97.1	97.0	93.2	92.0	91.7	93.4	96.8
R3年度実績	92.5	93.7	94.9	96.1	97.6	96.3	95.2
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度実績	93.4	93.4	94.3	95.4	93.5	93.7	94.0
R3年度実績	97.8	97.0	94.4	97.4	97.5	91.8	95.6

5. 令和3年度別要介護度別利用者数

	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満	0	0	0	0	0
65歳以上～75歳未満	0	10 (1)	85 (3)	381 (13)	476 (17)
75歳以上～85歳未満	0	557 (19)	3455 (114)	2435 (80)	6447 (213)
85歳以上～95歳未満	31 (1)	3631 (120)	7274 (246)	4151 (138)	15087 (505)
95歳以上	0	182 (6)	804 (27)	1135 (38)	2121 (71)
100歳以上	0	365 (12)	730 (24)	0	1095 (36)
合計	31 (1)	4745 (158)	12348 (414)	8102 (269)	25226 (842)

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています。

6. 令和3年度 事故分類別発生者数

	A	B	C	合計
合計	2	2	209	209

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

【Aランク】

・N様 14：50フロア歩行時、バランスを崩し転倒。背骨の圧迫骨折（12胸椎）一日入院し、次の日退院。

・U様 他居室で食事介助を行なっていると「ドン」という音がしたため訪室すると、左側臥位で横になっておられる本人を発見する。

左大腿骨頸部骨折で18日間の入院加療後、退院。

7. 令和3年度 退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	1	1	1	0	2	0	5
病院	0	1	1	1	0	1	4
急死	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	2	2	1	2	1	9
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	0	1	0	0	0	0	6
病院	0	0	0	2	0	1	6
急死	0	1	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	0	0	10
合計	0	2	1	2	0	1	22

令和3年度サンライフ土山ショートステイ

事業報告書

本年度は、サンライフ土山特養と同様に「コロナ感染防止で経営力強化委を目指そう」をモットーに職員一人ひとりが業務中・公休時に責任ある行動が取れるように手洗い・消毒・うがい・マスクの着用の徹底及び不要不急の外出を控え感染防止に努めていくを目標に取り組んだ。しかしながら、2月は新型コロナウイルスによるクラスターに伴い営業を中止した。ショートステイとしての感染者は1名のみで感染拡大は防ぐことができた。

生活相談員・ユニットリーダーとも責任感を持ってあたった。しかし苦手分野においては力量不足が見受けられるので改善に繋げていく必要がある。

忘れ物に関しては、薬の袋・目薬や塗り薬といった小さな荷物の忘れ物が目立ったが、居室ごとに小物ケースを購入すること、荷物の写真も撮影場所によっては、蛍光灯・電球によって色彩が変わってくるので統一した場所で徹底することで改善に繋がった。

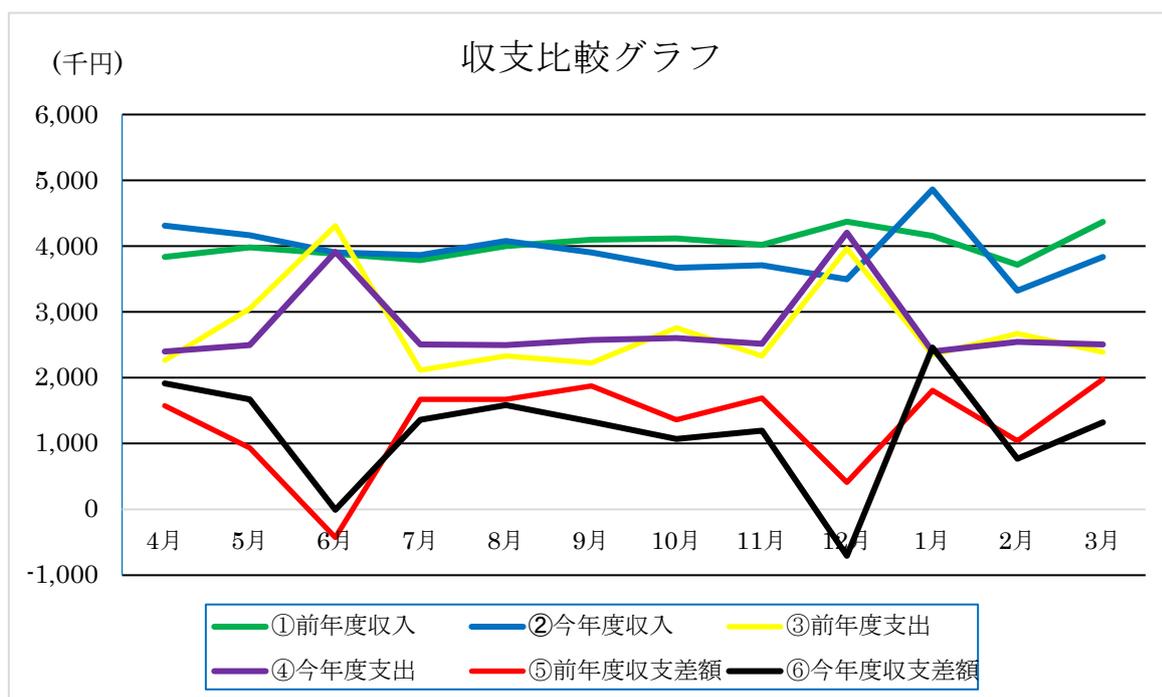
今年度の事故件数は32件で昨年度の28件を上回ってしまった。皮膚の弱い利用者様の内出血や剥離、独歩の方が歩行時に転倒され骨折事故が1件起こった為、原因の追究と対策を部署で話し合い、再発防止に努めた。

収入面では、目標である稼働率98.5%を達成が出来ず、今年度の平均稼働率は91.3%。利用人数・宿泊人数・収入すべてが前年度を上回る結果となったが、2月は新型コロナウイルスによるクラスターにより収入面は減っている。迅速な対応により3月からは再開に繋がっている。今年度、ロングから土山特養入所者15名。特に7月に3名が特養入所された際は、スムーズに次のロングの方のご案内が出来なかったことが反省点であり、空床が発生しないよう努めていく。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,905	3,572	4,425	3,791	4,251	3,157	23,101	—
②今年度収入	3,185	4,255	4,513	4,215	3,914	3,683	23,765	102.8
③前年度支出	2,594	2,716	4,927	2,819	2,785	2,695	18,536	—
④今年度支出	2,845	2,753	4,669	2,677	3,299	3,219	19,462	104.9
⑤前年度収支差額	1,311	856	-502	972	1,466	462	4,565	—
⑥今年度収支差額	340	1,502	-156	1,538	615	464	4,303	94.3
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	2,560	2,840	3,218	3,991	3,735	3,320	42,765	—
②今年度収入	4,236	3,894	4,479	3,373	2,428	3,855	46,030	107.6
③前年度支出	2,672	2,359	5,363	2,725	2,893	2,553	37,101	—
④今年度支出	2,852	2,641	4,571	2,664	2,999	2,701	37,890	102.1
⑤前年度収支差額	-112	481	-2,145	1,266	842	767	5,664	—
⑥今年度収支差額	1,384	1,253	-92	709	-571	1,154	8,140	143.7



2. 令和2年度・令和3年度 利用人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
2年度実績	272	273	319	281	310	237	1,692
3年度実績	238	314	298	303	292	283	1,728
前年との差異	-34	41	-21	22	-18	46	36
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2年度実績	184	214	247	294	282	243	3,156
3年度実績	300	291	322	283	146	277	3,347
前年との差異	116	77	75	-11	-136	34	191

3. 令和2年度・令和3年度 宿泊人数比較 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
2年度実績	248	247	296	246	272	200	1,509
3年度実績	193	273	257	260	252	240	1,475
前年との差異	-55	26	-39	14	-20	40	-34
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2年度実績	147	184	212	263	244	208	2,767
3年度実績	260	246	286	244	133	244	2,888
前年との差異	113	62	74	-19	-111	36	121

4. 令和2年度・令和3年度 月ごとの稼働率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率(2年)	90.7	88.1	106.3	90.6	100	79.0	
稼働率(3年)	79.3	101.2	99.3	97.3	94.1	94.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
稼働率(2年)	59.4	71.3	79.6	94.8	100.7	78.3	86.5
稼働率(3年)	96.7	97.0	103.8	91.2	52.1	89.3	91.3

5. 令和3年度年齢別・介護度別利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満					3 (1)		10 (2)	13 (3)
65歳以上～ 75歳未満			17 (4)	6 (2)	328 (12)	60 (4)		411 (22)
75歳以上～ 85歳未満		45 (9)	89 (19)	131 (20)	330 (26)	64 (3)	1 (1)	660 (78)
85歳以上	2 (1)	42 (11)	417 (58)	386 (47)	378 (40)	869 (46)	144 (12)	2238 (215)
合計		87 (20)	523 (81)	523 (69)	1039 (79)	993 (53)	155 (15)	3320 (317)

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています

6. 令和2年度・令和3年度 事故件数比較

	A	B	C	合計
事故件数(2年)	1	1	26	28
事故件数(3年)	1	1	30	32

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

R3年度Aランク事故

A 他者の対応中にフロアにて転倒 右大腿骨骨折

B フロアでの転倒により鼻出血みられ受診する。

令和3年度 特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

事業報告書

令和3年度もコロナ感染の流行が続く中、特養職員全体にゾーニング等のシュミレーションを2回行い、24時間換気や消毒する所を決め、また感染対策のDVDを見てもらうなど感染対策を強化していたが当施設でもコロナクラスターが発生した。2月1日に職員1人と入居者2人のコロナ感染が判明し感染対策強化するも、日を迫うごとに感染者数が増加し、入居者34名、職員13名が発症、入居者は入院できず当施設での対応となり、3月8日に終息した。

協力病院の診察・助言・コロナ治療薬の処方もないなか、多職種との連携を密に行い、日々入居者の状態を把握・判断し、協力病院に積極的に報告し指示を仰いだ。施設で酸素投与や点滴治療などを行ったが、呼吸状態悪化等により救急車を4件要請し3名搬送・入院することとなった。救急搬送ではないが、コロナ感染後に敗血症（1名）、心不全（1名）、肺炎（1名）を併発し計3名入院となった。コロナ感染後、居室に隔離中に転倒し骨折にて1名入院された。死亡者は0名におさえられた。

介護保険課などの外部からの指導・助言があり、感染対策の再確認や改善を行うことができ職員の感染対策への意識の向上・安心につながった。

また職員や入居者の感染が急速に増加し人員不足や感染防護備品の補充が追い付かない中、当該関連施設内等からの応援や物品補充が行われ、業務を円滑に行うことが出来た。

コロナ感染が疑われる利用者には積極的に抗原検査を施行し早期にゾーニングを行った。感染者の出したフロアの職員に対しても抗原検査をすぐに施行した。他少しでも症状がある職員にはPCR検査を積極的に進めた。入居者と職員の3回目ワクチン接種が早く出来るように厚生病院、職員に働きかけ感染拡大防止に努めた。次回のワクチン摂取時期にも早期に摂取できるように取り組み調整していきたい。

コロナ感染により隔離中の入居者にも出来る限りのケアを提供していたが、全身状態やADLの急激な悪化等により褥瘡発生が2件あった。

治療が必要な非感染者やコロナ感染後隔離解除日が8日以上すぎている入居者も、施設内でコロナクラスターが発生している為救急要請や受診を断られることがあった。さらにコロナ感染後、隔離解除日を5日間過ぎているにも関わらずコロナ抗原検査でうっすら陽性になったため協力病院にも断られ、搬送先がなかなか決まらなかった事があった。

クラスター終息後にクラスター発生について各フロア・部署で振り返りについてまとめた。今後コロナクラスターを発生させないように、また発生しても最小限で食い止められるように、今後も感染対策を強化し、シュミレーションの頻度を増やしたい。

協力病院も新型コロナウイルス治療薬の処方ができるようになったとのこと、必要時には施

設・家族様・協力病院と連携し早期治療に繋げ重症化を防ぎたい。

新型コロナウイルス感染防止対応と同時に、入居者へ安全で質の高いケアの提供が求められた。入居者、家族様との信頼関係が保てるようにコミュニケーションを図り、看取り期に5名看取った。コロナ禍でも防護服を着て面会をできるような体制を整え、最後まで家族にも付き添ってもらえるようにし、家族からもここで看取ってもらえて良かったと言ってもらえた。

平均介護度 4.06（前年度 4.12）入居者が高齢化、重度化している状況の中、多職種と共有・チームケアをし、入居者の身体・精神状態や生活機能をアセスメントし、生活機能が維持できるように支援した。入院者数 29 名（前年度 43 名）、延べ入院日数 805 日（前年度 982 日）、稼働率 95.5（前年度 94.1）となった。肺炎での入院は 9 名（前年度 17 名）、尿路感染症 1 名（前年度 5 名）、骨折 2 名（前年度 3 名）、新型コロナウイルス感染による入院 3 名、その他であった。

肺炎予防に努め、施設でできる医療処置（点滴、在宅酸素等）の説明を行いご本人および家族様の同意のもと施設で対応した。自力喀痰できない入居者に、5名の介護士（認定特定行為業務従事者）と連携し、必要時吸引ができ、誤嚥や窒息・肺炎予防に繋がった。そして適切な時期に受診に繋げる判断や、必要に応じて日頃から嘱託医に状態を適切に報告するようにした。

骨折が 2 件、誤薬が 2 件あった。リスク委員の開催・安全管理マニュアル・業務手順の見直し・研修を実施し再発防止に向けて安全管理に取り組んだ。

職員の健康（健診、メンタルヘルス対策、腰痛予防等）の保持増進にも配慮した。

業務の簡略化・効率化を図るため心療内科往診 12 名の内服を薬局に入れてもらうように変更し、配薬にかかる時間が短縮し業務の効率化に繋がった。また、申し送りに関しては、以前は介護士が状態報告を行い看護師はそれに対して指示を出していたが、R3年度からは、事前に看護師が介護士に申し送った内容を言うように変更することで簡略化につながり、申し送りが正確にできているか把握できるようになった。次に、受診一覧を作り業務の効率化を図った。

医務室で毎日カンファレンスする事で、方向性を共有し入居者の異常の早期発見に努め、今後も安心・安全な看護提供ができるようにしていきたい。

1. 褥瘡

項目	R3年9月末日	R4年3月末日
褥瘡者	0名	0名

2. 看取り

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R3年	1名	0名	1名	0名	2名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	0名	5名

3. 利用者数・稼働率・入院者数・延べ入院日数・退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数 (人)	1942	2033	1933	2087	2119	2023	2123	2038	2050	2108	1912	1992	24420
稼働率 (%)	92.4	93.6	94.9	96.1	97.6	96.3	97.8	97.0	94.4	97.4	97.5	91.8	95.5
入院者数 (人)	2	2	2	1	1	1	2	4	3	0	5	5	28
延べ入院 日数	122	99	81	14	8	45	34	56	96	35	48	167	805
退所者 (人)	1	2	2	1	2	1	0	2	1	2	0	1	15

I. 肺炎予防の対策として、上野歯科と連携し、口腔内をいつも綺麗にしておくことや寝る姿勢等日常生活の工夫をし、誤嚥しないように唾液腺マッサージや嚥下体操を施行し肺炎予防に努めた。

4. R3年度 事故

	計
Aランク	2
Bランク	2
Cランク	205
合計	209

A：入院加療を要する事故 B：受診・通院を要する事故 C：受診・通院を要さない事故

Aランク：歩行時に転倒され、第12胸椎圧迫骨折、脳出血あり、1日入院。

コロナ罹患後の居室隔離中、転倒され左大腿部頸部骨折、手術。

Bランク：介助中に左下腿打撲、その際10cm裂傷

Cランク：誤薬2件 薬の飲み忘れ等13件

5. 研修

		参加人数
6月	バイタルサインについて	28人
7月	尿路感染について	13人
11月	AED、心肺蘇生	30人

令和3年度特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

事業報告書

令和3年度は毛髪への混入が1件、毛髪以外の異物の混入が2件、アレルギーのある利用者様への誤配膳が2件、起きてしまった。

毛髪への混入に関しては、仕事に入る前に粘着テープによる帽子及び厨房着に付着した毛髪等の異物除去に努めているが、混入が発生してしまった。原因としては、帽子のかぶり始めは毛髪がネットに全て収まっているが、時間が経つにつれこめかみ横辺りの髪の毛が出てきてしまっていることが考えられる。ネットから出てきているときは、都度声掛けにて帽子のかぶり直しを促している。

毛髪以外の異物の混入は、和え物に野菜の袋のビニール片と主菜の中に木片が混入していた。ビニール片に関してはマニュアルの徹底が不十分であったため、再度マニュアルを配布し、徹底するようにした。木片に関しては、木べらの一部であったが、使用し始めて2か月経っておらず経年劣化とは考えられない。割れた原因は不明であるが、使用前と洗浄後に異常がないかの確認を徹底するようにした。

また、盛り付け台に小さなラップ片が落ちていたり、思いがけない場所にくっついていることが多々あり、異物混入につながる恐れがあるため、その都度声掛けしラップ片が落ちている可能性を意識するようにしている。

アレルギーのある利用者様への誤配膳については、チェックが不十分であったことが原因であり、配膳前のチェックを徹底するようにした。その他に、献立表に食材変更の記載に加え、アレルギーの原因となる食材に蛍光ペンで印を付け、アレルギー食材が使われていることを一目で分かるようにした。そして、最終チェックの際は変更があるものと考え、代替品がない際は本当にないか献立表でチェックするようにした。

献立の充実に関しては、調理現場の常勤職員が2名いたため、今まで人員の問題で出せなかった天ぷらやコロケ等の手の込んだ料理や手作りおやつを提供する予定だったが、職員の退職や怪我による長期療養のため人員が不足し、提供が適わなかった。

人員が常にギリギリの状態だったため職員に負担がかかっていたが、3月から新しい非常勤職員が加わったことで、少しずつ負担が解消されてきている。

デイサービスの配膳ミスをなくすことについては、仕事始めに人数・食種・禁止食品の有無を声に出して確認し、職員同士で情報共有することを継続して行った。また、刻み食や代替品は料理ごとにまとめるのではなく、色違いのトレーに置くことでミスを減らすことができた。

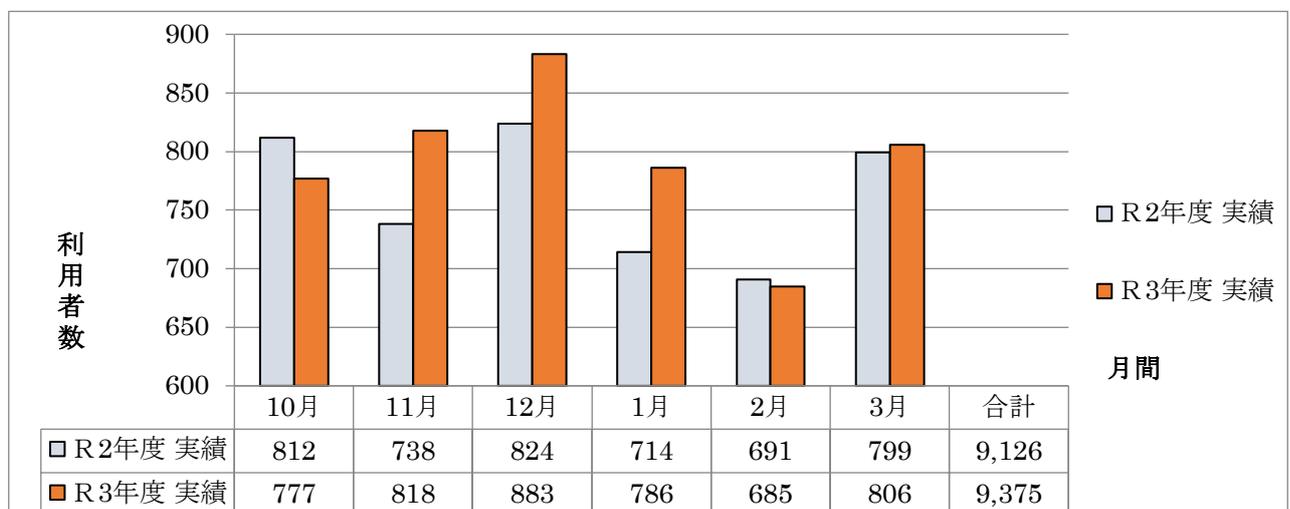
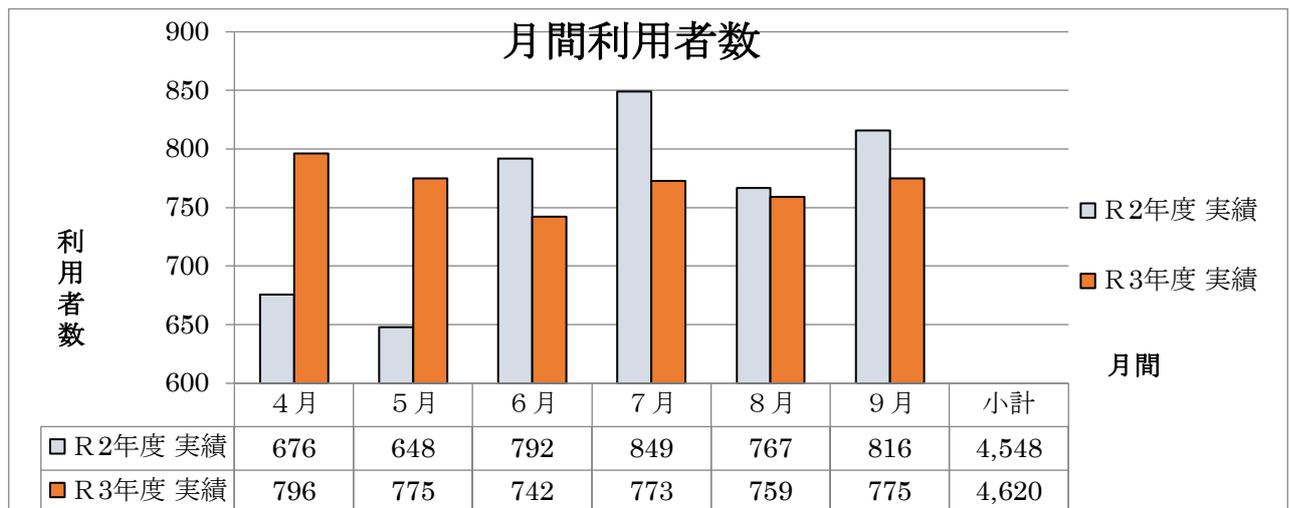
多職種連携については、2021年度介護報酬改定に伴い、多職種連携における管理栄養士の関与の強化が求められており、看取り期における栄養ケアの充実や褥瘡の改善等、多職種と連携を図りながら継続して改善に努めたい。

令和3年度 デイサービスサンライフ土山

事業報告書

昨年度に引き続きコロナウィルス感染症の感染リスクを抱えながらの事業運営となった。活動制限がある中どのような活動が出来るか、ご利用者に楽しんでいただけるサービス内容の再検討、改善に努め、コロナ禍でもデイサービスを利用することにより、閉じこもり防止や社会参加に繋がるよう支援した。収入面は約3%増となったが、サービス付き高齢者向け住宅等施設の感染対策の強化により、利用自粛等があり、月平均利用人数は30.0名となり、目標31.0名を達成出来なかった。支出面では人件費等経費増大により大幅な支出増となり、収支差額は約11%減となっている。今後も感染予防対策に取組み、介護支援専門員や他事業所との連携を強化し、新規利用者の柔軟な受け入れ態勢を整え、ご利用者・ご家族のニーズに合わせたサービス提供が出来るよう努めていきたい。

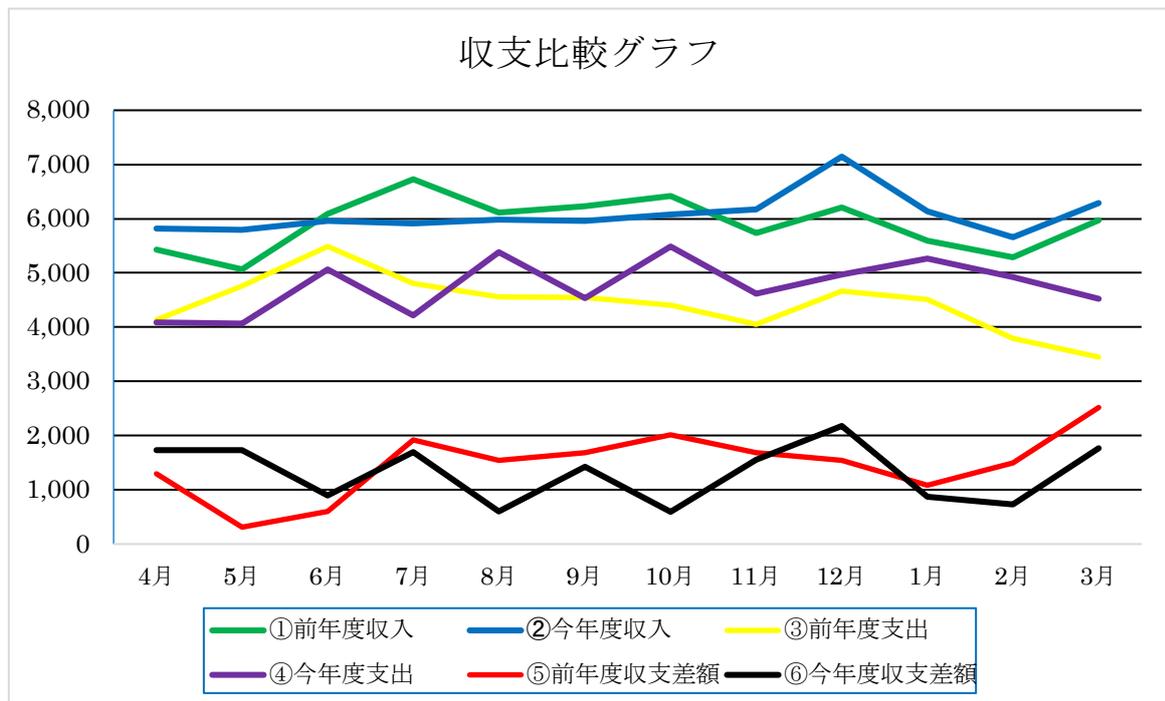
1. 利用者数



2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	5,434	5,066	6,089	6,728	6,109	6,231	35,657	—
② 今年度収入	5,821	5,800	5,960	5,916	5,981	5,955	35,433	99.4
③ 前年度支出	4,133	4,755	5,488	4,804	4,563	4,542	28,285	—
④ 今年度支出	4,086	4,066	5,060	4,216	5,384	4,531	27,343	96.7
⑤ 前年度収支差額	1,301	311	601	1,924	1,546	1,689	7,372	—
⑥ 今年度収支差額	1,735	1,734	900	1,700	597	1,424	8,090	109.7
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	6,414	5,740	6,204	5,596	5,294	5,966	70,871	—
② 今年度収入	6,081	6,173	7,145	6,138	5,658	6,292	72,920	102.9
③ 前年度支出	4,403	4,053	4,663	4,509	3,792	3,448	53,153	—
④ 今年度支出	5,487	4,614	4,967	5,264	4,927	4,525	57,127	107.5
⑤ 前年度収支差額	2,011	1,687	1,541	1,087	1,502	2,518	17,718	—
⑥ 今年度収支差額	594	1,559	2,178	874	731	1,767	15,793	89.1



3. 年齢別・介護度別利用者数

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満									
65歳以上		22	94	422			78		616
75歳未満		(5)	(12)	(52)			(12)		(81)
75歳以上		195	547	816	1312	228			3098
85歳未満		(49)	(70)	(65)	(99)	(18)			(301)
85歳以上		355	975	2258	854	961	235	23	5661
		(71)	(134)	(205)	(87)	(56)	(29)	(6)	(588)
合計		572	1616	3496	2166	1189	313	23	9375
		(125)	(216)	(322)	(186)	(74)	(41)	(6)	(970)

前半の数字は延べ回数、()内の数字は実人数を示しています

4. 職員充足度 (R4年3月現在)

職員 20 名 (正職員 2 名 非常勤看護師 3 名 非常勤介護職員 15 名)

個別機能指導員 (看護師) 1 名含まない

	営業日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員/日	職員一人対	職員/日	職員一人対
4月	26	796	2192	30.6	12.8	2.39	12.0	2.54
5月	26	775	2429.5	29.8	13.7	2.17	12.9	2.31
6月	26	742	2387	28.5	13.9	2.04	13.2	2.16
7月	27	773	2517	28.6	14.2	2.01	13.5	2.11
8月	26	759	2567.3	29.2	14.5	2.01	13.8	2.11
9月	26	775	2528.6	29.8	14.8	2.02	14.0	2.13
10月	26	777	2491.5	29.9	14.1	2.13	13.3	2.24
11月	26	818	2208.5	31.5	12.9	2.44	12.1	2.59
12月	27	883	2422	32.7	13.7	2.39	12.9	2.54
1月	25	786	2273.5	31.4	12.8	2.45	12.1	2.59
2月	24	685	1965.5	28.6	12.3	2.32	11.5	2.48
3月	27	806	2425	29.9	13.7	2.18	12.9	2.31

令和3年度 サンライフ土山居宅介護支援事業所

事業報告書

令和3年度中は、担当利用者のコロナ感染や、利用事業所のコロナ感染の拡大などで、代替サービスを、緊急調整する事も増えた。介護サービスの利用制限をされる方は減ったが、活動量の減少で身体機能の低下に繋がり、入院や施設入所になられた方も多かった。コロナ感染予防に取り組みながら、出来る範囲で営業活動を行ったが、月平均5件程の新規の獲得しか出来なかった。今年度、8月～12月の間は一時的に4名体制で業務を行っていたが、サンライフ岡田居宅の開設に伴い、1名が異動、担当の利用者もサンライフ岡田居宅に移って頂いた。居宅変更された方や、終了者・入所者の数は、獲得した新規利用者を上回っており、収入が増えなかった事や、支出の方が予想以上に増え、最終的にマイナスとなった。今後は、営業方法の見直しを行い、地域の方々にもっと必要と思われる事業所になり、収入増に繋げていく。

1. 営業・新規獲得実績

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
営業実績	10	13	12	20	17	17	89
新規獲得	3	2	3	3	2	5	18
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業実績	8	6	6	4	7	7	127
新規獲得	9	2	2	4	2	6	61

2. 居宅介護料収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和2年度	980	981	937	894	967	921	5,680
令和3年度	916	930	955	1,029	1,009	947	5,786
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	994	856	899	888	887	906	11,110
令和3年度	1,013	1,013	1,022	909	952	927	11,622

3. 予防委託料収入

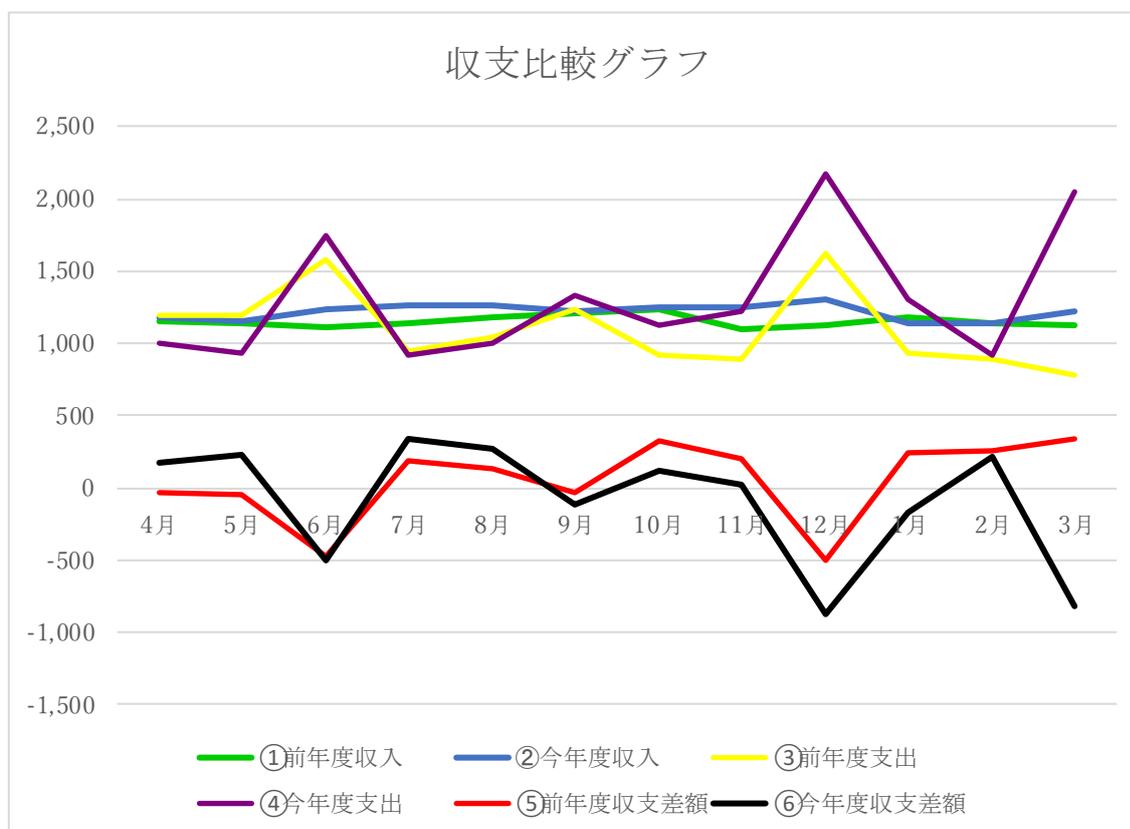
(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和2年度	167	160	167	167	171	171	1,003
令和3年度	163	147	144	136	132	136	858
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	171	174	167	177	152	152	1,996
令和3年度	145	135	153	124	142	137	1,694

4.年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	1,153	1,144	1,105	1,137	1,177	1,212	6,928	—
② 今年度収入	1,174	1,154	1,242	1,270	1,267	1,219	7,326	105.7
③ 前年度支出	1,188	1,189	1,579	951	1,041	1,239	7,187	—
④ 今年度支出	999	931	1,749	925	997	1,336	6,937	96.5
⑤前年度収支差額	-35	-45	-474	186	136	-27	-259	—
⑥今年度収支差額	175	223	-507	345	270	-117	389	—
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	1,242	1,096	1,129	1,184	1,139	1,126	13,844	—
② 今年度収入	1,244	1,255	1,302	1,142	1,138	1,217	14,624	105.6
③ 前年度支出	914	895	1,627	936	889	783	13,231	—
④ 今年度支出	1,125	1,227	2,174	1,311	917	2,044	15,735	118.9
⑤前年度収支差額	328	201	-498	248	250	343	613	—
⑥今年度収支差額	119	28	-872	-169	221	-827	-1,111	—

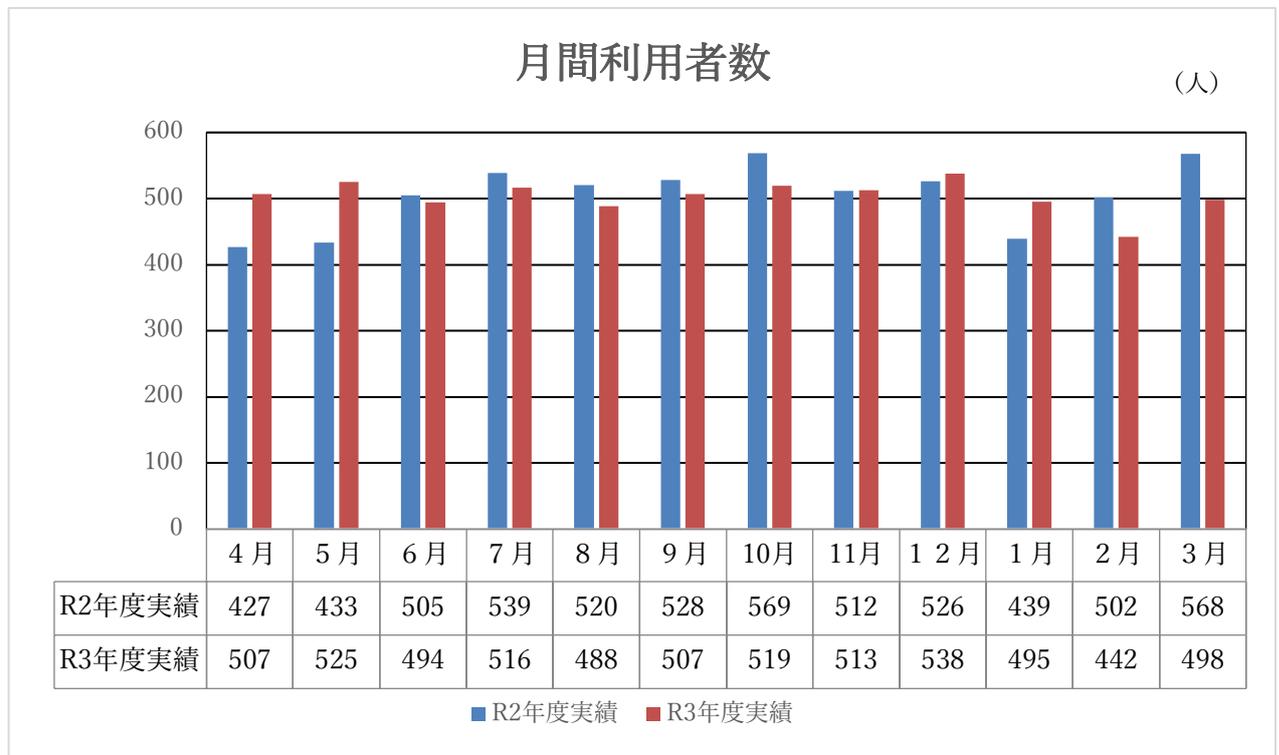


令和3年度 リハビリデイサービス サンライフ御立西

事業報告書

令和3年度も新型コロナウイルス感染防止対策の中での営業となり緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の期間には自主的に休まれる方・高齢者住宅等では長期での外出禁止となる場合やロングショートや特養入所による利用中止者もあり平均利用者数が19.07人と目標とする20人には届かない結果となった。収入面では4月より理学療法士の採用により個別機能訓練加算Ⅰ（ロ）の算定が実施出来るようになったこともあり約47万円の増収となったが、支出面では修繕や車検、派遣採用による人件費等の経費増大により前年度に比べ約550万増加となった。理学療法士採用により利用者からの好評の声を頂いている。今後も理学療法士のいるリハビリデイサービスとして認知してもらえよう営業活動に力をいれ退院時等の受け入れ先として利用して頂けるデイサービスとなれるよう努め新規利用者獲得に繋げたい。

1. 利用者数



令和2年度実績 6068人

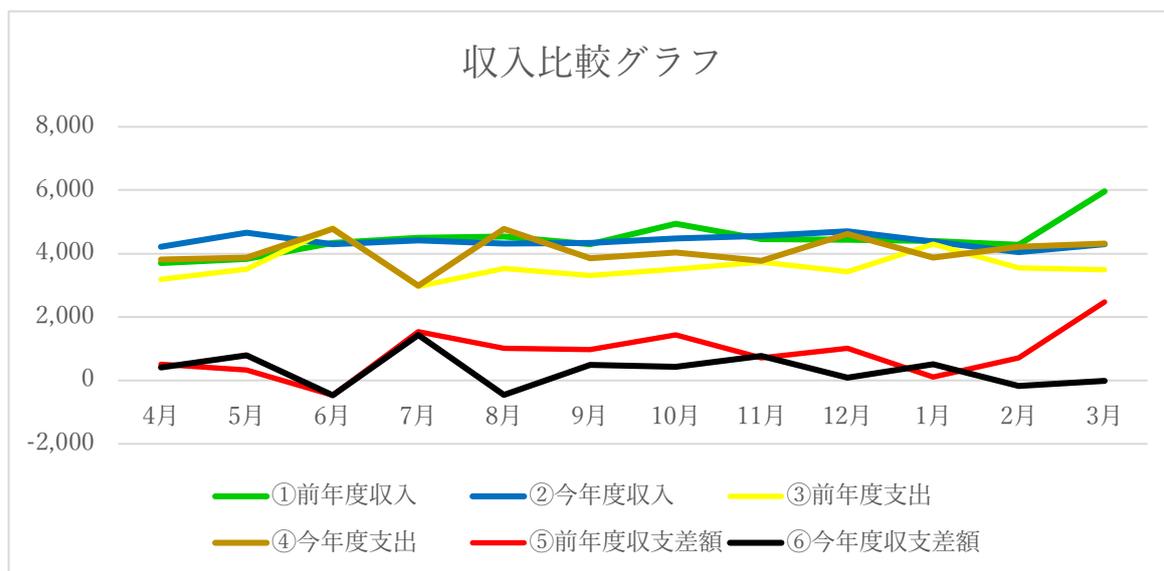
令和3年度実績 6042人

前年度比 99.6%

2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
① 前年度収入	3,675	3,813	4,320	4,475	4,454	4,269	25,006	—
② 今年度収入	4,223	4,657	4,306	4,421	4,312	4,347	26,266	105%
③ 前年度支出	3,191	3,507	4,812	2,964	3,528	3,318	21,320	—
④ 今年度支出	3,804	3,872	4,774	2,988	4,778	3,852	24,068	112.8%
⑤ 前年度収支差額	484	306	-491	1,511	926	951	3,686	—
⑥ 今年度収支差額	419	785	-468	1,433	-446	495	2,198	59.6%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
① 前年度収入	4,922	4,433	4,412	4,381	4,249	4,844	52,247	—
② 今年度収入	4,475	4,549	4,704	4,376	4,048	4,306	52,724	100.9%
③ 前年度支出	3,504	3,738	3,422	4,294	3,558	3,489	43,325	—
④ 今年度支出	4,037	3,777	4,622	3,874	4,213	4,315	48,906	112.8%
⑤ 前年度収支差額	1,418	695	990	87	691	1,355	8,922	—
⑥ 今年度収支差額	438	772	82	502	-165	-9	4,117	46.1%



3. 年齢別・介護度別利用者数

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満				388 (31)		31 (3)	92 (9)		511 (43)
65歳以上 75歳未満		45 (12)		636 (41)	207 (25)	267 (22)	142 (11)	9 (1)	1306 (112)
75歳以上 85歳未満		250 (60)	576 (77)	629 (72)	271 (35)	172 (19)	130 (12)		2028 (275)
85歳以上		208 (49)	527 (80)	661 (81)	661 (70)	193 (34)	6 (1)		2256 (315)
合計		503 (121)	1103 (157)	2314 (225)	1139 (130)	663 (78)	370 (33)	9 (1)	6101 (745)

前半の数字は延べ回数、()内の数字は実人数を示しています

4. 職員充足度 (R4年3月末現在)

職員名：20名【内訳】正職員3名、非常勤職員16名

							個別機能指導員 1名含まない	
	営業 日数	利用者/月	職員総時間数 /月	利用者/日	職員/月	職員一人 対	職員/月	職員一人 対
4月	26	507	1,820	19.38	10.6	1.8	9.5	2.0
5月	26	525	1,765	20.19	9.8	1.9	8.7	2.3
6月	26	494	1,744	18.96	10.1	1.8	9.1	2.1
7月	27	516	1,825	19.07	10.2	1.8	9.2	2.1
8月	26	488	1,725	18.69	9.5	2.0	8.6	2.2
9月	26	507	1,715	19.50	9.6	2.0	8.6	2.3
10月	26	519	1,792	19.92	10.0	1.9	9.1	2.2
11月	26	513	1,800	19.65	10.3	1.9	9.3	2.1
12月	27	538	1,904	19.89	10.5	1.8	9.5	2.1
1月	25	495	1,690	19.80	9.2	2.1	8.3	2.4
2月	24	442	1,639	18.38	10.1	1.8	9.1	2.0
3月	27	498	1,894	18.41	10.6	1.7	9.6	1.9

特別養護老人ホームサンライフ西庄

令和3年度 事業報告書

令和3年度経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう!!」をもとに、コロナ感染症対策のガイドラインの策定及び効率的なワクチン接種予防を行うと共にレクリエーションの強化、新規加算算定に取組んだ。

1. コロナ感染症対策の強化

I. コロナ対策のガイドラインの策定

日常業務では職員へ携帯用消毒及びフェイスシールドを配布しコマメな消毒や職員からの感染予防を防ぐよう配慮すると共に、5月にコロナ予防研修を実施、6月には非常食を使用し、食事提供時のコロナ対策訓練をする等して、今年度も入居者から感染者を一人も出すことなく対応が出来た。

BCP（ガイドライン）についても感染症委員会を中心に改善を重ね策定ができた。家族様には面会が出来ない状況が多いため、ZOOM面会の他、写真付きの手紙を定期的を送付し、入居者様の日頃の様子を家族にお知らせした。

II. 効率的なワクチン接種

看護師を中心にワクチンのスケジュール、ワクチンを打つ際の導線の検討などを行い、5月6月にスムーズに入居者様（1名を除く）・全職員への2回のワクチン接種を終える事ができ3月1日には3回目のワクチン接種もスムーズに行えた。

2. レクリエーションの強化

コロナ禍において、利用者様へのレクリエーションが少なく活動量や外出などの気分転換が図れない状況であった為、多くのユニットで毎日のラジオ体操やレクリエーションが行えているが、ユニットによっては困難な所もあった。また誕生会や夏祭りなどの月行事を実施し入居者様からは大変喜ばれたが、職員がコロナの陽性者や濃厚接触者となり人員が減る際は行えないこともあった。

3. 外国人労働者の教育

I. 介護技術の習得

コロナ等の影響下により、特定技能実習生・技能実習生が来日出来ていない。施設で勤務が開始された場合は計画に合わせ実行していきたい。

II. 生活支援の習得と外国人労働者の不安解消

コロナ等の影響下により、特定技能実習生・技能実習生が来日出来ていない。施設で勤務が開始された場合は計画に合わせ実行していきたい。

4. 職員のリフレッシュ及び腰痛予防ベルトの支給

1年間以上の勤務がある者は全員が4月から翌年3月までに有給または生活支援休暇取得で7日以上を取得が出来た。

また腰痛予防の為、職員で数種類の腰痛ベルトから選定をして、希望者全員に腰痛予防ベルトをレンタル支給した。

5. 新加算の取得

I. 加算の選択

現状の人員状況を鑑みプラスの見込みとなる、栄養マネジメント強化加算・口腔衛生管理加算Ⅰ科学的介護推進加算ⅡをLIFE系加算から算定を4月から行えた。

ADL等維持加算についてもリーダー以上の者へのバーセルインデックス研修を受講させLIFEへの入力を行い算定できるように行動し、令和4年4月からADL加算Ⅰが算定可能となっている。

また、外部のリスクマネジメント研修を受け7月から安全対策体制加算を算定し安全管理体制未実施減算を回避すると共に、8月からは精神科医師の往診を開始し精神科を担当する医師に係る加算も算定できたが、1月は看護師配置人数が少なく看護体制加算Ⅱの算定ができなかった。

II. LIFEの導入

栄養マネジメント強化加算・口腔衛生管理加算Ⅰ・科学的介護推進加算Ⅱ・ADL維持等加算算定に向け、NDソフトウェア及び厚生労働省等と何度も質問確認を行い、5月にリーダー会議にて説明会を開き、ほのぼのソフトを使用しLIFE入力方法・担当部署・担当割・入力スケジュールを作成し、システム化することで6月中に初回のデータ送信を実施し4月からの新加算算定を行い、それ以降も順次滞りなく入力をデータ送信ができた。

6. フロア間の業務のバラツキの低減

ユニット間をまたぐ勤務について、どちらの業務を優先すべきかまた、どの時間帯にどちらのフロアに居て欲しいか等の協議が出ている為、ユニット間をまたぐ早出・日勤の勤務については各フロアの勤務職員の動きと負荷などを勘案しユニット間をまたぐ勤務者の業務統一を協議すると共に状況変化があれば、フロア会議にて統一された業務を決定したが、一定の個人業務のバラツキは生じたままである。また、日勤業務については日勤勤務者の配置日数が少なく業務は統一できなかった。

7. 地域貢献

運営推進会議で自治会長や地域の方ともにコロナ禍で休止しているリストランテ・ヴォーノの再開について話し合い、12月クリスマス前にお弁当とプレゼントの配布を実施し、1月には感染対策のもと15名までの参加で開始をしたが、その後は、まん延防止重点措置が発動さ

れ休止となった。

また、9月には地震による火災が発生した想定で入居者平均要介護4.56の中、どのような避難が可能なのか検討しながら消防訓練を実施した。

消防署より実物大人形3体を借りて避難訓練を実施すると共に自治会長や元消防士の家族様にも参加して頂き反省会も行った。

8. 収入の確保と支出

特別養護老人ホーム入所希望待機者の減少により、退所後の新規入所者の確保が困難状況により退所後の平均稼働率が98.5%から97.9%に減少したが空床ショート利用を使用し目標の98%を何とか達成できた。

また、8月より、食費が1日、1,392円から1,445円になったことや平均要介護度が4.3から4.56に上昇していることに加え、4月より、栄養マネジメント強化加算・口腔衛生加算Ⅰ・科学的介護推進加算Ⅱ、8月より精神科医医師に係る加算の算定を行い収益増加に繋げた。

支出については、消毒などの衛生用品代や水道代の増加はあったが、外国人労働者4名が来日できず、日勤帯勤務者の確保が困難となり人件費が減少した。

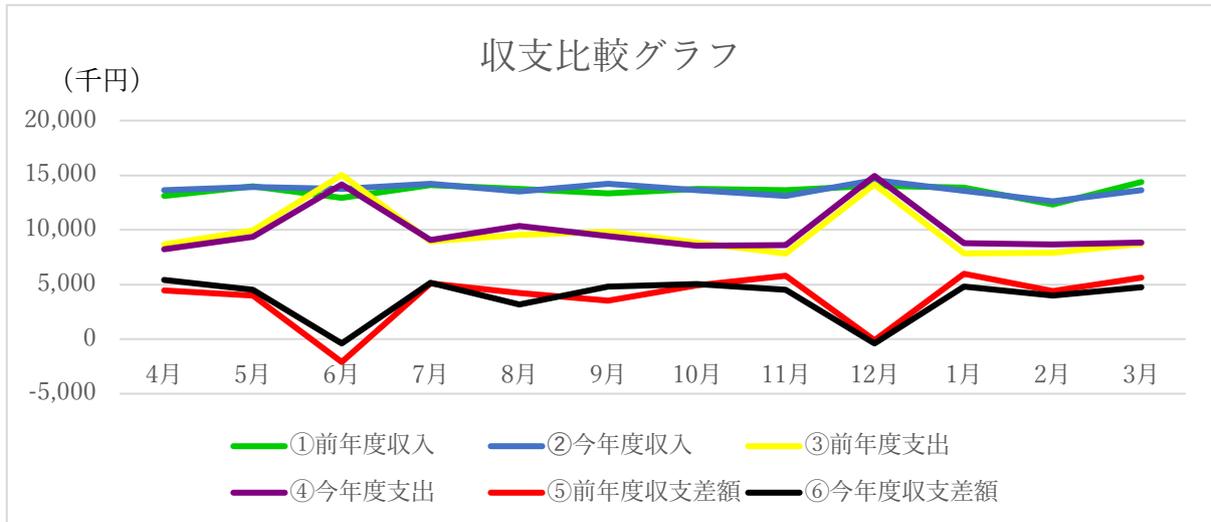
年間収入目標

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	13,102	13,954	12,923	14,093	13,727	13,348	81,147	—
②今年度収入	13,635	13,915	13,745	14,210	13,507	14,204	83,216	102.5
③前年度支出	8,674	9,945	15,023	8,976	9,534	9,831	61,983	—
④今年度支出	8,222	9,379	14,145	9,061	10,361	9,408	60,576	97.7
⑤前年度収支差額	4,428	4,009	-2100	5,117	4,193	3,517	19,164	—
⑥今年度収支差額	5,413	4,536	-400	5,149	3,146	4,796	22,640	118.1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	13,747	13,621	14,012	13,834	12,318	14,378	163,057	—
②今年度収入	13,611	13,110	14,553	13,571	12,610	13,626	164,297	100.7
③前年度支出	8,816	7,830	14,130	7,857	7,920	8,727	117,263	—
④今年度支出	8,563	8,590	14,933	8,790	8,641	8,856	118,949	101.4
⑤前年度収支差額	4,931	5,791	-118	5,977	4,398	5,651	45,794	—
⑥今年度収支差額	5,048	4,520	-380	4,781	3,969	4,770	45,348	99.0

(令和3年度は支出に本部人件費2,121,229円が含まれています。)

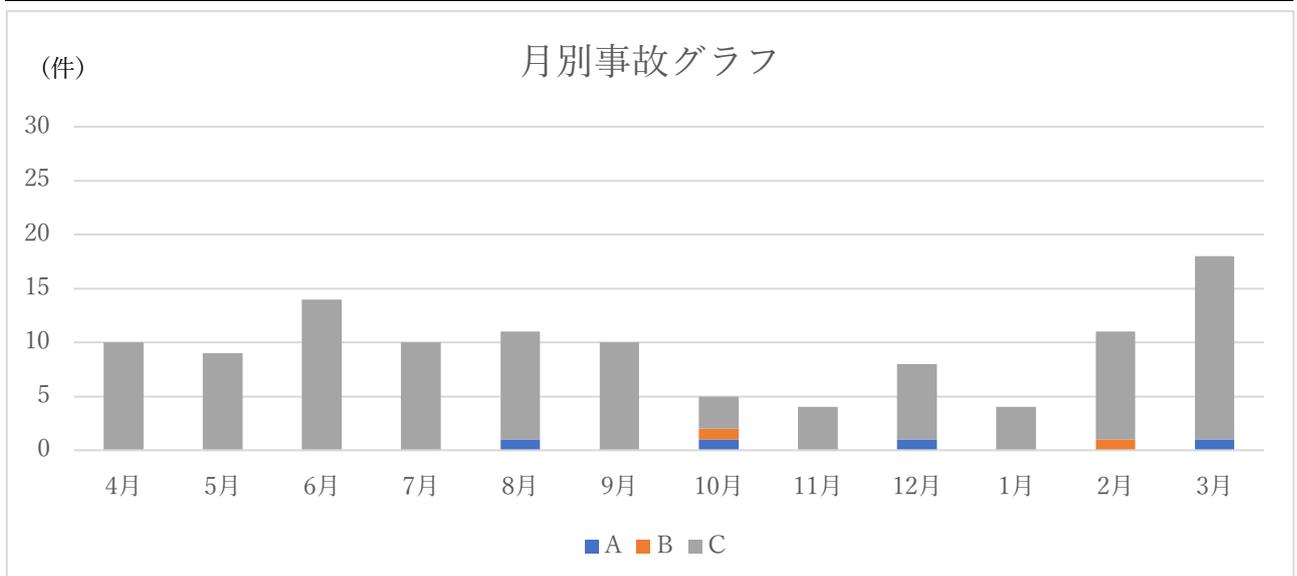
収支比較グラフ



令和3年度事故件数

(件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
総数	10	9	14	10	11	10	64
A	0	0	0	0	1	0	1
B	0	0	0	0	0	0	0
C	10	9	14	10	10	10	63
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総数	5	4	8	4	11	18	114
A	1	0	1	0	0	1	4
B	1	0	0	0	1	0	2
C	3	4	7	4	10	17	108

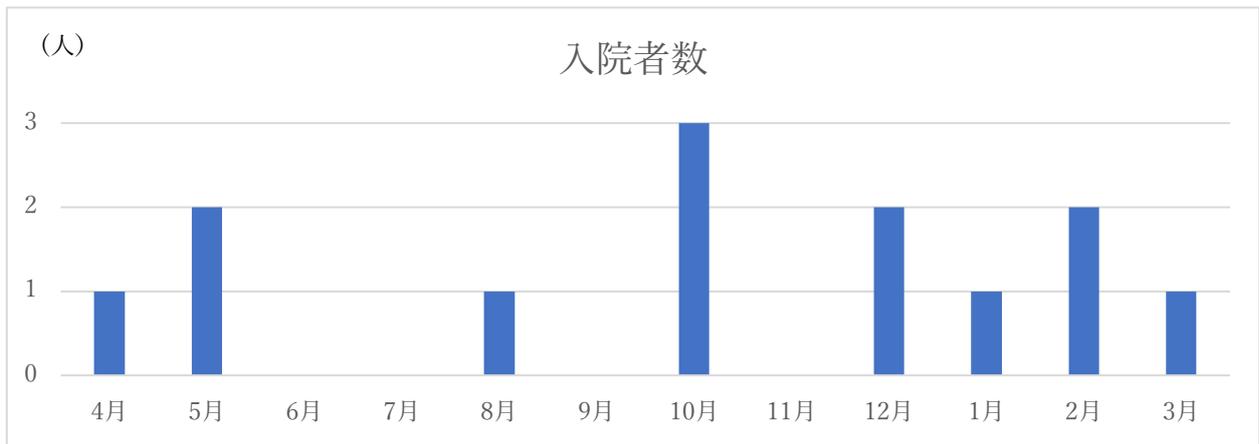


- A の事故は入院を要する事故
- B の事故は通院を要する事故
- C の事故は通院を要しない事故

令和 3 年度入院者数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
令和 2 年度 理由	1 心不全	2 肺 炎 蜂窩織炎	0	0	1 誤嚥	0	4
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度 理由	3 虚血性心 疾患・骨折 2 件	0	2 骨折 肺炎	1 肺炎	2 胆 囊 炎 肺炎	1 骨折	13



リストランテ・ヴォーノ参加状況

(人)

	12 月 23 日	1 月 13 日
子ども人数	26	11
大人参加人数	1	0
ボランティア	3	4

※12月はお弁当・プレゼントの配布のみ

サンライフ西庄ショートステイ

令和3年度 事業報告書

令和3年度経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう!!」をもとに、コロナ感染症対策のガイドラインの策定及び効率的なワクチン接種予防を行うと共にレクリエーションの強化、新規加算算定に取り組んだ。

1. コロナ感染症対策の強化

I. コロナ対策のガイドラインの策定

日常業務では職員へ携帯用消毒及びフェイスシールドを配布しコマメな消毒や職員からの感染予防を防ぐよう配慮すると共に、5月にコロナ予防研修を実施、6月には非常食を使用し、食事提供時のコロナ対策訓練をする等して、今年度も入居者から感染者を一人も出すことなく対応が出来た。

BCP（ガイドライン）についても感染症委員会を中心に改善を重ね策定ができた。家族様には面会が出来ない状況が多いため、ZOOM 面会の他、写真付きの手紙を定期的に送付し、入居者様の日頃の様子を家族にお知らせした。

2. レクリエーションの強化と充実

コロナ禍において、利用者様へのレクリエーションが少なく活動量や外出などの気分転換が図れない状況であった為、毎日のラジオ体操やレクリエーションが行えた、また、夏祭りや食事レクリエーションなどの月行事も行い利用者様に楽しんで貰えた。

3. 外国人労働者の教育

I. 介護技術の習得

コロナ等の影響下により、特定技能実習生・技能実習生が来日出来ない。施設で勤務が開始された場合は計画に合わせ実行していきたい。

II. 生活支援の習得と外国人労働者の不安解消

コロナ等の影響下により、特定技能実習生・技能実習生が来日出来ない。施設で勤務が開始された場合は計画に合わせ実行していきたい。

4. 職員のリフレッシュ及び腰痛予防ベルトの支給

1年間以上の勤務がある者は全員が4月から翌年3月までに有給または生活支援休暇取得で7日以上を取得が出来た。

また腰痛予防の為、職員で数種類の腰痛ベルトから選定をして、希望者全員に腰痛予防ベルトをレンタル支給した。

5.フロア間の業務のバラツキの低減

ユニット間をまたぐ勤務について、どちらの業務を優先すべきかまた、どの時間帯にどちらのフロアに居て欲しいか等の協議が出ている為、ユニット間をまたぐ早出・日勤の勤務については各フロアの勤務職員の動きと負荷などを勘案しユニット間をまたぐ勤務者の業務統一を協議すると共に状況変化があれば、フロア会議にて統一された業務を決定したが、一定の個人業務のバラツキは生じたままである。また、日勤業務については日勤勤務者の配置日数が少なく業務は統一できなかった。

6.収入の確保と支出

令和2年度のショートステイ介護職員の介護福祉士取得率が8割を超えた為、4月よりサービス提供体制加算Ⅰを算定できている。今後も引き続き加算算定が出来るよう人員配置に気を付けていきたい。また、7月から厚生病院のPTと連携し、リハビリを実施し生活機能向上連携加算の算定ができた。

収入については、緊急ショート受入れ加算が9月から廃止された他、平均要介護が4.1から3.5へと減少した事、平均稼働率が99.8%から97.5%となったことにより減少した。

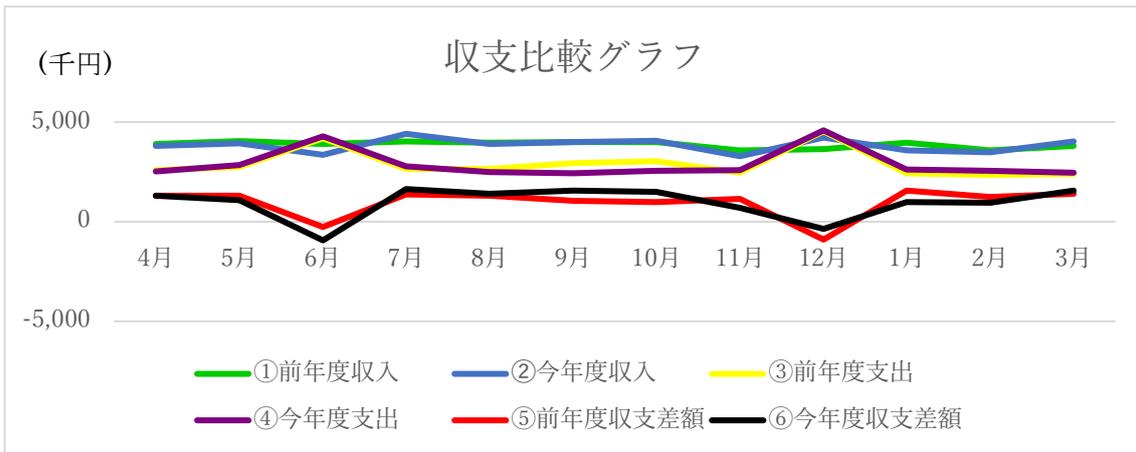
支出については、消毒などの衛生用品代や水道代の増加はあったが、外国人労働者来日できず、日勤帯勤務者の確保が困難となり人件費が減少した。

年間収支比較

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入	3,913	4,046	3,908	4,038	3,954	3,982	23,841	—
②今年度収入	3,812	3,921	3,361	4,410	3,900	4,008	23,412	98.2
③前年度支出	2,596	2,736	4,175	2,659	2,642	2,939	17,747	—
④今年度支出	2,509	2,851	4,297	2,771	2,502	2,431	17,361	97.8
⑤前年度収支差額	1,317	1,310	-267	1,379	1,312	1,043	6,094	—
⑥今年度収支差額	1,303	1,070	-936	1,639	1,398	1,577	6,051	99.3
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	3,992	3,576	3,647	3,975	3,577	3,798	46,406	—
②今年度収入	4,063	3,286	4,213	3,588	3,499	4,037	46,098	99.3
③前年度支出	3,023	2,445	4,544	2,413	2,351	2,387	34,910	—
④今年度支出	2,561	2,592	4,584	2,603	2,548	2,463	34,712	99.4
⑤前年度収支差額	969	1,131	-897	1,562	1,226	1,411	11,496	—
⑥今年度収支差額	1,502	694	-371	985	951	1,574	11,386	99.0

(令和3年度は支出に本部人件費658,310円が含まれています。)

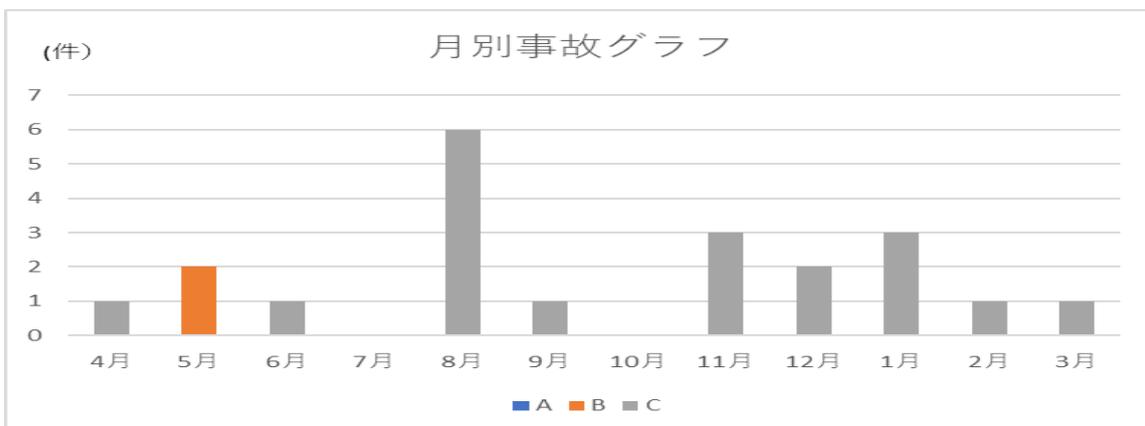


令和3年度事故件数

(件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
総数	1	2	1	0	6	1	11
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	2	0	0	0	0	2
C	1	0	1	0	6	1	9

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総数	0	3	2	3	1	1	10
A	0	0	0	0	0	0	0
B	0	0	0	0	0	0	0
C	0	3	2	3	1	1	10



Aの事故は入院を要する事故

Bの事故は通院を要する事故

Cの事故は通院を要しない事故

グループホームサンライフ西庄

令和3年度 事業報告書

令和3年度ささゆり会経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう！！」をもとに基本的な感染予防対策に加え、アクリル板の設置や食事介助時のフェイスシールド装着など、入居者様が安心して生活できる様に、感染症予防に努めた。

1. 「その人らしさ」を知り意欲を引き出す

個々の能力に合わせて居室掃除や洗濯物干し・たたみ、食器洗いなどの「家事援助」の役割を日課に取り入れた。役割があることで生活に張りがで、入居者様が自発的にされる姿も見られるようになった。認知症の予防や症状の進行を遅らせたりQOLを高めるため、レクリエーションの必要性を研修や関連本を活用して、職員への意識付けを行った。施設内においてもコロナ禍により、ユニット間の交流が少なくなったが、週芸や編み物、好みの音楽を流したりお部屋にお花を飾ったりなど、楽しみや心地よさを感じて頂くレクリエーションを通して、入居者様の意欲を引き出した。

2. 感染症対策の強化

感染症基本対策である「手洗い・うがい・消毒」を徹底し感染予防に務めた。またそれに加えて、職員全員に携帯用の消毒液の配布、調理や食事（介助）時の職員のフェイスシールド装着を実地し、感染症対策を強化した。コロナ時の業務継続ガイドライン（BCP）訓練を行い、食事提供方法・提供時間の把握やゾーン分けの訓練などの感染症予防対策の取り組みを行った。

3. 地域交流

コロナ禍により交流する機会がほとんどなかったが、地震による火災が発生した想定での消防訓練には、自治会長にも参加していただき反省会を行うことができた。

4. サービスの質の向上と人財育成

介護の質の向上や自己啓発に繋げるために月ごとテーマと担当を決めた研修を行った。また、施設内外の研修やオンライン研修で得た知識を法人の全体会議で発表して職員間で共有することが出来た。介護支援専門員更新研修や認知症実践者研修など、積極的に参加し認知症への理解と知識を深めることが出来た。

5. 生活支援休暇の取得

職員の心身ともに健康増進を図るため、有給取得 5 日取得後の生活支援休暇が取れるように声掛けを行った。人員不足により、休暇が取りにくい時期もあったが、全職員が休暇を取ることが出来た。

6. 収入の確保と支出

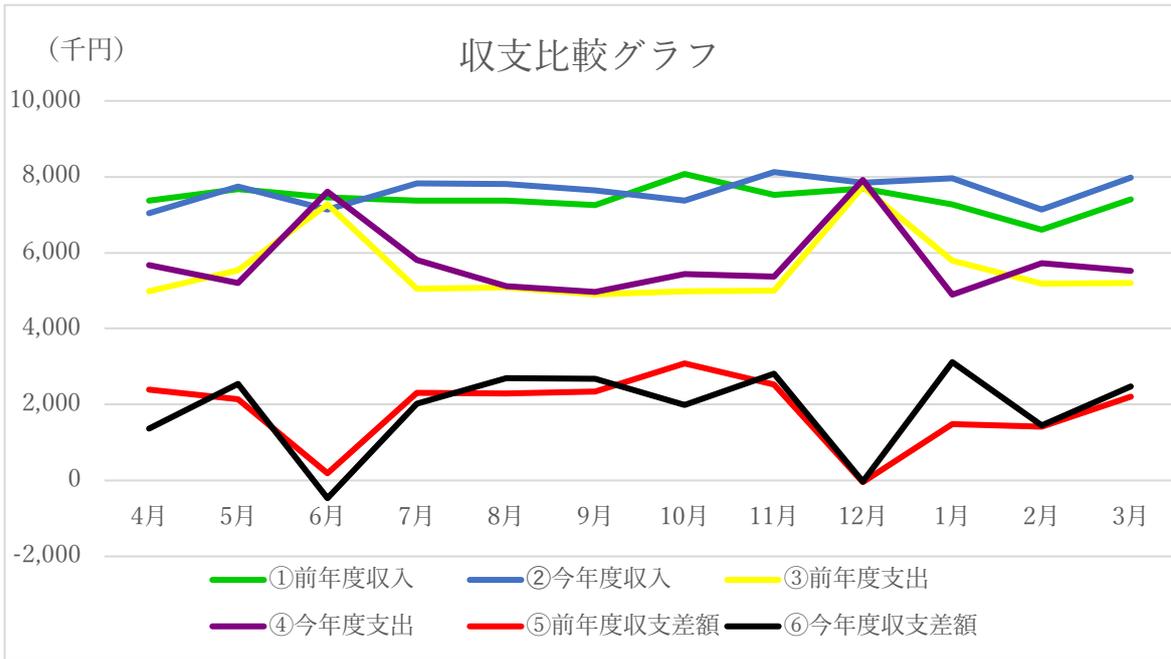
科学的介護推進体制加算や栄養管理体制加算の取得で収益がわずかに増加した。また、平均稼働率が 95% から 99.7% に上昇した。専属の看護師の配置により入居者の体調管理が随時行われ、入院者数の減少につながった。支出については、人件費が占めており、厨房と事務員の人件費の按分で月 30 万円の支出がさらに増えた。また、非常勤の比率が低く、時給を上げて募集をしているが採用は進まず、派遣による職員採用となっている。また、感染対策物品の備蓄による支出も前年度より支出が増えている。

年間収入目標

(千円)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	比率(%)
①前年度収入	7,374	7,679	7,464	7,370	7,378	7,251	44,516	—
②今年度収入	7,041	7,747	7,134	7,831	7,813	7,648	45,214	101.5
③前年度支出	4,979	5,543	7,271	5,057	5,092	4,904	32,846	—
④今年度支出	5,680	5,207	7,601	5,802	5,119	4,969	34,378	104.6
⑤前年度収支差額	2,395	2,136	193	2,313	2,286	2,347	11,670	—
⑥今年度収支差額	1,361	2,540	-467	2,029	2,694	2,679	10,836	92.8
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率(%)
①前年度収入	8,075	7,527	7,693	7,275	6,607	7,414	89,107	—
②今年度収入	7,368	8,125	7,845	7,965	7,133	7,971	91,621	102.8
③前年度支出	4,991	4,997	7,737	5,792	5,187	5,205	66,755	—
④今年度支出	5,430	5,364	7,918	4,895	5,726	5,529	69,778	104.5
⑤前年度収支差額	3,084	2,530	-44	1,483	1,420	2,209	22,352	—
⑥今年度収支差額	1,986	2,810	-24	3,119	1,452	2,484	22,663	101.3

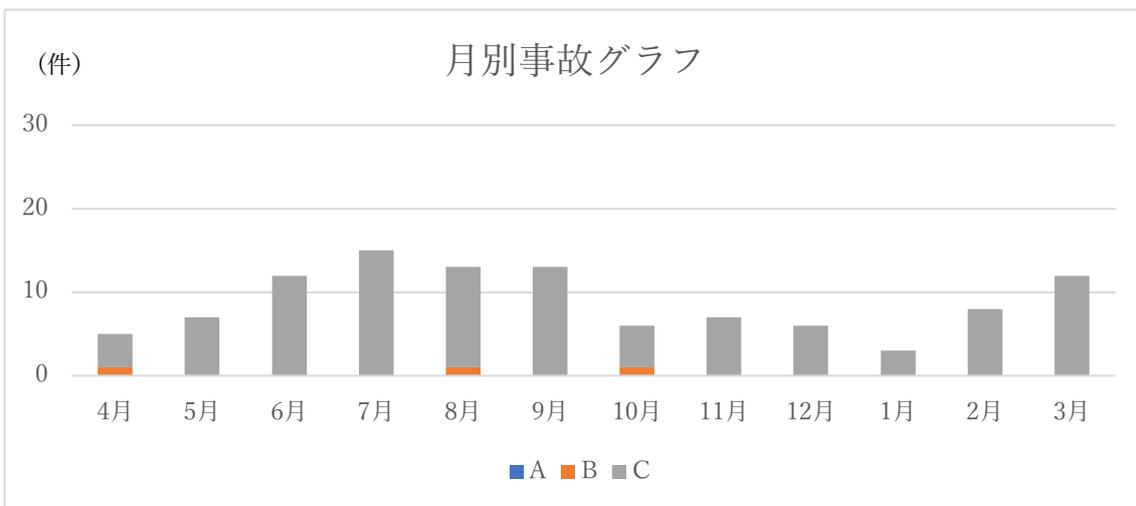
(令和 3 年度は本部人件費 1184,952 円が含まれています。)



事故件数

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
A	0	0	0	0	0	0	0
B	1	0	0	0	1	0	2
C	4	7	12	15	12	13	63
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
A	0	0	0	0	0	0	0
B	1	0	0	0	0	0	3
C	5	7	6	3	8	12	104



A:入院を要する事故

B:受診・通院を要する事故

C:受診・通院を要しない事故

入院者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和3年度理由	1 脳梗塞	0	0	0	0	0	1
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度理由	0	0	0	0	0	1 肺炎	2



施設内研修

実施月	研修内容	参加人数	実施月	研修内容	参加人数
4月	緊急対応/ 救急道具の使い方	8名	10月	施設の違い	6名
5月	身体拘束・虐待	9名	11月	認知症の種類	7名
6月	栄養管理体制加算	8名	12月	コロナ感染対 応により中止	
7月	衛生管理	8名	1月	認知症と レクリエーション	8名
8月	記録	11名	2月	Word	6名
9月	接遇マナー	8名	3月	認知症及び認知症 ケア	13名

令和3年度 特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

事業報告

利用者様が安心して日々の生活を健やかに過ごせるよう体調管理を行い身体的異常の早期発見対応を実施した。新型コロナウイルスについての対応や発生に備えた準備を十分行い職員が正しい知識を得ることが出来た。LIFEの導入により各職種が専門的視点で利用者様の生活を支援できるよう連携を行った。また、職員が健康に働き続けられる職場づくりを意識し健康管理を行った。

1. 感染症対策に関する研修の実施、訓練（シミュレーション）、ガイドラインの作成

新型コロナウイルスの発生時に備えたBCP作成に取り組み、感染症に対する正しい知識や行動力を向上させることが出来た。

2. LIFE導入に向けた多職種連携の強化

利用者の情報について介護面、医療面、家族の要望等含め様々な視点で把握した。

3. 日常生活機能訓練の強化

外部理学療法士と情報共有し、利用者の生活機能の向上や身体機能の維持を目標に機能訓練について取り組むことが出来た。

4. 看取りへの対応の充実

今年度、看取りをされた利用者は10名。各職種が専門的な視点で利用者様・ご家族への対応を検討し実施した。

5. 事故防止への取り組み

内服薬の誤薬による事故防止のため、看護師による薬剤確認を実施した。薬剤変更時や追加時他院での処方がある場合は掲示し事故を防止することが出来た。

6. 重度化防止への取り組み

往診時の定期的な診察等で利用者様の健康状態の観察を行った。また、利用者様が早期に治療を受けられるよう協力病院等と連携することが出来た。

7. 職員の健康管理への取り組み

健診結果の相談を受けることで早期受診し職員の健康管理が出来た。

令和3年度 特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

事業報告書

昨年度より栄養マネジメント強化加算・LIFEの導入が始まり、施設における管理栄養士の役割が大きくなっていると同時に、多職種連携がより重要となっている。

また、全国で新型コロナウイルスによる集団感染が相次いでいるため、厨房における対応マニュアルを作成し、実際に備蓄食を用いた訓練を行い、職員ひとりひとりの意識を高めることができた。

I 人材の定着・育成

昨年度は、業務に関する変更事項を非常勤職員が忘れてしまうことが多かったため、特に大事なことは付箋に書き目の届く場所に貼ったり、調理に関することは調理師より、その他のことは管理栄養士より業務前に注意・指示をする等の工夫を行った。そして、分からないこと・疑問に思ったことを解決しないまま業務をすることが間違いの原因になると考え、いつでも質問しやすい雰囲気づくりのためにコミュニケーションをとることを心掛けた。

調理技術の研修会は開催されなかったが、意見を出し合い業務内容の見直しを行い、効率よく業務がまわるよう改善し、無駄を省くことができた。

II 献立の充実

昨年度も、献立の作成の際に管理栄養士と調理師が意見を出し合い、偏ったメニューにならないよう気を付けた。そして計10回の行事食(正月・節分・バレンタイン・ひな祭り・子供の日・七夕・敬老の日・ハロウィン・クリスマス・大晦日)を取り入れ、利用者様に季節を感じて頂けるようにした。また、利用者様からのリクエストや、給食委員会で意見等あればできる限り献立に取り入れ、調理の際には「味が美味しい」だけでなく「見るからに美味しそう!」と思ってもらえるよう見た目や彩りを意識するよう心掛けた。

食材費に関して、昨年度は新たな業者と取引を開始し、各業者から相見積もりを取り、良い品をより安い業者から仕入れるよう工夫することで食材費を抑えることができた。また、在庫食材とそうでないものの区別をつけるため、在庫食材を分けて置いたり、在庫食材リストを作成し期限内に使用することで食材廃棄を大幅に減らすことができた。

III 衛生管理

昨年度より、HACCPに沿った衛生管理の制度化が行われ、厨房における衛生管理計画書の作成を行った。これにより厨房職員は改めて衛生に関する意識を高めることができたと感じるが、今後の課題として、厨房外(各フロア)での衛生管理をどのように行うのか検討する必要がある。

異物混入に関して、昨年度は報告がなかった。特に魚をほぐす際は骨を見逃さないよう各自が意

識をもっていたので食事への混入を防ぐことができた。

そして、新型コロナウイルス予防の観点からも、各自で体調管理に気をつけるよう定期的に注意喚起を行った。

IV 栄養ケアマネジメントの充実

昨年度より栄養マネジメント強化加算が始まり、低栄養リスクの高い利用者様に対して週3回の食事観察を行うことになったが、ケアマネジメントに十分な時間を費やすことができなかつた。しかし、各担当職員から利用者様の栄養に関する相談を受けることが増え必要な情報を提供することができた。今後はさらに多職種と連携して自ら情報を仕入れ発信していく必要がある。

V 食事形態

昨年度、退院後は食形態が落ちている方が多かつたことや義歯の調整等もあり、極刻み食の利用者が増えていた。

令和4年3月時点での食事形態は以下のとおりである。

	普通食	刻み食	極刻み食	ミキサー食	経管栄養
令和3年3月	13名	4名	5名	7名	0名
令和4年3月	13名	5名	7名	4名	0名

すべての食事の形態アップは難しくても、「おやつだけ普通食」「寿司の日だけ普通食」というように食べれるものだけでも形態をアップする対応を行った。

そして、食思の低い方には必要に応じ栄養補助食品を提供し必要栄養量の確保に努めた。

VI 子供食堂の充実

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、12月・1月の計2回の開催であった。

参加者数は以下のとおりである。

	12月23日 クリスマス弁当 お菓子詰め合わせ	1月13日 唐揚げカレー ブッセ
参加者数	27名	11名

昨年度も一昨年度同様、12月はクリスマス会を行うことができずクリスマス弁当とプレゼントの配布のみとなったが、新規申込みが7名と多く好評であった。

そして、子供食堂開催時は

- ① 全員同じ方向に向くようテーブルのレイアウトを変えた
 - ② 椅子を使用することで食事中距離をおくようにした
 - ③ ディスポ食器・プラスチック・紙コップを使用した
- の3点を工夫し感染症予防に努めた。

小規模多機能ホームサンライフ岡田

令和3年度 事業報告書

小規模多機能ホームサンライフ岡田がオープンしてから1年6か月が経過した。今年度もコロナ禍で昨年度と同様に日々感染防止に努めた1年となった。職員や、職員家族、利用者家族とコロナウイルス陽性者は出ることはあったが、幸いにも利用者様でコロナウイルスに感染された方はいなかった。新型コロナウイルスにより、施設見学者の減少や、病院入院中の利用希望者様への面会制限などがあり、営業活動がうまくいかないことも多くみられたが、少しずつ利用者様を増やすことが出来た1年となった。

1. 個人に応じた利用計画作成

利用者様が在宅での生活が継続できるよう、個々の特性に応じた小規模多機能型居宅介護計画を作成し、支援の提供を行った。今年度は利用者様の希望に応えながらも、希望に添えない場合などは訪問に行くなどサービスの調整を行い、通い・宿泊・訪問3つのサービスのバランスの取れたプランを立てることに力を入れた。

2. 人材育成

施設開設より1年が経過する際に、職員全員が自己評価を行い、自分たちの出来ているところ、出来ていないところ、どうすれば改善できるのかの話し合いを行った。その際、送迎や、入浴介助等で申し送りに参加しにくく、申し送りのノートや日誌を見るだけでは職員間の報連相がうまく行かないとの意見が多く見られたため、申し送りの時間の見直しを行った。参加できる職員の多い時間の10:00と14:00に申し送りの時間を変更し、担当者が責任を持って司会を行うことで、しっかりと職員間の情報共有が出来るようにした。また、知識不足をあげる職員も多かったため、成年後見制度や高齢者虐待、アルコール依存の方への対応等の外部研修に参加する機会を作り、職員の知識力向上に努めた。

3. 事故の防止

今年度は服薬忘れや、薬の飲みこぼしなど、服薬ミスに関する事故が多く見られた。薬のセットに関するミスもあった為、看護職、介護職どちらかの責任ではなく、お互い確認を行うことを意識するよう指導を行なった。

4. 忘れ物防止

荷物チェックアプリの使用法の徹底、確認と、荷物チェック後の荷物の置き方などを徹底することで、荷物の返却ミスなどがほぼ無くなっている。

5. 感染症予防

感染症対策として、うがい・手洗い・更衣・マスクの着用、消毒を行った。送迎時の体温測定や、毎日10時の体温測定を行ない、異常の早期発見に繋げた。新型コロナウイルス対策として、上記の対策に加え、アクリル板の設置や、1つのテーブルに座る利用者数の制限、職員のフェイスシールド着用、利用者様のマスクの着用などをおこなった。自宅に訪問する際も、体調不良や発熱がある方に関しては、本人様や家族様に説明したうえで、手袋、ガウン、マスク、フェイスシールド着用での対応を行い、感染予防に努めた。

6. 収入・利用者様の確保

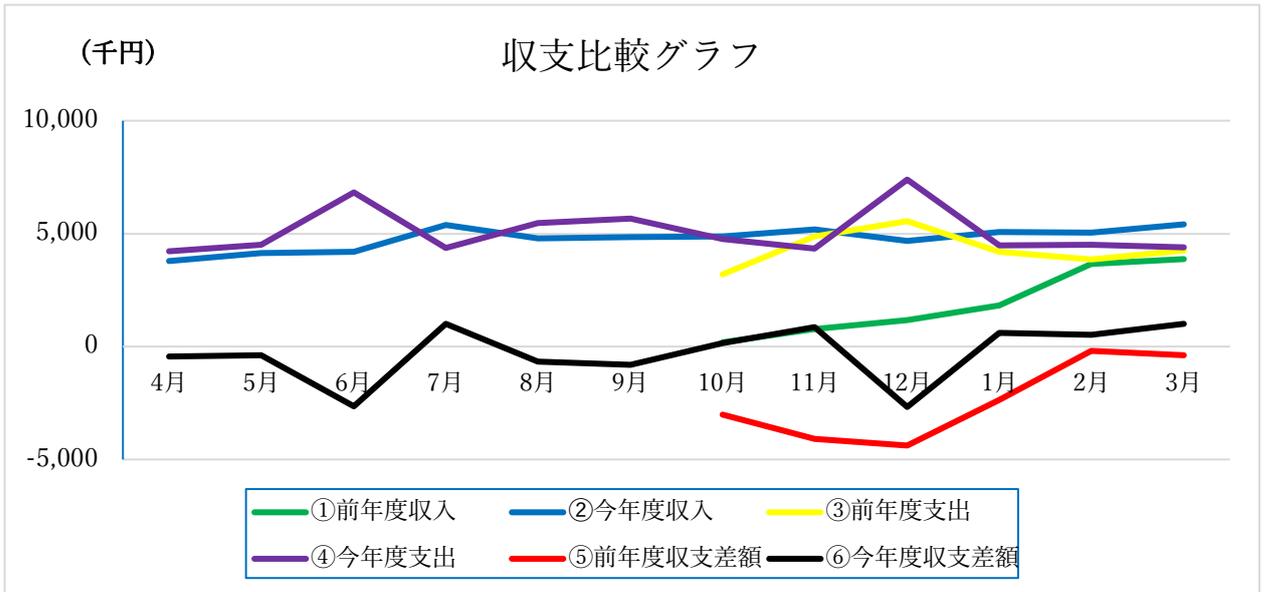
今年度は登録利用者25名を目標としていたが、3月末の時点で登録利用者22名と目標には到達できなかった。1年を通した収支も、-3,549（千円）と赤字になった。来年度は年間を通しての黒字を目指し営業活動に力を入れていく必要がある。登録利用者を増やす、要介護度を見直す、新規加算を取得するなど、収入増加に努めていきたい。新規加算に関しては、今年度介護福祉士合格者が出たため、来年度よりサービス提供体制加算Ⅲが取得できる見込みである。

また現在は職員不足で、土日の利用定員を制限している状況にあるため、人材の補充・育成にも力を入れていきたい。

1. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入								—
②今年度収入	3,787	4,137	4,183	5,387	4,785	4,854	27,133	
③前年度支出								—
④今年度支出	4,220	4,520	6,840	4,380	5,463	5,674	31,097	
⑤前年度収支差額								—
⑥今年度収支差額	-433	-383	-2,657	1,007	-678	-820	-3,964	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入	188	786	1,173	1,829	3,669	3,874	11,519	—
②今年度収入	4,889	5,179	4,676	5,084	5,031	5,411	57,403	
③前年度支出	3,196	4,867	5,554	4,190	3,859	4,251	25,917	—
④今年度支出	4,749	4,325	7,394	4,472	4,511	4,404	60,952	
⑤前年度収支差額	-3,008	-4,081	-4,381	-2,361	-190	-377	-14,398	—
⑥今年度収支差額	140	854	-2,673	612	520	1,007	-3,549	



2. 令和2年度・3年度登録者数 (MAX29名) (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R2登録者						
R3登録者	16	17	18	18	18	19
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R2登録者	2	3	7	11	14	16
R3登録者	19	21	20	19	22	22

3. 令和2年度・3年度延べ利用人数 (通い・訪問・宿泊) (名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R2通い							
R2宿泊							
R2訪問							
R3通い	326	379	420	443	443	420	2,431
R3宿泊	178	202	229	263	252	243	1,367
R3訪問	50	50	64	65	61	77	367
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2通い	26	61	104	229	276	365	1,061
R2宿泊	10	35	72	152	152	190	611
R2訪問	0	0	0	0	0	38	38
R3通い	418	427	416	401	394	460	4,947
R3宿泊	234	235	210	209	200	245	2,700
R3訪問	89	86	126	127	143	143	1,081

4. 令和3年度 事故件数

	A	B	C	合計
事故件数(R3年)	1	2	22	25

A：入院加療を要する事故

B：受診・通院を要する事故

C：受診・通院を要さない事故

【Aランク】

T様：夕食自力摂取されている際、苦しそうにされているのを発見。義歯を外し、口腔内の食べ物をかき出す。意識はあるも、口唇チアノーゼあり、SP02=50台と回復しない為、救急車要請し救急搬送。血液検査の結果もCTもすべて問題なし。持病で肺気腫があり経過観察の為入院されることになる。

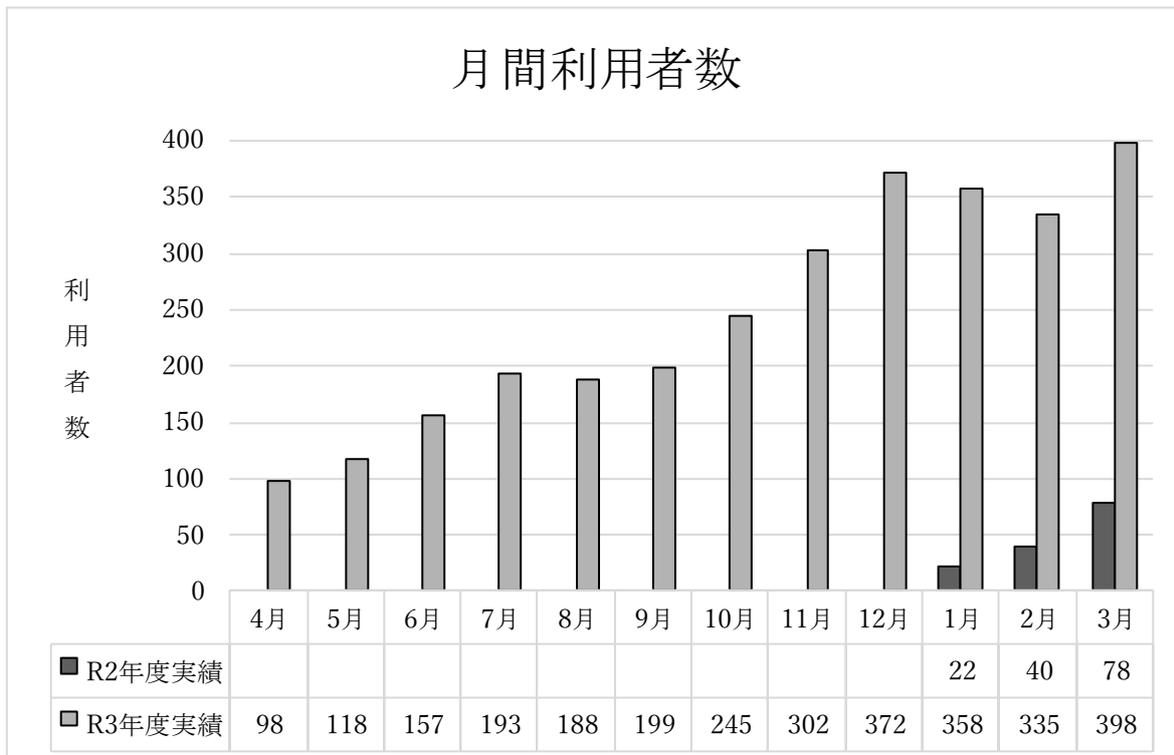
令和3年度 デイサービスサンライフ岡田

事業報告書

令和3年1月に開設したが、新規利用者がなかなか確保できず、今年度は利用人数の少ない状態からのスタートであった。コロナ禍での運動不足解消を図る為、午前中にDVDを使った体操や午後から棒やボールを使った体操を毎回行うようにしたことや、一人暮らしで買物しづらい利用者様に対応できるよう、隔週で近隣のスーパーへの買物外出を行うことをデイサービスの特色として打ち出し、居宅介護支援事業所への営業や、近隣住宅へチラシのポスティングを行った。また、令和4年1月には併設の居宅介護支援事業所が開設したことで、今年度の平均利用人数は3.7名から14.7名と増加し、収入も増加した。支出については、人件費の増加や備品の購入があり、収支差額はマイナスとなっている。

次年度は利用定員を20名から25名に変更し、利用人数の更なる増加を図れるよう、営業活動やサービスの質の向上に努めていきたい。

1. 利用者数

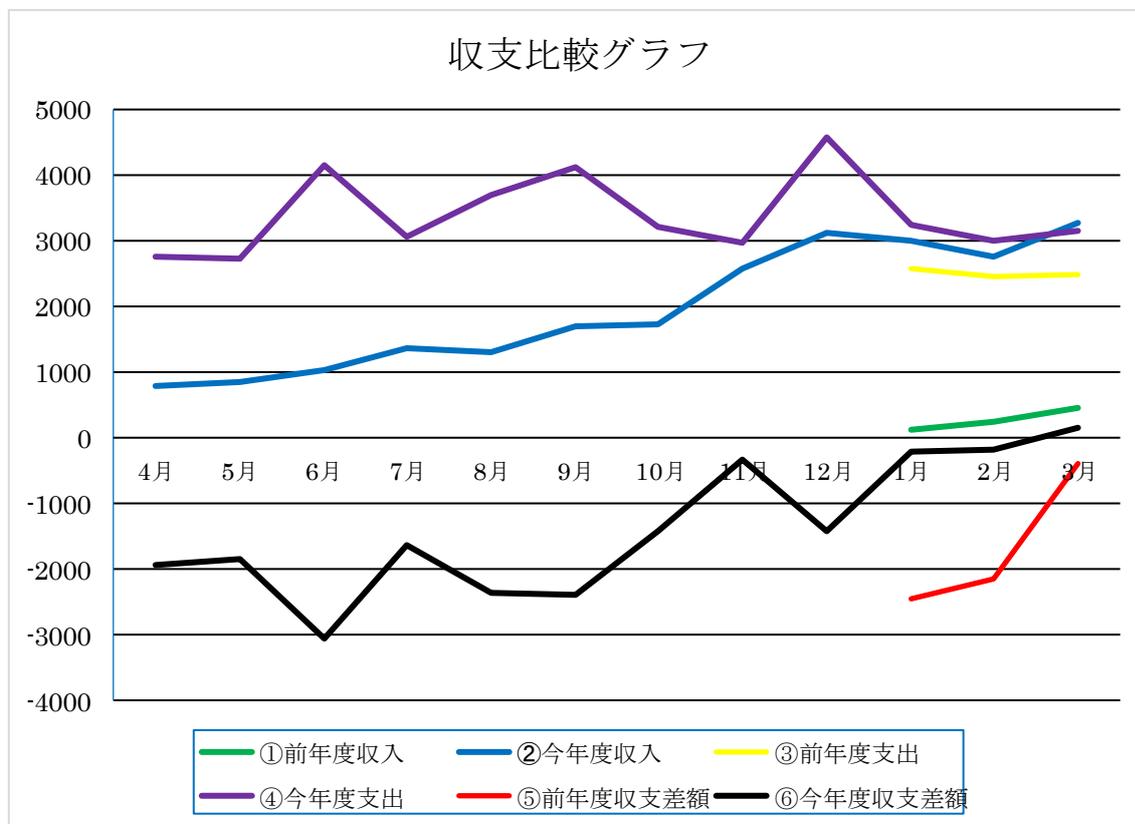


2. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入								—
②今年度収入	792	861	1,055	1,380	1,303	1,705	7,096	
③前年度支出								—
④今年度支出	2,763	2,749	4,163	3,062	3,704	4,147	20,588	
⑤前年度収支差額								—
⑥今年度収支差額	-1,921	-1,846	-3,058	-1,627	-2,348	-2,394	-13,194	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入				133	257	480	870	—
②今年度収入	1,751	2,595	3,138	3,000	2,783	3,287	23,650	
③前年度支出				2,599	2,455	2,505	7,559	—
④今年度支出	3,218	2,980	4,591	3,261	3,010	3,170	40,818	
⑤前年度収支差額				-2,437	-2,152	-387	-4,976	—
⑥今年度収支差額	-1,414	-333	-1,400	-209	-178	169	-16,559	



3. 介護度別平均年齢及び利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 (合計)
要支援 1	81.28 (3)	80.33 (3)	82.75 (5)	85.89 (5)	87.25 (4)	87.33 (4)	81.83 (7)	80.27 (8)	80.35 (8)	81.12 (8)	80.72 (9)	81.10 (10)	81.98 (74)
要支援 2	84.94 (3)	78.65 (5)	77.23 (6)	74.87 (5)	84.17 (5)	82.50 (4)	81.50 (3)	79.63 (6)	80.15 (6)	80.23 (6)	79.90 (5)	79.98 (4)	79.86 (58)
要介護 1	89.15 (7)	87.56 (7)	89.32 (5)	88.11 (7)	84.33 (8)	81.76 (9)	83.13 (11)	86.65 (12)	86.42 (13)	86.97 (14)	85.36 (15)	86.06 (15)	85.87 (123)
要介護 2	81.33 (2)	85.39 (3)	83.18 (5)	83.79 (7)	85.14 (7)	79.64 (10)	80.76 (9)	80.49 (10)	86.41 (11)	86.49 (10)	85.91 (12)	86.41 (15)	84.13 (186)
要介護 3				84.50 (1)	77.67 (2)	77.75 (2)	83.46 (3)	86.10 (5)	86.19 (4)	86.27 (4)	86.35 (4)	86.86 (4)	84.71 (29)
要介護 4	73.17 (1)	73.25 (1)		80.67 (1)	80.75 (1)		72.58 (1)	72.67 (2)	72.75 (2)	72.83 (2)	72.92 (4)	73.00 (4)	73.92 (29)
要介護 5					76.25 (1)	76.33 (1)							76.29 (2)
合計	84.30 (16)	82.72 (19)	82.85 (21)	83.35 (26)	83.71 (28)	81.10 (30)	81.81 (34)	82.59 (43)	84.15 (44)	84.44 (44)	83.84 (47)	84.33 (50)	83.35 (402)

上段の数字は平均年齢、()内の数字は実利用者人数を示しています

4. 職員充足度（令和4年3月現在）

職員 12 名（正職員 2 名 非常勤看護師 2 名 非常勤介護職員 8 名）

機能訓練指導員を
含まない

	営業 日数	利用者/ 月	職員総時間数/ 月	利用者/ 月	職員/ 月	職員 一人対	職員/ 月	職員 一人対
4月	26	98	1119.5	3.77	6.5	0.58	6.0	0.62
5月	26	118	1309	4.54	7.3	0.61	6.9	0.65
6月	26	157	1346	6.04	7.8	0.77	7.3	0.82
7月	27	193	1326.5	7.15	7.4	0.95	7.0	1.02
8月	26	188	1160	7.23	6.5	1.10	6.1	1.18
9月	26	199	1203.5	7.65	7.0	1.09	6.5	1.17
10月	26	245	1248	9.42	7.0	1.34	6.6	1.43
11月	26	302	1289.5	11.62	7.5	1.54	7.0	1.64
12月	27	372	1342.5	13.78	7.5	1.80	7.1	1.92
1月	25	358	1307	14.32	7.3	1.94	6.9	2.05
2月	24	335	1188	13.96	7.4	1.88	6.9	2.00
3月	27	398	1332.5	14.74	7.5	1.95	7.0	2.08

令和3年度 サンライフ岡田居宅介護支援事業所

事業報告書

R4年1月に事業所を開設した。サンライフ岡田デイサービスの利用者増を目標としているが、紹介数は2件であった。

経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう！！」に対し、感染症対策を行いながら利用者様に必要なサービスが届くよう、不利益が生じないように支援することを心掛けた。

収入については、常勤職員2名体制で開始し、利用者は前事業所からの引き続きの方と、新規は17名となったが、まだまだである。

1. 担当利用者の確保

常勤職員2名体制で開始し、前事業所から引き続きの利用者数を考えても担当人数には十分な余裕がある。安定した事業所運営と稼働効率の向上のために各介護支援専門員の担当件数についての把握を定期的に行い、職員間で報告・連絡・相談を密に行うことで新規相談者への対応を迅速に行えるよう努めた。

地域包括支援センター、各事業所に訪問する機会は少なかったが、担当者会議などを通して営業活動を強化し、新規利用者獲得に努めた。新規利用者は、3か月で要介護者7名、要支援者10名を獲得できた。

2. 利用者人数の推移

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援 1.2	R2													
	R3										14	17	21	52
	差													

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護 1～5	R2													
	R3										29	28	33	90
	差													

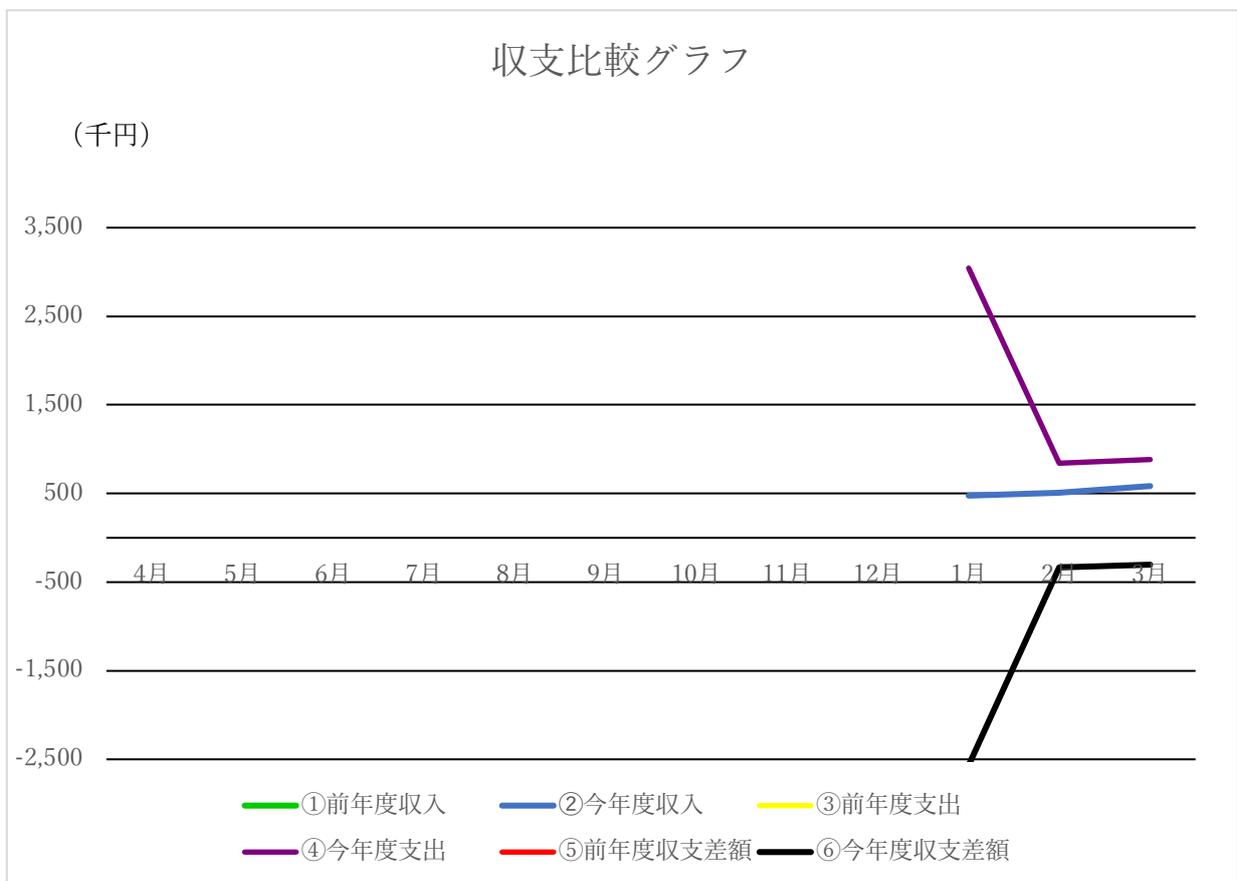
3. 収入の確保

ケアマネ人数が常勤職員2名で、上限の担当件数は79件。現状は、要介護33件、要支援21件であり、換算すると44件に留まった。収入の確保には程遠い現状である。

4. 年間収支比較

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
①前年度収入								—
②今年度収入								
③前年度支出								—
④今年度支出								
⑤前年度収支差額								—
⑥今年度収支差額								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
①前年度収入								—
②今年度収入				476	508	584	1,568	
③前年度支出								—
④今年度支出				3,044	842	887	4,773	
⑤前年度収支差額								—
⑥今年度収支差額				-2,567	-334	-303	-3,204	



特別養護老人ホームサンライフ魚崎

令和3年度事業報告書

今年度は「コロナ感染防止で経営力強化を！」を経営スローガンに掲げ、コロナ感染症予防を継続して行い、入居者様がコロナウィルスに感染することなく、介護サービスを提供することができた。職員2名がコロナウィルスに感染するも、軽度又は無症状で健康に変化なく経過している。また、前年度と同様に「ノーリフティングケア」の取り組みを継続して行い、車いすの選定、移乗ボード等の使用方法を確認し、「ノーリフティングケア」を進めることができた。

1. 感染症対策及び入居者様の生活における取組

I. コロナウィルス感染症予防の取り組み

- ①コロナワクチン予防接種を入居者様及び職員全員が実施する。(5月に1回目、6月に2回目を接種。2月から3月にかけて3回目を接種)入居者様及び職員において、重篤な副反応が出る事なく、経過している。
- ②コロナウィルスが発生した場合を想定した、防護服の着脱及びゾーニングの研修を実施し、職員全員が防護服の着脱時の注意点と手順を理解することができた。しかし、防護服の着脱演習の間隔が空くと、注意事項及び手順が曖昧になる為、次年度も定期的に研修を実施していきたい。
- ③感染症対策の為、面会制限が続いていたが、7月から約1か月間(面会者数延べ41名)、10月から1月初旬頃(面会者数延べ146名)まで、新規感染者数が減少している状況において、本館玄関ホールの自動ドア(透明ドア)を利用し、対面での面会を実施することができた。Web面会は年間を通して、常時実施(面会者数延べ108名)し、入居者様と家族様がコミュニケーションを図れる機会を設けることができた。
- ④特養Bユニットの入居者様の生活区域がデイサービスと共有していた為、Bユニット廊下に生活区域を移して対応している。感染状況を注視し、感染症予防対策(換気、座席位置の配慮等)を行いながら、次年度は徐々に特養Bユニットフロアへ生活区域を移していきたい。
- ⑤フロアでの感染症予防対策として、換気時間を10:00、11:30、14:00、16:00と設定し、10分程度窓を開放する。また、1テーブルに2人までの座席とし、平行(対面不可)に座って頂き、感染症対策を実施した。
- ⑥職員の感染症予防対策として、毎日(朝・夕)の体温測定を継続して行い、本人又は家族に体調不良(微熱、咳、喉の痛み、鼻水等)があれば、出勤前に施設への連絡を行うよう、注意喚起を行った。就業前や就業中、休日において体調不良の連絡があれば、受診(PCR検査)の調整を行い対応し、その結果、職

員2名がコロナウィルスに感染するも、速やかに受診に繋げる事ができた。また、職員の家族が発症した場合は、濃厚接触者として7日間の自宅待機をお願いした。このため、代替要員確保にとっても苦勞した。結果的にはこれらの策が功を奏し、施設内の感染拡大には至らず入居者様への感染は起きなかった。

⑦入居者様の病院受診後（クリニックを除く）において、1週間から3日間の居室又は個室（ショートステイの居室を感染対応の部屋の部屋として、1室設けている）にて感染対応を実施し、経過観察を行った。体調に異常がなければ、自室へ移り生活して頂いている。

2. 職員の資質向上への取り組み

I. ノーリフティングケアの推進

①ノーリフティングケアの対象者が上半期では3名であったが、車いすの選定を行い、（アームサポートの昇降、フットサポート着脱等）現在は6名となっている。入居者様個々の身体状況に応じて、移乗ボードを有効に使用することができ、職員の技術も向上している。職員の腰痛予防や介護負担を軽減する為にも、次年度も継続して実施していきたい。

II. 職員研修

年間スケジュール			
4月	なし	10月	基幹福祉避難所開設訓練（BCP）
5月	ターミナルケア	11月	認知症ケア・ハラスメント
6月	虐待防止・身体拘束	12月	褥瘡対策
7月	感染症対策	1月	コンプライアンス
8月	なし	2月	虐待防止・身体拘束
9月	防災訓練（BCP）	3月	事故防止対策

①年間スケジュールに沿って、感染症対策及び災害時の訓練は演習を行い、実施している。その他の研修においては全体会議で説明を行い、動画視聴（レポートあり）等の方法を活用して研修を実施することができた。

②感染防止訓練において、8月から10月にかけて、昼の申し送り時（13時45分～14時15分）に全職員（相談員1名、介護士16名、看護師2名）を対象に研修を行った。看護師の監修のもと作成した、防護服着脱方法のマニュアル表を見ながら、ガウン、ヘアキャップ、シューズカバー、手袋等を順番に着脱し、着脱時の注意点を確認しながら実践する。ゾーニングに関してもグリーンゾーン、イエローゾーン、レッドゾーンに区分けし、テーブルやダンス、ソファ等を動かし、床にテープ（緑、黄、赤）を貼り、ゾーニングを実施した。

③自然災害（地震及び水害）を想定し、基幹福祉避難所開設訓練を10月下旬に

実施する。避難所の設営、必要物品の運搬、行政との連絡調整、避難者の受け入れ等を手順に沿って、訓練を行った。毎年訓練を実施しているが、毎年同様の職員が参加するのではなく、職員は選定し、多くの職員が訓練を体験する機会を設けて行っている。

- ④コロナウィルス感染症防止対策の為、職員会議は開催せず。朝と昼の申し送り時に介護業務、感染症動向、コスト削減等に必要な情報を発信し、情報共有を行った。

3. 経営の安定化への取り組み

I. 年間稼働率目標値98.5%以上への取り組み

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期
令和3年度	利用者数(人)	895	926	886	917	904	894	5422
	稼働率(%)	99.4	99.6	98.4	98.6	97.2	99.3	98.8
	入院日数(人)	0	4(1名)	7(1名)	13(1名)	18(1名)	0	42(4名)
	空室数(人)	5	0	7	0	8	6	26
	入所者数(人)	1	0	1	0	2	1	5
	退所者数(人)	1	0	1	0	2	1	5
	看取り人数(人)	1	0	0	0	0	1	2
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和3年度	利用者数(人)	914	887	930	930	830	922	10835
	稼働率(%)	98.3	98.6	100	100	98.8	99.1	99%
	入院日数(人)	5(1名)	0	0	0	0	8(1名)	55(6名)
	空室数(人)	11	13	0	0	10	0	60
	入所者数(人)	1	2	0	0	1	0	9
	退所者数(人)	2	1	0	0	1	0	9
	看取り人数(人)	1	1	0	0	1	0	5

①特養の次期入所者がロングショートを利用していた為、空室数を少なく稼働率の目標を達成することができた。

②上半期と同様に特養待機者の中から、ロングショート利用へ繋げようとしたが、体調不良や入所時期の調整等で予定通りに進まない状況がある。ロングショート利用中において、亡くなるケースも増えており、ショートステイの空室数が

増加している。次年度はショートステイと連携し、ロングショート利用者（10名程度）の確保を行っていく。

- ③入退院を繰り返す入居者様が1名（3ヶ月間で3回）おり、医療的な施設へ生活の場を移すことを提案し、対応するケースが1件あった。施設内で急変後亡くられる入居者様2名（2名とも看取り同意なし）、在宅復帰が1名、退所理由が看取りではないケースが増加している。

4. 収支結果

単位（千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年度比
令和2年度収入	11,634	12,216	16,483	12,390	11,821	12,038	76,582	
令和3年度収入	11,921	12,456	14,103	12,165	12,066	11,989	74,700	-1,882
令和2年度支出	9,680	9,390	16,129	10,129	9,881	9,244	64,453	
令和3年度支出	9,439	8,895	16,784	8,875	8,820	9,892	62,705	-1,748
令和2年度収支差額	1,954	2,826	354	2,261	1,940	2,794	12,129	
令和3年度収支差額	2,482	3,561	-2,681	3,290	3,246	2,097	11,995	-134
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和2年度収入	12,136	11,914	12,078	12,333	11,184	14,607	150,834	
令和3年度収入	12,181	11,798	12,311	12,284	11,022	12,205	146,501	-4,333
令和2年度支出	10,326	9,131	16,865	11,037	8,709	17,635	138,156	
令和3年度支出	9,210	9,247	15,680	9,517	8,983	15,606	130,948	-7,208
令和2年度収支差額	1,810	2,783	-4,787	1,296	2,475	-3,028	12,678	
令和3年度収支差額	2,971	2,551	-3,369	2,767	2,039	-3,401	15,553	2,875

※減価償却費等は計上せず

※令和3年度は稼働率98.5%以上を目標にしており、今年度は99%と目標を達成することができた。収入においては前年度に比べ補助金が減額になっている為、減収となっているが、前年度よりも支出が減り、収支差額は約290万円増収している。支出に関して、物価高騰の状況ではあるが、介護手袋等の介護物品を単価が安い時期に多く購入し、在庫管理を行い、コスト削減に繋げている。また、光熱費（水道、ガス、電気）費においては増加傾向にある為、次年度は光熱費の節約（水道の水量調節、エアコンの稼働方法、不必要な照明の消灯等）を継続し、コスト削減を行っていきたい。

5. その他

- I. 感染症及び自然災害時において、事業継続が行えるよう、BCPの作成を進めている。(施設間連携、地域連携、職員の参集基準等は作成中)
- II. 資格取得において、介護福祉士(EPA候補生)1名が合格している。次年度も介護福祉士、介護支援専門員の資格取得のフォローを行い、相談員が進捗状況を確認する。
- III. 昨年度に引き続き労働環境改善支援事業の申請を行い、離床センサー内蔵ベッド3台の申請を行った。見守りカメラと併用する事で、夜間の見守り対応業務の負担が軽減している。
- IV. 11月より、EPA候補生が配属され、日本語の学習支援、介助技術の確認や業務の進め方等の進捗状況を確認し、相談員、リーダー、中堅職員が助言や指導を行っている。

以上

令和3年度魚崎高齢者介護支援センター(短期入所生活介護)

事業報告

今年度は「コロナ感染防止で経営力強化を」をスローガンに取り組み、感染予防対策を継続しつつ、前年度までの対策だけでなく、緩和できる対策についてはその都度話し合い、下半期は新規利用者やロングショートステイの積極的な受入れを行った。

ショート利用者様で3名の新型コロナウイルス感染者の報告を受けているが、家庭内感染のみで施設内感染はなく令和3年度を終える事が出来た。近隣の施設では感染者やクラスターが発生しているが、職員の感染予防の意識や行動が感染者・クラスターを出していないと思われる。今後も引き続き気を抜く事なく感染予防に努めていきたい。

出来る限り安定した利用者を獲得為に、ショートの予約を3か月前から2か月前に変更し、より近い期間で利用者が確保できるよう努めた。また、ロングショート等の長期間のショート受け入れを最大で12名確保できたが、ロングが1名退所になると一気に一か月の利用者数が減少した為、前年度よりは平均3%増加したが、平均87%の稼働率に留まった。今後はロングショートステイの候補者の確保が課題である。

1. 安定した利用者数の確保

単位 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和1年度	590	585	575	570	562	485	527	500	549	483	514	427	6,367
令和2年度	416	480	514	546	572	549	539	523	513	511	468	528	6,154
令和3年度	509	515	513	531	528	504	555	572	594	595	523	533	6,472

稼働率

単位 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和1年度	98%	94%	96%	92%	91%	81%	85%	83%	89%	78%	92%	69%	80%
令和2年度	69%	77%	86%	88%	92%	92%	87%	87%	82%	82%	83%	85%	84%
令和3年度	69%	77%	86%	86%	85%	84%	90%	95%	99%	96%	93%	86%	87%

- I. 利用者数目標 19.5 名を確保するには、厳しい状況ではあるが、下半期よりロングショートステイを 10 名以上獲得する事で、徐々にではあるが利用者数は増加傾向にある。引き続き、特養・ケアハウス・グループホームと連携し、ロングショートから施設入所の流れを作っていく。また、ロングショートが 10 名以上確保できたとしてもロングショートステイの「待機者」も確保していく事で急激な利用者数減少を食い止めたい。
- II. 月初めに頂く予約の中で、すでにベットが埋まっていますが、キャンセル待ちとさせて頂き、月間予定表に記載し、キャンセルが出たらすぐにケアマネジャーに報告し利用して頂く事で、急遽のキャンセルによる利用者数の減少を少しでも回避する事が出来た。

2. 収支金額

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計	前年度比
令和 2 年度収入実績	4,864	5,566	6,082	6,824	6,497	7,162	36,995	
令和 3 年度収入実績	6,027	6,572	6,135	6,409	5,521	6,969	37,633	101%
令和 2 年度支出実績	5,796	5,840	9,138	6,184	5,890	5,719	38,567	
令和 3 年度支出実績	6,175	5,194	10,327	5,140	5,346	5,317	37,499	97%
令和 2 年度収支差額	-932	-274	-3,056	640	607	1443	-1,572	
令和 3 年度収支差額	-148	1,378	-4,192	1,269	175	1,652	134	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	前年度比
令和 2 年度収入実績	6,654	6,171	6,737	5,865	6,230	7,397	76,049	
令和 3 年度収入実績	6,881	6,675	7,289	6,816	6,452	6,375	78,094	102%
令和 2 年度支出実績	6,539	5,656	10,143	6,200	5,216	6,871	79,192	
令和 3 年度支出実績	6,184	5,614	10,007	6,044	5,222	6,893	77,463	97%
令和 2 年度収支差額	115	515	-3,406	-335	1,014	526	-3,143	
令和 3 年度収支差額	697	1,061	-2,718	772	1,230	-518	631	

※ロングショート受け入れを 10 名前後行った事で前年度より収入増加となった。

3. 利用者様のニーズと感染防止の両立

- I. サンライフにて委託医により新型コロナワクチン接種、1 回目・2 回目を令和 3 年 5 月頃にロングショート利用者様、職員全員に実施。ロングショート利用者様の副反応は軽症で済んだが、職員数名は高熱が見られ、あらかじめ調整は行っていたが勤務変更等を行った。3 回目も令和 4 年 2~3 月にかけてサンライフにて実施。1.2 回目に比べ副反応は軽症で済んだ職員が多く、目立った勤務変更等はなかった。
- II. 感染予防対策について、手洗いうがい・マスクの着用・密にならない座席の配置・送迎時の車内換気及び乗車前の体温測定・消毒等、基本的な対策は続行した。換気に関してはアラーム設定し、午前・午後に換気の時間を設け特養と声を掛け合い実施。また、利用者様のいらっしゃるフロアや部屋は常時窓の隙間を空け、常に空気の循環が出来るよう扇風機や、ケアステ内にはサーキュレーターを設置した。

大きな病院へ受診された際は、1週間の要経過観察期間を設け、感染対応・居室対応・他者離れの対応を行い、感染予防に努めた。

ロングショートステイご利用中の利用者様が、発熱や体調不良が見られた際は、個室又は感染対応用の部屋にて経過観察を行った。実際に新型コロナウイルス感染疑いでPCR検査陰性の結果が出るまで3日間ほど完全防護での感染対応を行った。

ただ、前年度と同様の対策を続けていくばかりではなく、感染状況や行政の対策に基づき緩和できる所は緩和し、職員の負担軽減と新規利用者・利用者の確保に努めた。

III. 実際にガウンテクニックを実施し、利用者様の対応を行う研修を職員全員に行う事が出来た。また、感染予防対策等について何か疑問があったり、気づきがあれば看護師・介護職とその都度、対応を話し合った。

IV. ロングショートステイご利用の利用者様の面会について、感染状況に応じて、玄関でのガラス越しでの短時間での面会をR3.4~R4.3まで延べ入居者様43名実施。家族様2名までの面会とさせて頂き、延べ家族様115名お越し頂いた。

SKYPEでのWeb面会も実施していたが、Webでの接続等が出来ない家族様が多く、利用者様もタブレットに映る家族様を理解する事が難しく、決まった家族様が月に1~2回のご利用にとどまった。家族様のスマホを持参して頂きLINE等のテレビ電話で面会をして頂いた。また、電話でお話される等の対応も行った。

4. 職員の育成・職場環境作り

I. 部署研修や外部研修の参加がほとんど出来ない状況だったこともあり、施設全体での研修のみになってしまった。来年度は各自で学ぶ機会が増えるよう、部署内研修やオンラインでの研修の積極的な参加を進めていきたい。

II. 朝・昼の申し送りの際はもちろん、業務や利用者様のケアについて、話し合いが必要な場合、日曜日の午後にミニ会議を行い、話し合いを行った。また、各利用者様のケアプラン更新月にはケアについて見直しを行い話し合いを行った。

III. 利用者様の安全確保、職員の負担軽減の為、12月に離床センサー付きベッド2台を購入。適宜適切な使用者の検討を職員間で検討し、故障等に繋がらない様、取扱いについても職員に指導し対策を行った。

以上。

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所 医務

令和3年度事業報告書

今年度は、「コロナ感染防止で経営力強化を！」を目標にコロナ流行から2年目を迎えたが、入居者様の発症は無く、感染した職員から拡大もする事なく年度末を迎えることができた。これからも気を緩めることなく、維持継続していく事と今後柔軟に対応していく事を見極めていきたい。

1. 感染症対策について

前年度同様に対コロナ感染予防対策が効を奏し、上気道感染症の発症者はゼロであった。さらに、尿路感染症(疑い)発症9名、内ご家族希望による入院者1名であった。

病院受診等で当初14日間としていた個室隔離は3日間の隔離と、その後4日間他者離れ・健康経過観察に緩和し業務の円滑化を図ったが、定期往診医師の立ち入りは玄関ホール又は応接室に限定し、動画やデータで伝えられない症状や死亡診断等必要最小限、居住区内の立ち入りを決められた個室のみとし、現在も継続している。

ご家族の面会も施設で決められた期間にガラス扉越しでの対面としていたが、終末期を迎えられた利用者様に対しては感染対応の必要性を説明しつつ、可能な限り時期を逃さないよう細目に連絡を取りながら短時間でもお顔を見ていただける機会を設け特養5名ショートロング1名看取った。

2. 褥瘡について

前年度末から上半期にかけて増え続けていたが、下半期は難治性の症例も改善し、発症しても介護職から積極的に改善策を早期に実施・対応、治癒につなげる事ができるようになってきた。

今後は同一者同一部位に繰り返しているものの予防ができるよう働きかけていきたい。

3. 事故について

加療を要する外傷はほぼスキンテアと言ってよい程の発生数である。又、足爪の事故も多発した。毎日のように続き、注意喚起するとしばらくは減少するが、時間が経つとまた毎日のように発生する事の繰り返しとなっている。高齢者特有の皮膚についての学習と、事故発生の周知、事故後対応の経過観察と評価が今後と課題である。

4. スタッフの休息について

朝の申し送りや、スタッフ間での声の掛け合いで昼の休憩はまとまった時間取る事ができるように計画するよう意識づけてきた。

職員の減数により、意図的に4日以上連休を設ける事が難しくなっている為、可

可能な限り連休が取れる所はシフト編成し、有給の消化率も向上できた。

(1) 傷病発生状況									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
発熱・嘔吐等 感染対応者数	15	2	2	0	1	0	3	23	
尿路感染(疑い) の発熱	5	0	2	0	0	0	2	9	
加療を要する外傷 (下段褥瘡)	162	22	10	18	25	12	18	267	157
	27	3	0	1	1	1	4	37	925
Ns付き添い 受診回数	4	0	1	0	0	0	0	5	71
(3) 特変緊急対応の回数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養	4	1	0	0	0	0	1	6	300
ショート ステイ	1	0	1	0	1	1	1	5	125
(2) 入院 ・ 退院 ・ 入退所者数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
入院者数	4	1	0	0	0	0	1	6	75
退院者数	4	0	0	0	0	0	1	5	83
退所・死亡者数	5	2	1	0	0	1	0	9	150
入所者数	5	1	2	0	0	1	0	9	150
(4) 医療診療件数(受診・往診)・診療人数									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
特養ショート 件数	182	38	49	38	38	38	33	416	103
特養ショート 人数	682	134	166	123	100	133	178	1516	111
(5) 研修受講状況									
	上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
外部件数	1	0	0	0	0	0	0	1	
外部人数	1	0	0	0	0	0	0	1	
内部件数	16	0	2	1	0	1	0	20	0
内部人数	43	0	8	3	0	3	0	57	0

以上

令和3年度魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

事業報告書

令和3年度 経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を」

今年度の経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を」の元、昨年度の感染防止対策を緩める事なく実施し、職員1人1人が感染予防の意識を持ち続けられる様、発信し、行動出来た。ただ、長く続くコロナ感染対策により、デイサービスのサービス内容に制限が多くあり、音楽療法や外部ボランティア、外出もなく、マンネリ化により、活気が失われつつあり。今一度、利用者様が何を求めているかを収集し、サービスの見直しを実施。又、音楽療法やボランティアの再開に向けて、動き出したが、再び感染拡大により、足踏み状態となってしまった。新規利用者獲得もそのような状況では中々上手くいかず、既存の多数の利用者様の入院や施設入所も重なり、利用者数減少へと繋がった。

1. 利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数 (目標差)	650名 (0)	651名 (-25)	663名 (-26)	671名 (-58)	640名 (-62)	634名 (-94)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	648名 (-80)	655名 (-47)	609名 (-67)	538名 (-62)	531名 (-45)	569名 (-65)

I. 今年度は、新型コロナウイルス感染予防の為、1日の受け入れ人数を最大32名までとし、1日の平均利用人数を27名、1ヶ月の利用人数690名を目標に、新型コロナウイルス発生以前の利用人数まで戻せるよう努めたが、新規利用者の減少。既存の利用者様の入院や施設入所等により、利用人数が落ち込み、去年より減少する事となった。

II. 利用者獲得やサービス充実に向けての具体的な取り組み

- ① 毎月1日は居宅事業所への訪問を行い、状況報告や空き情報等のチラシ配布等を行い、新規利用者獲得へ向けて、営業を行った。ただ、居宅事業所訪問の数が比較的利用経験のある事業所しか行けておらず、デイサービスの売り込み情報もマンネリ化していた為か、新規利用獲得増加へと繋がらず。訪問事業所の見直しと増加。そして、デイのサービス内容と売り込み内容の見直しを行った。同時に、各事業所ケアマネージャーに対し、こちらから積極的にどのようなサービスを求めているか、他デイではどのようにされているか

等、こちらから情報収集のやり取りを発信。いつでもご利用して頂ける様な、相談して頂ける様な関係性を築く事に力を入れた。

- ② 長く続いたコロナ感染対策の影響で、デイサービスにおける過ごし方やレクリエーション、利用時間等のサービスが限定、マンネリ化しており、活気が無くなっていた。その為、利用者様が求めているサービスと乖離しており、中々体験利用から契約へと繋がらなかった事もあり、10月、利用者様に向けて、デイサービスに何を求めておられるか等のアンケートを実施。それを元に、利用者様が何もする事がなく、つまらないという事にならない様に、楽しく、元気になれるデイサービスを目指し、様々な場面でのサービス見直しを検討、実施した。
- ③ 10月に行ったアンケートより、体操を行い身体を動かして元気になりたいとのご意見多数あり。今年度始めより体操を多めに取り入れてはいたが、職員によって取り組みにばらつきがあり。11月より、午前、16:00からの集団体操の他に、午後レク前に20~30分かけて「下肢筋力低下防止」「認知症予防」「ラジオ体操」を組み合わせ、「サンライフ体操」を毎日継続的に実施した。そして、それらの体操の取り組みを元気になれるデイサービスの取り組みとして、ケアマネージャーや利用者様等に薦めていった。

2. 感染防止対策

- I. 昨年度に引き続き、朝のお迎え時、乗車前に検温を行い、37.0℃以上ならば、感染予防の観点からご利用を中止させて頂く。また、自宅でも日頃の検温や体調観察を行って頂き、適宜家族様に向け感染症の注意喚起のお手紙を配布。体調不良時にはご利用を控えて頂く事と早めの受診を依頼する等行った。
又、来園時のうがい、手洗い、消毒とマスク着用の徹底。1日4回のフロア内消毒、送迎車内の換気、使用後の消毒も継続的に行った。
- II. 利用者様の病院退院後、2週間の経過観察の為の自宅待機については、デイサービスのご利用のし難さにも繋がっており、これまでのコロナ対応の経験も踏まえ、退院後3日間はデイサービス利用中の感染対応に変更。利用のしやすさへと変更を行った。
- III. これまで、音楽療法やボランティア等の外部の催し物等を中止にしていたが、パーティーや外部の方の体温測定等を行った上で、音楽療法を11月より再開。又、コロナ前よりボランティアとして活躍して頂いていたナルク様による整髪やお茶出し等も再開する為に、連絡し、募集をして頂いた。しかし、1月に再び感染が拡大し、再び中止となった。
- IV. 新型コロナワクチン1回目・2回目接種について、デイサービスをご利用されており、希望される方を対象に、5月、施設内で、利用者様54名のワクチン接種を実施した。3回目については、施設で新型コロナワクチン接種を実施する事が

出来ず。各自ご家庭にて行って頂く事となった。

- V. デイサービス内において、利用者様には新型コロナウイルス陽性者・濃厚接触者はいなかったが、職員が2月始めに1名陽性。家族の体調不良にて既に休んでおり、施設での発症ではなかった。2月末に1名濃厚接触者。家族が新型コロナウイルス陽性にて、7日間の自宅待機にて様子観察期間となったが、症状見られず。その後、出勤となった。

3. 人材育成、人材確保、資格取得

- I. 常勤、非常勤職員も長く働けるよう、業務改善や困り事等があれば合い、その場で話し合い改善を行える様に出来た。ただ、デイサービス全体の情報共有の場であるデイ職員会議を定期的に行う事が出来ず。方針の共有等不十分な面があった。
- II. 今年度は、介護支援専門員資格が2人。介護福祉士資格が1人合格した。

4. 行事・レクリエーション

- I. 今年度、行事については各部署内で行い、外出や外部ボランティア受け入れは再開出来ず。音楽療法を11～12月再開するも、再び中止となった。
 デイサービスについては、パーティション等の感染対策を行った上で、夏祭り週間や敬老会週間の催し物を実施し、ご利用者様に楽しんで頂いた。

5. 設備機器の整備、点検、デイ倉庫の整理等

- I. 月2回の循環配管高濃度洗浄と5・11月のバイオフィルム洗浄を実施。
 レジオネラ菌等を検出される事がないよう、こまめに消毒作業を行った。
- II. 厨房送風機潤滑油注油計画を3か月毎から6か月毎に変更となる。
- III. デイの物品を保管している和室内の整理を1月に行った。

6. 令和3年度利用者状況と収支状況

令和3年度利用人数（単位:人）

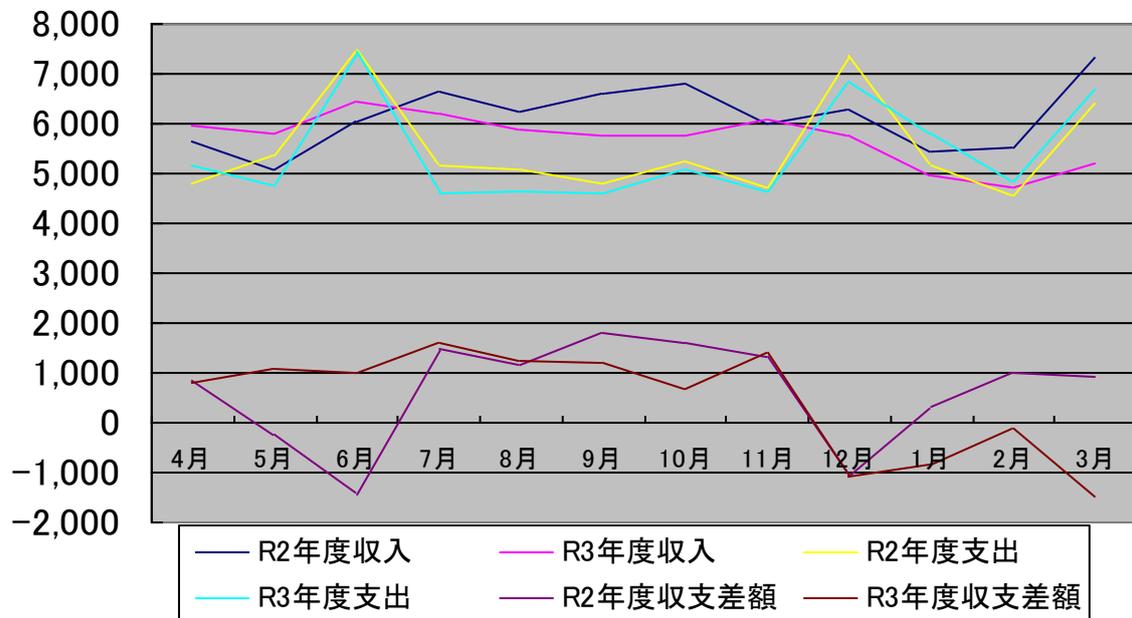
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
R2年度	月総計	607	582	657	704	674	704	
	日平均	23.3	22.3	25.2	26	25.9	27	
R3年度	月総計	650	651	663	671	640	634	
	日平均	25	25	25.5	24.9	24.6	24.3	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	月総計	725	635	668	579	587	681	7,803
	日平均	26.8	25.4	25.6	24.1	24.4	25.2	25.1
R3年度	月総計	648	655	609	538	531	569	7,459
	日平均	24.9	25.1	23.4	22.4	22.1	21.1	24

令和3年度 収入・支出 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	前年比
R2年度収入	5,646	5,087	6,059	6,633	6,227	6,598	36,250	-4,709
R2年度支出	4,814	5,343	7,493	5,151	5,076	4,786	32,663	-1,344
R3年度収入	5,955	5,808	6,440	6,201	5,865	5,774	36,516	-834
R3年度支出	5,169	4,742	7,456	4,620	4,634	4,589	31,210	-1,453
R2年度収支差額	832	-256	-1,434	1,482	1,151	1,812	3,587	-3,365
R3年度収支差額	786	1,066	-1,016	1,581	1,231	1,185	5,306	619
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
R2年度収入	6,811	6,010	6,266	5,458	5,540	7,356	73,696	-5,805
R2年度支出	5,229	4,709	7,365	5,149	4,549	6,446	66,110	-2,698
R3年度収入	5,770	6,063	5,744	4,970	4,716	5,199	68,510	-5,186
R3年度支出	5,074	4,647	6,824	5,818	4,853	6,710	65,136	-974
R2年度収支差額	1,582	1,301	-1,099	309	991	910	7,586	-3,107
R3年度収支差額	696	1,416	-1,080	-848	-137	-1,511	3,374	-4,212

※R2年1月はクリッパー（軽自動車）購入

収支比較グラフ (単位：千円)



以上

令和3年度フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

事業報告書

「コロナ感染防止で経営力強化を！」をスローガンに、感染予防対策に努めながら、コロナ禍による入居者様のストレス・認知症状の進行緩和の為、制限の中でできることを積極的に取り組み、認知症ケア・日光浴や散歩・体操・手作業等々「安心感・楽しみ・やりがい作り」をおこなった。上半期は入院・退居が続き、入居者様の確保が難しく稼働率が下がってしまったが、下半期は入院・入退居は1人でおさえられた。

1. 感染症予防対策と活力ある職場作り

- I 職員への注意喚起を都度おこない、手洗い・マスクの着用・消毒・換気の徹底（暑い・寒い時期は常時少量のみ窓を開け、約2.3時間おきに10分間の窓開放）・1日2回検温等を継続し、大病院受診時3日間の居室対応等、感染症予防対策に努めた。入居者様感染なし。感染疑い対応1名…大病院受診3日後喉の違和感があり。PCR検査したが陰性だった為、1日の感染対応で解除となった。
- II 職員3名コロナウイルス陽性（家庭内感染）。家族のみ感染2名。接触職員計8名のPCR検査を実施したが感染なし。職員の家族が体調不良や感染時フロア・居室等の全消毒を実施し感染予防に努めた。又、家族発症の時は7日間の自宅待機をお願いしたので、勤務体制が厳しくなったが全職員協力のもと乗りきった。
- III 入居者様全員及び職員がコロナワクチン予防接種を3回摂取。（1回目：5月・2回目：6月・3回目：2月）。重篤な副反応が出る事なく経過。
- IV コロナ発生を想定した動作や同線を見直し（扉から入りベランダから出る等）マニュアルを見直し、実践研修（防御服着脱）を8月と3月に実施し、職員の対策意識の強化に努めた。
- V 免疫力向上・健康維持・ストレス軽減の為、適度な運動や楽しみ作りを実施。日光浴や散歩・体操・歩行に努めた。
- VI 面会制限の為、Web面会を常時実施し、Web面会（148件）と電話で家族様とコミュニケーションを図れる機会を設け、毎月の手紙で日常のご様子の写真を掲載し、入居者様・家族様の不安や不満軽減に努めた。又、扉越し面会は、感染状況をみながら予防対策に努めつつ、7月8月に19件・10月～1月に44件実施し、交流して頂く機会を設けた。

2. 認知症ケア統一に向けての人材育成

- I 職員会議（年4回）で認知症研修を実施し認知症ケアの認識・ケアの統一に取り組んでいる。会議は感染防止の為、廊下で換気のもと間隔を開けて、数回に分けて実施した。
- II フロア会議・カンファレンスをこまめにおこない、認知症・個別ケアへの取り組みをおこない、職員の意識や取り組みも向上してきている。職員により若干、意識・理解のば

らつきがある為、認知症ケアについての意識を統一していくことが今後も課題。

- III 入居者様のストレス・認知症状の進行緩和の為、感染予防対策をしつつ、極力散歩・日光浴（青空喫茶・青空ランチ）廊下歩行・体操を積極的に実施している。筋力維持の体操（ポジティブ・ネガティブトレーニング）・季節の掲示物の作成等も全職員で積極的に取り組み、個々のできること、やりがい作りに取り組んでいる。
- IV R3年1月に入職したEPA職員は順調に業務を覚え、8月以降夜勤以外の勤務は独り立ち。1月から夜勤も独り立ち。急変時や事故の対応・連絡、電話対応等が今後も課題。
- V BPSD 評価を活用したアプローチが進んでいない為、実施していくことが課題。

3. 介護保険法遵守の為の進捗状況。

- I ケアプランは3ヶ月に一回見直し作成実施。コロナ感染症対策の為、家族様へは郵送している。居室担当者会議は毎月実施。
- II 認知症研修・職員会議はコロナ感染症対応等の為時期がずれたが、4回実施。身体的拘束適正化研修前期・後期全職員実施。
- III 運営推進会議は、11月は会議開催できたが、コロナ感染拡大防止の為、5回は書面上で報告・意見等返答頂く形での実施となった。

4. 利用者数

- I 上半期は入院3件・入退居3件と続き、新規者確保が困難となり1カ月以上の空室もでてしまった。転倒がきっかけで病状が悪化し入院を繰り返し退居となるケースも(9月～10月にかけて)あった。下半期は瞼の腫瘍除去手術の為約1カ月の入院があったが、その他入院・入退居は無かった。日頃より体調変化に注意し体調管理に努めると共に、事故予防対策に努め、入院件数減少に努めていきたい。
- II 家賃の値上がり予定や、コロナ禍出の面会制限等の影響もあり、見学者は多いが申込者が少ない。今後も他部署との連携をおこない、新規入居者の確保に繋げていきたい。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		480	496	480	496	496	480	496	480	496	496	448	496	5840
利用日数 (日)	R2年度	454	480	478	496	496	480	496	472	487	494	441	473	5747
	R3年度	451	465	475	496	488	459	480	480	496	483	434	496	5703
入院 (日)	R2年度	13	16	2	0	0	0	0	0	0	0	7	9	47
	R3年度	6	0	0	0	8	21	7	0	0	13	14	0	69
空室(日) (退居)	R2年度	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46
	R3年度	23	31	5	0	0	0	9	0	0	0	0	0	68
稼働率 (%)	R2年度	94%	96%	99%	100%	100%	100%	100%	98%	98%	99%	98%	95%	98%
	R3年度	94%	93%	99%	100%	98%	95%	97%	100%	100%	97%	97%	100%	97%

I. 入院4件…病気入院3件・骨折1件 II. 退居3件…家族と同居・入院2件 入居…3件

5. 要介護者の年齢・介護度

平均年齢 89 歳・平均介護度 2.0 (R4.3 月末)

6. 事故発生状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	R2 年度	3	3	0	1	1	1	1	1	0	3	0	1	15
	R3 年度	0	1	3	1	3	0	1	2	3	4	1	1	20
転落	R2 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	R3 年度	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
内出血 打撲	R2 年度	2	3	8	3	5	2	3	3	2	2	0	0	33
	R3 年度	0	2	0	1	0	1	0	0	2	2	0	0	8
擦り傷 裂傷	R2 年度	4	3	4	1	3	3	2	1	4	6	4	2	37
	R3 年度	3	5	1	3	0	0	1	1	1	1	0	1	17
異食 誤嚥	R2 年度	0	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0	2	7
	R3 年度	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
薬	R2 年度	1	0	1	0	1	1	0	2	3	0	2	2	13
	R3 年度	2	0	2	1	1	1	0	4	0	0	2	2	15
その他	R2 年度	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	4
	R3 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	R2 年度	10	9	15	5	12	7	7	8	11	11	9	7	111
	R3 年度	5	8	6	7	5	3	2	7	6	7	3	6	65

I 転倒…上腕骨折(ひび)疑い 1 件・肋骨骨折入院 1 件・腰椎圧迫骨折 2 件

II 異食…紅茶ティパック III 誤嚥…鶏肉

III 薬ミス…飲みこぼし 7 件・薬セットなし 1 件・朝と昼等の配薬間違い 4 件・飲み忘れ 3 件

7. 年間収支結果

単位（千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
令和2年度収入	5,105	5,207	5,268	5,565	5,555	5,267		
令和3年度収入	4,807	5,194	5,196	5,313	5,432	5,008		
令和2年度支出	4,899	4,878	5,385	5,173	5,632	4,833		
令和3年度支出	5,348	4,982	5,699	4,935	5,292	4,693		
令和2年度収支差額	206	329	-117	392	-77	434		
令和3年度収支差額	-541	212	-503	378	140	315	-	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
令和2年度収入	5,515	4,991	5,343	5,492	4,847	5,778	63,939	
令和3年度収入	5,309	5,232	5,737	5,612	5,282	5,843	63,972	33
令和2年度支出	5,182	5,268	7,811	5,695	5,456	13,514	74,338	
令和3年度支出	5,159	4,808	8,271	5,591	4,730	5,083	64,596	-9,742
令和2年度収支差額	333	-277	-2,468	-203	-618	-7,736	-10,399	
令和3年度収支差額	23	424	-2,484	21	552	760	-624	9,775

※減価償却費等は計上せず

- ・入院が4件、退居が3件あり、稼働率97%と低くなってしまった。
- ・介護用品、消耗器具費、保健衛生費が増加している。
- ・正職員の比率が高くなり、EPA雇用等もあり人件費が高くなっている。

以上

令和3年度 介護型ケアハウス サンライフ魚崎

事業報告書

「コロナ感染防止で経営力強化を！」をスローガンとし、昨年度に引き続き新型コロナウイルスへの感染症対策を徹底しながら、施設内で可能なレクリエーションや運動が計画的に実施できるように取り組んだ。入居者様においては感染対策の影響による体力・気力の低下は見られる事なくお過ごし頂けた。

1 1月に新しくEPA職員1名の受け入れを行い、相談員・リーダーで細目に進捗を見ながら業務指導を行った。今までの指導経験や先輩EPA職員の指導協力により、例年より早く業務を任せる事ができている。資格取得においては介護福祉士7名が受験、学習支援を強化し5名合格する事ができた。

1. 人材育成

- I. 昨年度に引き続き、必要と思われる職員を選定し、毎月もしくは2ヶ月毎に1回、相談員及びリーダーで面談を行った。業務の課題や悩みの聞き取り・アドバイス、振り返りを行い、職員の意識向上や課題解決を図った。
- II. EPA職員の学習指導については各年代、週1回午後2時間、相談員が中心となって学習指導を行った。介護福祉士国家試験を控えている年代においては、施設長が個別に週1回2時間程度、国家試験対策学習支援を追加で行った。
- III. 11月にEPA職員1名の受け入れを行った。今までの指導経験を活かしつつ、4年目・3年目のEPA職員も指導協力に入り、例年より早く業務を任せられるようになった。
- IV. 身体拘束・虐待防止等、法定研修をスケジュールに沿って行った。7月・1月に看護師が中心となり手順や手技の習得を目的とした感染症対策訓練を全職員に行った。不安の残る職員もいる為、今後も継続して研修が必要である。
- V. 介護支援専門員1名、介護福祉士7名が受験をし、介護福祉士5名が合格した。

2. 入居者様確保・感染防止

- I. 医師・看護師・介護職と日頃の連携を強化し早めの対応・対策、入院時には可能な限り病院・家族様と連絡を図った。前年度入院日数220日に対し今年度は152日と削減する事ができた。
- II. 空床日数は前年度118日に対し176日となった。4月～7月にかけて入居者様確保ができず、新規入居に至るまで時間を要してしまった。下半期は修正できたが常に4名程度の待機者を確保し、空床日数の削減に努めたい。
- III. 待機者は全員、相談員・看護師の2名で面接を行った。必要事項の共有に無駄がなくなり、円滑に入居できるようにしている。
- IV. 新型コロナワクチン接種を入居者様・職員共に1回目は6月、2回目を7月、3回目

を2月に実施した。翌日発熱等の副作用を考慮し、各回とも3日間に割り振り計画的に実施したが、入居者様・職員共に重大な副作用は見られることなく経過した。

- IV. 新型コロナウイルス対策で手洗い・うがい・換気の徹底を行っている。フロア・居室共に空調使用状況下でも可能な限り常時換気するよう努め、職員の休憩場所となる4階は特に換気を行った。8月に1名、10月1名、合計2名の職員のコロナウイルス陽性者が出たが、入居者様や他職員へ感染拡大することなく経過した。
- VI. 全職員が自身及び同居家族の体調に気を配り、特変がある場合は速やかに連絡を行うよう周知を行っている。職員は毎体温度チェックを行い、少しでも風邪症状があれば連絡の上、出勤を見合わせ、可能な限りPCR検査を行うよう連絡・調整を行った。家族が発症した時は職員に自宅待機7日間をお願いした。その為勤務の組み換えに苦慮する事も多かったが、結果的に施設内感染は発生しなかった。

3. 活力ある職場作り・業務改善

- I. 毎週、火曜日・木曜日の14時頃より体操・ケアハウス4階への散歩及び日光浴入居者様との簡単なおやつ作りを計画的に実施し、入居者様の楽しみやストレス緩和・体力維持向上に努めた。また毎日可能な限りサイクルペダルやスクワット歩行訓練や屈伸運動等を行っている。
- II. 朝食後に計算問題や塗り絵の提供、随時洗濯物干しや洗濯物たたみといった軽作業を可能な方をお願いし、役割作りや生活の張り合いに繋げた。
- III. コロナウイルス対策の一環で職員会議は行わなかったが、毎月1回、相談員・各階リーダーで会議を行い、情報共有及び伝達、相互相談の場とした。
- IV. 毎月、家族様へ入居者様・担当職員からの手紙の送付を継続して行っている。手紙は毎月、可能な方は直筆で手紙を書いて頂き、本人様の月替わりの写真と職員のコメントと共に、毎月お元気そうな様子を家族様に見て頂き、好評を頂いている。面会についてはウェブ面会を通年行った。またコロナウイルス流行状況を見て7月から8月及び10月から1月の間、一時的にケアハウス玄関での対面面会も行った。どちらの面会も10分程度の面会で職員が付き添いをしていた為、職員の役割分担に苦労したが、結果としてウェブ面会は年間延べ180件、対面面会は延べ184件となり入居者様・家族様の不安解消や喜びに繋がった
- V. 労働環境改善支援事業の申請を行い、離床センサー内蔵ベッド3台を購入した。

4. その他

- I. 手袋等の介護物品値段高騰、光熱費の増加、備品の修繕や新規交換といった支出を抑制する為、物品の節約、節電・節水、備品の慎重な取り扱いへの意識向上を図った。
- II. 重大事故については入院に至らない事故が7件、入院に至った事故が2件発生した。

5. 利用日数・稼働率・入院日数・外泊日数・入退所人数・看取り人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
--	----	----	----	----	----	----	----

日数	1,440	1,488	1,440	1,488	1,488	1,440	8,784
利用日数	1,385	1,432	1,415	1,425	1,451	1,434	8,542
稼働率	96.2%	96.2%	98.3%	95.8%	97.5%	99.6%	97.2%
入院日数	0	4	0	37	37	4	82
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	55	52	25	26	0	0	158
退居者数	1	1	1	1	0	0	4
新規入居者数	0	2	1	2	0	0	5
看取り人数	0	1	1	0	0	0	2
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	1,488	1,440	1,488	1,488	1,344	1,488	17,520
利用日数	1,488	1,436	1,458	1,459	1,344	1,465	17,192
稼働率	100%	99.7%	98.0%	98.1%	100%	98.0%	98.1%
入院日数	0	4	27	22	0	15	152
外泊日数	0	0	0	0	0	0	0
空室数	0	0	3	7	0	8	176
退居者数	0	0	1	1	0	1	7
新規入居者数	0	0	1	1	0	1	7
看取り人数	0	0	0	1	0	1	4

5. 年間収支結果

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	前年度比
令和2年度収入	19,237	18,968	19,421	19,923	21,250	19,207	118,006	
令和3年度収入	18,899	19,696	18,848	19,727	20,846	19,320	117,336	-670
令和2年度支出	14,996	14,052	25,264	14,902	14,168	13,359	96,741	
令和3年度支出	15,951	13,974	26,113	13,465	13,622	12,885	96,010	-731
令和2年度収支差額	4,241	4,916	-5,843	5,021	7,082	5,848	21,265	
令和3年度収支差額	3,104	5,673	-7,107	6,161	7,162	6,337	21,330	5,769
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
令和2年度収入	19,318	18,686	20,630	20,939	18,379	22,573	238,531	
令和3年度収入	20,186	19,857	20,785	21,056	18,948	20,989	239,157	626
令和2年度支出	15,019	13,713	26,283	15,232	13,867	14,171	195,026	
令和3年度支出	15,102	12,666	24,635	15,065	13,339	13,855	190,672	-4,354
令和2年度収支差額	4,299	4,973	-5,653	5,707	4,512	8,402	43,505	

令和3年度収支差額	5,084	7,191	-3,850	5,991	5,609	7,134	48,485	4,980
-----------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	--------	-------

※減価償却費等は計上せず

※収入は令和2年度と比べ62万円の増収、支出は435万円の削減、収支差額は約500万円プラスの結果となった。4月～7月にかけて入居者様確保に苦慮したのが反省点である。支出は削減されているが、これから物価高騰に向けて無駄の削減や備品を大切に使用する等をして支出を抑制していく必要がある。

以上

令和3年度介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

事業報告書

<スローガン>「感染防止で経営力強化」

1. 令和3年度受診・往診・入院・救急・看取り件数等

月	往診 件数	受診 件数	入院 件数	救急 件数	看取り 件数	薬管理 件数	入居数	退所	入所
4月	100	16	0	1	1	46	46	1	0
5月	98	11	1	0	1	47	47	1	2
6月	154	10	0	0	1	47	47	1	1
7月	164	9	39	0	0	46	46	1	2
8月	123	8	1	0	0	47	47	0	0
9月	137	10	0	0	0	48	48	0	0
10月	141	5	0	0	1	47	47	0	0
11月	127	8	1	0	0	47	47	0	0
12月	128	8	2	0	0	48	48	1	1
1月	109	6	1	1	1	48	48	1	1
2月	160	5	0	0	0	48	48	0	0
3月	137	10	2	1	1	46	46	1	0
合計	1578	106	11	3	5	566	566	7	7

2. 令和3年度 看護業務の総括

多職種と連携し、昨年度の引き続き新型コロナウイルス感染対策を最優先に、入居者様の健康管理を行った。

1) 入居者様の健康管理

- ① 入居希望者様の面接へ相談員に随行して医療的な状態の把握やアセスメントを行い、安心して入居して頂く事が出来た。
- ② 各担当フロアの巡回を3名の看護師が行い、日中の入居者様の体調を確認し、発熱等の予兆がある方には事前に開田医院と連携し、早めの処方を施行することに努めた。定期往診時には入居者様の体調状態をできるだけ克明に報告し指示を仰いだ。また、急変時には速やかに開田医師に連絡し指示に従って対処した。

- ③ 本年も、看護主任は毎月主治医に医療連携報告書を提出し、開田医師との医療情報の確認に努めた。
- ④ 昨年に引き続き、入居者様の健康状態変化時や往診後に3名の看護師による医務室カンファレンスを実施し、看護師間で情報共有を行った。医師からの指示変更等あった時には、介護職員にも分かりやすいように伝達するように努めた。
- ⑤ 感染防止対策を施行中も、口腔衛生管理体制加算算定に基づき、定期的に歯科検診と口腔ケアを行って頂いた。

2) 入院件数について

昨年と同件数11件起きた。そのうち、転倒して大腿骨骨折等の骨折事故が2件起きた。また、内臓疾患や肺炎の疑いによる入院が9件発症した。

3) 感染対策

2年目の新型コロナウイルス流行に対して、特養やショートステイ・デイサービス・グループホームなどの施設と力を合わせ感染防止対策に努めた。入居者様と家族様との面会も玄関で、感染が少し和らぐ時期に窓越しに行った。開田医師による訪問受診や外部受診についても、可能な限り通常通り行った。現在まで感染者はゼロであり、今後も継続していくよう引き続き感染対策を行っていく。

対面面会：10/1～11/13 12/27～1/10 この期間以外は、WEB面会を続行し、入居者様とご家族とのコミュニケーション確保に努めた。

また、6/12～7/13にかけて開田先生による入居者様・職員のファイザー製ワクチン接種2回を、3回目は2/10～2/24に完了した。

4) 虐待防止・身体的拘束防止について

感染防止上、多数の職員が一堂に集まって虐待防止研修・身体的拘束防止研修を受けるのは好ましくないため、3人から4人のグループに分かれて討議を行い、それぞれが前期・後期2回のレポートをまとめた。

5) 看護職員の健康管理について

看護師3名でオンコールを分担し、お互いに協力し、緊急時以外は残業しないように努めた。年次有給休暇、生活年休は取れたが、新型コロナ感染が地域で拡大する中で連続リフレッシュ休暇は取ることが出来なかった。

以上

令和3年度 サンライフ魚崎（厨房）

事業報告書

今年度、ささゆり会の経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を！」を実現するため、継続して、厨房職員の人材育成・職場環境改善を重点に置き、初心に戻り安心・安全・美味しい食事提供に向けた指導方法の見直しを行った。9月に本館・ケアハウス一括調理開始や食器乾燥機修理、2月に温冷配膳車更新・大幅な早朝業務内容の変更を行った。長期化している新型コロナウイルスや天災の影響を大きく受けながらも、前年度と比較すると、2,855,365円（一人当たり平均15円減額）コスト削減となった。

1. 人材育成方法・業務の見直し

今年度は9月から本館・ケアハウス一括調理を開始し、大幅な厨房業務を変更した。まず、効率よく業務が行えるよう、厨房職員に意見を募り、共に検討しながら、最新の基礎的業務マニュアルを再作成し、厨房職員全員に配布・周知を行った。統一された業務遂行・指導が行えるよう整備を行い、最低必要人員増加の検討も行った。また、2月に設立から使用していた温冷配膳車の更新を行った。食膳数を減らした温冷配膳車の更新となり、早出業務過多が予想された。それに伴い、人材確保の困難が懸念される早朝早出業務の6時勤務・7時勤務の2人体制を7時勤務の2人体制とし、朝食内容・業務内容・提供時間等を熟考し、早出業務を一新した。可能な範囲で早出業務の負担を日勤・遅出業務に振り分け、日勤・遅出業務全体の見直しも行った。今後も随時、効率良い業務が行えるよう、業務内容の更新を行い、必要に応じて新調理システム導入の有無の検討も行う。

2. 厨房設備機器の更新・改修の検討

長期使用による厨房設備の老朽化が見受けられる。随時、必要に応じて本部長代理・施設長・事務長・管理栄養士で厨房設備の更新・改修の検討を行った。

① 温冷配膳車の更新

2月に温冷配膳車36膳・54膳の更新を行った

② 食器乾燥機の更新

9月に電源不良の修理実施、10月に劣化のひどいパッキン交換実施

③ 各冷蔵庫・冷凍冷蔵庫の更新・改修

既存冷蔵庫・冷凍冷蔵庫は修理・更新せず、8月に冷凍冷蔵庫の増設を行った

※既存冷凍冷蔵庫1台、故障により5月更新予定（部品終盤の為、修理不可）

④ 異臭・害虫（コバエ等）の原因となる排水側溝の改修

⑤ 長期使用の食器・器具等（鍋・ケトル・業務用レンジ・水質検査薬）の更新

④⑤今後、随時、検討

3. 介護報酬改定に伴う検討

今年度、介護報酬改定に伴い、新設された栄養マネジメント強化加算の算定は管理栄養士が給食業務を主とし、適切な栄養管理業務を行う見通しが立たず、算定要件を満たしていない為、算定を開始する事は出来なかった。来年度は4月に常勤管理栄養士1名の入社があり、適切な栄養管理業の実施が可能となる。随時、育成状況を勘案し、栄養マネジメント強化加算算定の開始の検討を行う。

3. コスト削減・今後の検討

世界中で終息の兆しが見えない新型コロナウイルスの影響、天災による作物不良等が続き、毎月、様々な食材価格が高騰している現状である。主仕入先2社と、随時、食材の品質・価格・旬の食材の仕入れ等を相談し、安全・良質で、安価な食材確保に努めた結果、今年度は前年度と比較し、約280万円減額(1人当たり平均15円減額)となった。来年度はコスト削減が極めて厳しいと予想される為、近隣業者に変更前の令和元年度食材料費36,000,000円を超えないよう、随時、検討を行う。

〈R3年度 食材料費実績〉(円)

	R3年度	R2年度	増減(%)
4月	2,604,356	2,797,983	-6.9
5月	2,597,706	2,974,383	-12.7
6月	2,619,196	2,851,858	-8.2
7月	2,602,735	3,075,795	-15.4
8月	2,498,633	3,122,342	-20
9月	2,485,021	3,004,836	-17.3
10月	2,391,345	2,742,409	-12.8
11月	2,486,969	2,368,652	+5.0
12月	2,680,238	2,759,205	-2.9
1月	2,618,653	2,420,348	+8.2
2月	2,291,239	2,271,965	+0.8
3月	2,546,450	2,888,130	-11.8
合計	30,422,541	33,277,906	-8.6

※昨年度比較、2,855,365円減額

〈R3年度 1食当たりの平均金額〉(総額/延べ食数)(円)

	R3年度	R2年度	増減(%)
4月	192	213	-9.9
5月	187	217	-13.8
6月	192	210	-8.6
7月	189	217	-12.9

8月	183	220	-16.8
9月	189	218	-13.3
10月	174	197	-11.7
11月	185	176	+5.1
12月	196	201	-2.5
1月	192	176	+9.0
2月	184	183	+0.5
3月	190	212	-10.4
平均	188	203	-7.4

※昨年度比較、一人当たり 15 円減額

※小数点以下、四捨五入

以上

令和3年度 サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

事業報告書

今年度の法人スローガン「コロナ感染症防止で、経営力強化を」副題、全職員が認知症ケアの専門家をめざそうに沿って、また、2021年4月に介護報酬改定にのっとり、前年度より続いている赤字をできるだけ単年度では解消するよう進めてきた。その結果、一人当たりの担当者数が大幅に増え、単年度の事業活動収支が黒字となった。現在、正社員ケアマネ3名+非常勤認定調査職員1名の体制をとっています。

I、感染症や災害への対応力強化

- ① 感染症が発生した場合を想定して、あんしんすこやかセンター看護師からコロナ対策着脱の指導を受ける。感染者の疑いがある方の訪問時にマニュアルをもとに実施することができた。全員で保管場所を確認している。
- ② 災害時が発生した際に、すぐに担当利用者様の連絡先を把握するために、一覧表を作成した。

II、居宅介護支援サービスについて

- ① 神戸市ケアプランチェックを受け、実績報告書を提出した。(8月31日)
- ② 神戸市実施指導前自己点検シート提出をした。(10月20日)
- ③ 退院・退所時カンファレンスには福祉用具専門相談員等を参画してもらっている。
- ④ 生活援助の訪問回数が多い利用者はいない。
- ⑤ 看取り期の事例はないが、その相談があった場合には、相談を受け、モニタリングの評価を行い、本人の意志尊重に努めている。
- ⑥ 研修の実施、コロナ禍における、ズームでの研修ができるようになったため、積極的に研修へ参加できるように計画を立てて、実施しました。
- ⑦ コロナの流行状況に対応して年間通じて感染対応に努めた。
- ⑧ 他市町村からの認定調査依頼はできる限り受託した。

III、研修受講結果

- R3. 6. 2 kobe 見守りヘルパー事業の制度理解と神戸モデルの現状 島田 (ズーム研修)
- R3. 8. 18 魚崎北部あんしんすこやかセンター事業者連絡会 岩佐 (ズーム研修)
- R3. 10. 6 認定調査員新規研修 倉品
- R3. 10. 8 同 上
- R3. 10. 13 魚崎南部あんしんすこやかセンター事業者連絡会 岩佐
- R3. 11. 12 高齢者虐待と対応について 岩佐 (ズーム研修)
- R3. 1. 25 東灘区在宅医療塾 訪問診療の取り組みを学ぶ 倉品 (ズーム研修)

R3. 11. 26 スキルアップセミナー 島田 (ズーム研修)

IV. 活動結果

○利用者数 (介護・予防)

単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度 実績	介護	53	56	61	67	64	66	72	75	79	76	80	82	831
	予防	1	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	25
R3年度 計画	介護	85	85	85	90	90	90	95	95	95	100	100	100	1,110
	予防	10	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	99
R3年度 実績	介護	86	85	87	85	84	82	86	92	93	94	93	98	1,065
	予防	15	17	18	18	20	19	19	19	18	18	19	20	220

○事業活動収支差額 (介護支援費・予防支援費・認定調査費、等)

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R2年度 収入実績	708	773	771	1,193	776	1,204	5,425
R3年度 収入実績	1,237	1,213	1,287	1,215	1,320	1,154	7,426
R2年度 支出実績	1,338	1,413	1,386	1,459	1,413	1,411	8,420
R3年度 支出実績	1,442	1,074	1,302	991	1,408	1,351	7,568
R2年度 収支差額	-629	-640	-615	-267	-636	-207	-2,994
R3年度 収支差額	-204	139	-14	224	-87	-197	-139
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度 収入実績	974	1,039	1,071	1,048	1,159	2,290	13,008
R3年度 収入実績	1,547	1,461	1,625	1,344	1,568	1,450	16,473
R2年度 支出実績	1,752	1,468	2,992	1,549	1,129	1,667	18,978
R3年度 支出実績	1,541	1,159	2,324	1,201	1,176	1,121	16,091
R2年度 収支差額	-778	-428	-1,920	-501	29	624	-5,969
R3年度 収支差額	6	302	-700	143	392	378	382

○認定調査委託料収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R2年度実績	122	117	99	86	89	76
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	99	163	87	95	217	124

令和3年度は、利用者数が98人/3月に増え、令和2年度に比べ収入も346万円増加となった。人員減となり、支出が290万円減となった。その結果、計画通り単年度黒字が達成できた。

以上

令和3年度 事業報告書

地域包括支援センター

魚崎北部あんしんすこやかセンター

経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を！」

サブ「全職員が認知症ケアの専門家をめざそう」

2021年度も、コロナ禍の緊急事態宣言や蔓延防止制度などで、イベント開催が困難で、コロナ禍を考慮して企画したが、延期や開催方法など見直しが必要となった。

昨年延期となった、認知症の人の問題行動で地域の困りごとをロールプレイして、どう対応したらよいか認知症の人の対応を地域で考える企画を、今年度実施できた。また今年度は、魚崎北町、甲南町、北青木に分けて分析し地域にアプローチをしている。魚崎北町の高齢化率の高いマンションや地域にセンターとフレイル予防支援事業のチラシを全戸配布したことで、フレイル予防の企画に参加者あり。また全戸配布したところからの相談が増えている。

一年を通じて、虐待や困難事例の相談が多かったが、随時情報共有し対応検討し、迅速かつ素早くチームワークを発揮して実践できた。医療に繋がっていなかった方を、医療に繋げる事ができ、一命をとりとめた方が2名おられた。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

・7月：老人会発行の高齢者虐待防止のパンフレットを地域密着型の施設の運営推進会議にて配布。説明・広報した。

・6月～7月：魚崎プラザ・元気いきいき講座・地域ケア会議・介護リフレッシュ教室・給食会・地域の居場所を通じて、特殊詐欺・消費者被害に対する注意喚起を行った。

・銀行協会の取り組み（口座名義人の高齢者が認知症であることを行員が分かっているも、本人の介護のために使用するお金であることが明確なら、家族が引き出すことが可能となる。）について、チラシを相談者に配布、説明した。

・1月：圏域周辺の金融機関（三井住友銀行・みなと銀行・郵便局2か所）に挨拶をし、消費者被害防止や認知症の方の金銭管理についてのセンターの役割を広報し、消費者被害防止の広報について協力して行うこともできることを伝えた。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進(助成金今年度よりなし)

・7/21：第1回目「お魚の会」兼「地域ケア会議」合同開催。参加者16名。

・介護予防普及啓発事業（神戸市年間 80 万円委託料あり）

7/7：横屋会館にて、シンコースポーツ様を招聘し、「フレイル対策健康セミナー」を実施。参加者 10 名。

3. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議の推進。（神戸市から 1 回に付 6,000 円委託料あり。）

・7/21：第 1 回目「地域ケア会議」兼「お魚の会」合同開催。参加者 16 名。

「近所の人認知症になったら何が出来る？」のテーマで認知症の人の対応で地域での困りごとをお聞きし、ゴミ出しの 2 事例を寸劇にして見て頂き、認知症の人への支援についてグループワークを行った。「認知症の人の事を理解し、地域みんなで助けていければなあ。ご家族様の理解も必要だなあ。」という意見が出た。

・11/17 第 2 回目「地域ケア会議」架空事例

「50 歳らしい生活取り戻すために～地域でどのように関わったら良いか～」をテーマの架空事例による事例検討会を行った。つどい場に行く事ができて、障害サービスも受けられる等が情報共有でき、事例提供者は、「色々な社会資源を教われた、専門職と繋がれた」と喜んでおられた。

・3/10 第 3 回目「地域ケア会議」個別事例

「介護保険でできることはほんの一部」というテーマで、初めて、ご本人及びご家族に参加頂けた事で、より具体的な話や意見を伺う事ができた。専門職の方々からも色々な意見が聞け、ご本人ご家族から「周囲はどういう事ができる。自分たちは何をしたら良いのか」という事を整理する事ができ、気持ちが楽になった」という感想が聞けた。

・8/18：事業者連絡会開催「東灘障害サポートマニュアル」

「銀行協会の取り組み、特定商取引法改正」

「予防プランのチェック」について。参加者 11 名。

・包括的継続的ケアマネジメント（ケアマネ等支援）

ケアマネ等支援の為の連絡会、研修会を、コロナ過の中 ZOOM で開催できた。

東灘区あんしんすこやかセンター合同主催にてケアマネ支援の立場から研修会実施。

・6/2 認知症「神戸モデル」について「見守りヘルパー」について

・8/27 医療介護連携を学ぶ研修会

・10/27 感染症予防につながる口腔ケア

・2/2 障害者福祉を勉強しよう！（障害者の就労について）

4. 単身高齢者・老々世帯の孤立化を防ぎ、地域に出かけていけるように。地域支え合い推進員の地域での見守りと居場所づくりの推進。

・「魚崎つどいばめぐり」は魚崎南部あんしんすこやかセンターと共同し事前打ち合わせを 12 月 8 日開催し、12 月 14 日「ボランティア交流会」を開催し 18 団体、行政など総勢 39 名参加した。感染予防してつどい場を開催できる方法を楽しんで頂けた。

- ・地域活動の「かしまし処」「らくらく体操」「UMEのつぶやき」「ぽっぽくらぶ」「Let's ゴー体操」「うおぎご近助さん」「東灘こどもカフェ」の後方支援を実施。「川井喫茶」「サロンさかなちゃん」「西青木映画会」はコロナ禍の中、開催はされておらず聞き取りや相談対応をした。
- ・法人事業として、「ふれあい喫茶カフェ魚崎」はコロナ感染予防の為令和3年度は中止とした。
- ・ **介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高 36 万円委託料あり。**
- ・介護者を対象にした介護リフレッシュ教室企画開催
 - 5/26：「住吉川散策と櫻正宗記念館内散策」は緊急事態宣言で延期。
 - 7/28：「コロナ禍における体の変化」講義と質問 5名参加。
 - 10/13：「フラワーアレンジメント」8名参加。
 - 12/15：「おしゃべり散歩と櫻正宗記念館見学」4名参加。
 - 2/23：「バレンタインミニコンサート 弦楽アンサンブル」 蔓延防止にて延期。
 - 3/16：「写真を持ち寄り自分話でリフレッシュ」 3名参加。
 コロナ禍でも楽しんでリフレッシュしていただける企画を準備し取り組んだ。

5. コロナ感染予防対策実施

- ・職員各自で、法人の感染対応マニュアルに沿った生活で健康管理に努めた。体調不良時は、出勤前に報告し勤務を検討した。
- ・訪問に関しても、事前に相手の体調確認し、アルコール消毒用スプレーボトル、フェイスシールド、感染対応グッズを全職員が携帯し、感染対応で訪問を実施した。
- ・施設での面談時は、換気の為窓は開けたままで、仕切り版のある面談室を利用しフェイスシールドを装着し、出来るだけ短時間で行なった。
- ・イベント開催の時間短縮、人数制限、常時換気、手指消毒、デスクや椅子等消毒、開催前の全員検温、マスク装着、グループワーク時はフェイスシールド装着、マイク使用者毎の消毒など企画時より検討し実施した。
- ・つどい場の後方支援として、コロナ感染予防対策の相談に応じ、飲食をしない等感染状況に応じた神戸市の指針に従い、つどい場を開催して頂いた。

6. 介護予防マネジメント 総合相談支援

令和4年3月末現在、サービス利用者 191 件（受託 139 件、委託 52 件）（前年比 86%）委託割合 27%。委託事業者（当法人含む）契約件数 18 件。介護予防支援 137 件。総合事業 54 件。新規件数 66 件。要介護に移行した件数 33 件。中止件数 52 件。

※R3.4～田中町 3, 4, 5 丁目が本山西部に移行の為、全般的に担当件数が減ったが、R3, 4 と比べ利用者が 10 件増えた。

表.1 R3年度 収支報告 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	前年度比
① 前年度収入	802	9387	801	844	8697	817	21351	
② 今年度収入	659	9251	668	671	8634	762	20647	-704
③ 前年度支出	2126	2104	3396	2355	2114	2128	14225	
④ 今年度支出	2150	2040	4022	2023	2049	2000	14287	+62
⑤前年度収支差額	-1324	7283	-2595	-1511	6583	-1311	7125	
⑥今年度収支差額	-1491	7211	-3354	-1352	6585	-1238	6361	-764
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
① 前年度収入	833	849	8679	790	804	810	34118	
② 今年度収入	738	728	8699	688	739	705	32948	-1170
③ 前年度支出	2082	2123	4089	2305	1962	4771	31559	
④ 今年度支出	2101	2057	3736	2263	1945	2159	28551	-3008
⑤前年度収支差額	-1249	-1274	4590	-1515	-1158	-3961	2558	
⑥今年度収支差額	-1363	-1329	4963	-1575	-1206	-1454	4397	+1839

*5月 8月 12月 神戸市の委託料収入あり

今年度収入は減ったが、支出はそれ以上に減らすことができ、今年度の収支差額は昨年度よりプラス増加できた。

以上